2025年度 経済学部 履修の手引　変更履歴

更新日	頁	変更前	変更後	備考
2025/03/31	4	—	歴史文化論演習a･b	休講科目の追加
2025/03/31	5	—	歴史文化論演習a･b	休講科目の追加
2025/09/17	4	—	マスコミ特殊講義Ⅰ	休講科目の追加
2025/09/17	5	—	マスコミ特殊講義Ⅰ	休講科目の追加

Seijo University

2025 ACADEMIC GUIDE

Faculty of Economics

履修の手引

経済学部

経済学科　経営学科

※「電子ブックの使い方」はこちらを参照すること。
※やむを得ない事情により、記載内容が変更される場合がある。
その場合、記載内容を修正するとともに、
LiveCampusU等で周知するので、必ず確認すること。

成城大学

経済学部　履修登録等に関する日程一覧

■ 学年暦

日程等		行事
前期	４月２日(水)	入学式
	４月８日(火)	前期開講
	４月29日(火)【昭和の日】	**授業実施**
	５月10日(土)	**振替授業実施（月曜日の授業を行う）**
	６月27日(金) ※５時限のみ休講	全学総会
	７月21日(月)【海の日】	**授業実施**
	７月22日(火)	前期授業終了
	７月23日(水)～７月30日(水)	学期末定期試験期間
	８月１日(金)～９月21日(日)	夏季休業
後期	９月22日(月)	後期開講
	９月23日(火)【秋分の日】	**授業実施**
	10月13日(月)【スポーツの日】	**授業実施**
	10月17日(金)～10月19日(日) ※17日(金)、18日(土)は休講	四大学運動競技大会
	10月25日(土)	**振替授業実施（金曜日の授業を行う）**
	11月１日(土)	文化祭準備（休講）
	11月２日(日)～11月３日(月)	文化祭
	11月４日(火)	文化祭後片付け（休講）
	11月８日(土)	**振替授業実施（月曜日の授業を行う）**
	11月24日(月)【振替休日】	**授業実施**
	12月25日(木)～2026年１月７日(水)	冬季休業
	１月８日(木)	授業開始
	１月20日(火)	後期授業終了
	１月21日(水)～１月30日(金)	学年末定期試験期間
	２月６日(金)～３月14日(土)	春季休業
	３月23日(月)	学位記授与式（卒業式）

■ 卒業論文

行事	日程等
題目届提出期間 ※提出場所：指導教員の指示に従い、指導教員宛に提出すること	10月１日(水)～10月31日(金)
卒業論文提出期間 ※提出場所：WebClass上の指定されたコース	12月１日(月)～2026年１月16日(金) 16:30

■履　修

行　　事		日 程 等
抽選登録期間		４月２日(水)　9:00～４月４日(金) 16:00 ※抽選登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
抽選結果発表（自動登録）日時		４月５日(土)　12:00（予定）
履修登録期間開始 ※４月14日(月) 13：00までに一旦履修登録を行い、15日(火)以降に再検討を行うことが望ましい。		４月５日(土)　12:00～ ※履修登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
受講者数調整のための履修登録中断期間 （中断前に登録されていた受講者を対象に受講者数調整）		４月14日(月) 13:00～４月15日(火) 9:00
履修登録期間終了	3・4年次	～４月17日(木) 13:00
	1・2年次	～４月18日(金) 13:00
後期に抽選を行う科目の抽選登録期間		９月16日(火)　9:00～９月18日(木) 13:00
後期に抽選を行う科目の抽選結果発表		９月19日(金)　9:00（予定）
後期開講科目の履修削除および追加履修登録期間		９月19日(金)　9:00～９月26日(金) 13:00
他学部聴講申請書提出期間	前　　期	４月５日(土)　12:00～４月18日(金) 13:00
	後　　期	９月19日(金)　9:00～９月26日(金) 13:00
成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する成城大学経済学部在学生のための科目等履修生制度		
出願期間		４月２日(水)～４月７日(月) 16:30
面接日		４月８日(火) 12:20～ （集合12:15　3号館4階 経済学部研究事務室）
審査結果発表日		４月９日(水) 10:00（LiveCampusU）
受講手続期限		５月16日(金)

■教職課程

行　　事	日 程 等
教職課程ガイダンス（1年次）	日程等はLiveCampusUにて周知する
教職課程登録説明会（1年次）	2026年３月開催予定
教育実習校開拓ガイダンス（2年次）	12月頃開催予定
教育実習事前ガイダンス（3年次）	11月頃開催予定
教育実習直前ガイダンス（4年次）	４月８日(火) 18:00～
介護等体験登録説明会	10月頃開催予定
介護等体験事前ガイダンス	オンラインで実施予定。詳細はLiveCampusUにて周知する。
介護等体験直前ガイダンス	７月頃開催予定

経済学科　2025年度休講科目一覧

■ 専門科目

授業科目	区　分
経済史入門A	専門科目　専門基礎選択科目
数理経済学A・B	専門科目　専門選択科目
経済変動論A・B	
産業組織論Ⅰ・Ⅱ	
金融論Ⅱ	
社会キャリア論A・B	
日本経済論B	
世界経済事情B	

授業科目	区　分
経済地理学Ⅰ・Ⅱ	専門科目　専門選択科目
英経済書講読Ⅰ・Ⅱ	
中国経済書講読A・B	
比較制度論A・B	
応用経済学特別講義B・D	
経済史特別講義B	
社会問題特別講義A・B	

■ 自由設計科目

授業科目	区　分
証券市場論Ⅰ・Ⅱ	自由設計科目　推奨科目 専門選択関連科目
生産管理論Ⅰ・Ⅱ	
企業論Ⅰ・Ⅱ	
消費者行動論	
マーケティング・サイエンス	
サービス・マーケティング論Ⅱ	
ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	
流通論	
デジタル・マーケティング	
税務会計論Ⅰ・Ⅱ	
国際経営論Ⅰ・Ⅱ	
公企業論Ⅰ・Ⅱ	
交通論Ⅰ・Ⅱ	
貿易論Ⅰ・Ⅱ	
リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ	
中小企業論Ⅰ・Ⅱ	
TOEFL a・b	自由設計科目　推奨科目 教養科目
政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	
図書館活用法	自由設計科目　推奨科目 全学共通教育科目
情報社会論入門a・b	
宗教学入門a・b	
文化人類学入門a・b	
空間システム論入門a・b	
Academic Skills VA・VB	
European Studies A・B	
North American Studies A・B	
Japan Studies ⅠA・ⅠB・ⅡA	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	
海外短期研修（マレーシア･就業体験研修）	
日本語（中級）Ⅱ	
日本語（上級）ⅣA・ⅣB	
データアナリティクス応用	
数理科学応用a・b	

授業科目	区　分
データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2022年度以降入学者 自由設計科目　推奨科目 全学共通教育科目
データサイエンス特殊講義Ⅰ・Ⅳ	
機械学習応用	
英文多読a・b	自由設計科目　一般科目 全学共通教育科目
総合講座Ⅰ・Ⅳ	
特別講座Ⅰ・Ⅱ	
成城学Ⅱ・Ⅴ	
現代社会論Va・Vb・Ⅵa・Ⅵb・Ⅷa・Ⅷb	
社会構造論Ⅲa・Ⅲb	
思想・人間論Ⅲa・Ⅲb	
文学入門a・b	
表象文化論入門a・b	
表現文化論Ⅰa・Ⅰb	
歴史文化論Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
歴史文化論演習a・b（3/31 更新）	
地域空間論Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Va・Vb	
物理の世界a・b	
科学史a・b	
自然科学Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
数理・自然科学演習a・b	
心身論Va・Vb	
テニス（C）	
サイクル・スポーツ（C）	
アクアエクササイズ（A）・（B）	
フィットネス（A）・（B）	
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	自由設計科目　一般科目 他学部開設科目
国語国文学講義Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ	
芸術学特殊講義Ⅱ	
マスコミ講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	
コミュニケーション講義Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ	
マスコミ特殊講義Ⅰ（9/17 更新）	
短期学外演習	

経営学科　2025年度休講科目一覧

■ 専門科目

授業科目	区　分
証券市場論Ⅰ・Ⅱ	専門科目　専門選択科目
生産管理論Ⅰ・Ⅱ	
企業論Ⅰ・Ⅱ	
消費者行動論	
マーケティング・サイエンス	
サービス・マーケティング論Ⅱ	
ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	
流通論	

授業科目	区　分
デジタル・マーケティング	専門科目　専門選択科目
税務会計論Ⅰ・Ⅱ	
国際経営論Ⅰ・Ⅱ	
公企業論Ⅰ・Ⅱ	
交通論Ⅰ・Ⅱ	
貿易論Ⅰ・Ⅱ	
リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ	
中小企業論Ⅰ・Ⅱ	

■ 自由設計科目

授業科目	区　分
経済史入門A	自由設計科目　専門関連科目 経済学関連科目
数理経済学A・B	
経済変動論A・B	
産業組織論Ⅰ・Ⅱ	
金融論Ⅱ	
社会キャリア論A・B	
日本経済論B	
世界経済事情B	
経済地理学Ⅰ・Ⅱ	
英経済書講読Ⅰ・Ⅱ	
中国経済書講読A・B	
比較制度論A・B	
応用経済学特別講義B・D	
経済史特別講義B	
社会問題特別講義A・B	
TOEFL a・b	自由設計科目　教養科目 経済学部開設・教養科目
政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	
英文多読a・b	自由設計科目　教養科目 全学共通教育科目
図書館活用法	
総合講座Ⅰ・Ⅳ	
特別講座Ⅰ・Ⅱ	
成城学Ⅱ・Ⅴ	
現代社会論Va・Vb・Ⅵa・Ⅵb・Ⅶa・Ⅶb	
情報社会論入門a・b	
社会構造論Ⅲa・Ⅲb	
宗教学入門a・b	
思想・人間論Ⅲa・Ⅲb	
文学入門a・b	
表象文化論入門a・b	
表現文化論Ⅰa・Ⅰb	
歴史文化論Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
歴史文化論演習a・b（3/31 更新）	

授業科目	区　分
文化人類学入門a・b	自由設計科目　教養科目 全学共通教育科目
空間システム論入門a・b	
地域空間論Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Va・Vb	
物理の世界a・b	
科学史a・b	
自然科学Ⅳa・Ⅳb・Va・Vb	
数理・自然科学演習a・b	
心身論Va・Vb	
Academic Skills VA・VB	
European Studies A・B	
North American Studies A・B	
Japan Studies ⅠA・ⅠB・ⅡA	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	
海外短期研修（マレーシア･就業体験研修）	
日本語（中級）Ⅱ	
日本語（上級）ⅣA・ⅣB	
データアナリティクス応用	
数理科学応用a・b	
テニス（C）	
サイクル・スポーツ（C）	
アクアエクササイズ（A）・（B）	
フィットネス（A）・（B）	
データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2022年度以降入学者 自由設計科目　教養科目 全学共通教育科目
データサイエンス特殊講義Ⅰ・Ⅳ	
機械学習応用	
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	自由設計科目　教養科目 他学部開設科目
国語国文学講義Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ	
芸術学特殊講義Ⅱ	
マスコミ講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	
コミュニケーション講義Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ	
マスコミ特殊講義Ⅰ（9/17 更新）	
短期学外演習	

オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は、予約を取っておくとよい。
また、必要に応じて、オンラインでも面談に対応するので、詳しくはメールやWebClassのメッセージ機能で問い合わせること。

〈オフィスアワー URL〉
https://www.seijo.ac.jp/students/univ-system/officehour/faeco.html

※LiveCampusUログイン後のページ上部、「関連リンク」からも確認可能です。

目　次

授業に関すること

Ⅰ 単位制度と履修 …… 10
Ⅱ 授　業 …… 11
Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング）…… 12
Ⅳ 履修登録 …… 14
Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目… 15
Ⅵ 試験・レポート …… 19
Ⅶ 成　績 …… 21
Ⅷ GPA制度 …… 22
Ⅸ 卒業論文 …… 23
Ⅹ 他学部聴講制度 …… 24
Ⅺ 成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する成城大学経済学部在学生のための科目等履修生制度 …… 24
Ⅻ 転学部・転学科 …… 26
ⅩⅢ 秋卒業制度 …… 26
ⅩⅣ 卒業延期制度 …… 27

人材育成の目的と3つの方針

…… 28

経済学部履修規定

【経済学科】［2024年度以降入学者用］

Ⅰ 総　説…… 32
Ⅱ 経済学科授業科目一覧表 …… 36
Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）…… 42
Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）…… 43
Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）…… 46
Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）…… 60
Ⅳ 経済学科 履修系統図 …… 62

【経営学科】［2024年度以降入学者用］

Ⅰ 総　説…… 66
Ⅱ 経営学科授業科目一覧表 …… 70
Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）…… 76
Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）…… 77
Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）…… 80
Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）…… 94
Ⅳ 経営学科 履修系統図 …… 96

【経済学科】［2023年度以前入学者用］

Ⅰ 総　説…… 100
Ⅱ 経済学科授業科目一覧表…… 102
Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）…… 108
Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）…… 109
Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）…… 112
Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）…… 127
Ⅳ 経済学科 履修系統図…… 128

【経営学科】［2023年度以前入学者用］

Ⅰ 総　説…… 132
Ⅱ 経営学科授業科目一覧表 …… 134
Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）…… 140
Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）…… 141
Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）…… 144
Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）…… 158
Ⅳ 経営学科 履修系統図…… 160

全学共通教育科目

Ⅰ 全学共通教育の理念…… 164
Ⅱ 全学共通教育科目における各種プログラム認定・修了要件…… 168

教職課程

Ⅰ 教職課程 …… 172
Ⅱ 教職課程科目の履修 …… 175
Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス …… 181
Ⅳ 教育職員免許状の申請等 …… 182

学則・その他

…… 183

成城大学学則
成城大学学位規則
キャンパスマップ

授業に関すること

Ⅰ 単位制度と履修 …… 10

Ⅱ 授　業 …… 11

Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング）…… 12

Ⅳ 履修登録 …… 14

Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目…… 15

Ⅵ 試験・レポート …… 19

Ⅶ 成　績 …… 21

Ⅷ GPA制度 …… 22

Ⅸ 卒業論文 …… 23

Ⅹ 他学部聴講制度 …… 24

Ⅺ 成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する
成城大学経済学部在学生のための科目等履修生制度 …… 24

Ⅻ 転学部・転学科 …… 26

XIII 秋卒業制度 …… 26

XIV 卒業延期制度 …… 27

Ⅰ 単位制度と履修

A 単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、４年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを２期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目の多くは１か年35週または半期をもって完結する。
② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって１単位とすることを標準とする。
③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半期	１回	２	週１回、半期の科目を２単位とする。
		２回	４	週２回、半期の科目を４単位とする。
	通年	１回	４	週１回、通年の科目を４単位とする。
外国語科目	半期	１回	１	週１回、半期の科目を１単位とする。
		２回	２	週２回、半期の科目を２単位とする。
スポーツ・ウエルネス実技科目	半期	１回	１	週１回、半期の科目を１単位とする。
	集中	－	１	週１回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を１単位とする。

※1回の授業時間（90分）は2時間に換算され、必要な学修時間から授業時間の合計を除いた時間が、予習・復習等授業時間外の学修時間の目安となる。
- 半期週1回2単位が付与される授業の場合
  45時間×2単位÷15週（半期）＝6時間（週当たり）―2時間（授業時間）＝毎週授業外に4時間の学修。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定 Ⅰ 総説 A 開設科目および卒業要件単位数】を参照のこと。

4 余剰単位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位・成績も付与され、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）の成績情報および成績証明書に記載される。

B 履修

1 年次配当

授業科目には配当年次が指定されている。**在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。**

2 再履修

単位が修得できなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。**必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。**

3 反復履修・重複履修の禁止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを**反復履修**、４月開講時からの１年間に同一名称の授業科目を複数履修することを**重複履修**と呼ぶ。いずれも、特に認められた場合を除いて禁止されている。
※授業科目の名称にはシラバスや授業時間割表などに記載されている副題（〈　〉で囲まれている部分）は含まれない。
（授業科目名称の例）
- 「ABC演習〈XXX〉」と「ABC演習〈YYY〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- 「英語A＆B（初級）a」と「英語A＆B（中級）a」は別の名称の授業科目として扱う。

4 成績評価の前提条件

当該授業科目について、出席すべき時間数の３分の１以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第１項）。

Ⅱ 授　業

A 学期と授業期間

本学の授業は４月１日に始まり翌年３月31日に終わる学年を前期・後期の２学期に分けて行われ、授業期間は下記の３つに分かれる。

通　　年	前期及び後期
半　　期	前期または後期
集　　中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

１時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00 ～ 10:30	10:40 ～ 12:10	13:00 ～ 14:30	14:40 ～ 16:10	16:20 ～ 17:50	18:00 ～ 19:30

※６時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）
　なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休　講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補　講

休講により、授業の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがある。これを補講という。
補講は、原則として月～金曜日の６時限に行う。

E 講義室変更

都合により、講義室を変更する場合がある。

履修中科目の休講・補講・講義室変更等は、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）で確認ができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていないため、適宜LiveCampusUにログインして、最新の情報を確認すること。
※ LiveCampusUでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。
急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【LiveCampusU】
LiveCampusUは、学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンターの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ　https://www.seijo.ac.jp　　LiveCampusU　https://lc.seijo.ac.jp

Ⅲ 科目番号（科目ナンバリング）

概　　要

科目番号は、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）における各授業科目の位置付け（学修の段階等も含む。）を表す11桁の番号である。
その各桁には、以下の①～⑥の分類に基づいた適当な数字又は英字が当てられている。（これを「科目ナンバリング」という。）
この科目番号によって、当該授業科目がどのようなレベルの、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

［例］　経済学部 経済学科における「公共経済学Ⅱ」

EEC _ B 4 0 _ 2 _ 2 2 3 2

①教育課程　②分野・区分・領域　③配当年次　④科目の位置づけ　⑤識別番号　⑥整理番号

経済学部経済学科のカリキュラムにおいて「専門科目－専門選択科目」に位置づけられ、２年次から履修することができる、標準的な内容を扱った応用分野科目であることを意味している。なお、他の分野・区分・領域等については以下分類表を参照のこと。

①教育課程

ＥＥＣ	経済学部経済学科
ＥＢＡ	経済学部経営学科

②分野・区分・領域

	分野		区分		領域	
経済学科	A	基礎科目	1	語　　学	1	英　　語
					2	第二外国語
			2	基礎数理	0	－
	B	専門科目	1	ゼミナール	0	－
			2	専門基礎必修科目	0	－
			3	専門基礎選択科目	0	－
			4	専門選択科目	0	－
	C	自由設計科目	1	推奨科目	1	専門選択関連科目
					2	法学関連科目
					3	教養科目
					4	全学共通教育科目
			2	一般科目	1	全学共通教育科目
					2	他学部開設科目
	D	教職関連科目	0	－	0	－

経営学科	A	基礎科目	1	語　　学	1	英　　語
					2	第二外国語
			2	初年次教育科目	0	－
	B	専門科目	1	ゼミナール	0	－
			2	（欠番）	0	－
			3	専門基礎科目	0	－
			4	専門選択科目	0	－
	C	自由設計科目	1	専門関連科目	1	経済学関連科目
					2	法学関連科目
			2	教養科目	1	経済学部開設・教養科目
					2	全学共通教育科目（教養科目群）
					3	全学共通教育科目（上記以外の科目群）
					4	他学部開設科目
	D	教職関連科目	0	－	0	－

③ 配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次から履修できる科目

④ 科目の位置づけ

1	基礎的な内容
2	標準的な内容
3	応用的な内容
4	発展的な内容

⑤ 識別番号

	分野・区分・領域	識別番号	
経済学科	A11 ～ A12：基礎科目－語学	0	英語
		1	独語
		2	仏語
		3	中国語
	B10：専門科目－ゼミナール	2	基礎ゼミナール
		3	3年次ゼミナール
		4	4年次ゼミナール（卒業論文含む）
	B20 ～ B40：ゼミナールを除く専門科目	1	理論分野
		2	応用分野
		3	歴史分野
		4	社会分野
		5	その他
	C11：自由設計科目－推奨科目－専門選択関連科目		経営学科専門科目の番号体系に従う。
	上記以外		各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

経営学科	A11 ～ A12：基礎科目－語学	0	英語
		1	独語
		2	仏語
		3	中国語
	A20：初年次教育科目 B30 ～ B40：ゼミナールを除く専門科目	1	経営学関連
		2	会計学関連
		3	商学関連
		4	金融関連
		5	経営情報関連
		6	その他
	B10：専門科目－ゼミナール	2	基礎ゼミナール
		3	3年次ゼミナール
		4	4年次ゼミナール（卒業論文含む）
	C11：自由設計科目－専門関連科目－経済学関連科目		経済学科専門科目の番号体系に従う。
	C22：自由設計科目－教養科目－全学共通教養科目（教養科目群）	0	WRD
		1	外国語科目
		2	外国語科目（ディプロム・コース）
		3	IT科目
		4	総合科目
		5	成城学
		6	社会科学系科目
		7	人文科学系科目
		8	
		9	自然科学系科目
	C23：自由設計科目－教養科目－全学共通教養科目（上記以外の科目群）	1	キャリアデザイン科目
		2	国際交流科目
		3	データサイエンス科目
		4	スポーツ・ウエルネス教育科目
	上記以外		各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

⑥ 整理番号

各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

Ⅳ 履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、自分が履修しようとする授業科目を登録する手続きである。この手続きがなされていなければ授業科目の履修はできず、また単位も授与されない。
原則として４月に、前期・通年科目とあわせて後期科目についても登録する必要があるが、一部、特定の方法・期間にしか登録できない授業科目もあるため、１年間の履修計画を立てた上で、所定の時期に適切に履修登録を行う必要がある。（p.19～20 C その他の手続きを必要とする授業科目）

2 履修登録

LiveCampusUを利用した履修登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。

3 登録期間

巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

4 登録時の注意点

① 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録をすること。
② 教務部が予め登録している授業科目は原則として取り消すことができない。
③ 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・削除を行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
④ 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講１週目の授業について】
- 教務部が予め登録している授業科目、抽選で受講が決定した授業科目については、１週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として１週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをしても構わない。

5 履修登録の注意点

① 履修登録のできない授業科目
- 在学年次よりも上の年次に配当された授業科目
- 教務部が予め登録している授業科目で自分のクラス以外の授業科目
- **すでに単位を修得した授業科目**（例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと）
- 履修するための前提条件（所定科目の履修・修得等）を満たしていない科目

② 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目
履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 履修科目登録上限単位数
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限】を参照すること。

④ ４月開講時に履修登録する授業科目がない場合
本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずLiveCampusUの履修登録メニューに表示される学籍情報を確認のうえ、「登録して履修登録へ進む」ボタンをクリックすること。

V 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A 抽選登録を必要とする授業科目

1 抽選登録

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、履修登録期間の前に抽選登録が必要である。
抽選登録の要領は以下のとおりだが、登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。
なお、抽選登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

2 抽選登録期間・抽選結果の発表

抽選登録期間および発表日時は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
抽選登録を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的に履修登録が行われ、不許可となったものは登録されない。抽選結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

3 抽選登録を必要とする授業科目

抽選登録を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授業科目	
基礎科目	英語読解（再）＊	仏語（初級）a〈再履修〉＊
	Communicative English（再）＊	仏語（初級）b〈再履修〉＊
	TOEIC（再）＊	中国語（初級）a〈再履修〉＊
	独語（初級）a〈再履修〉＊	中国語（初級）b〈再履修〉＊
	独語（初級）b〈再履修〉＊	
基礎科目（経済学科）	データ解析入門Ⅰ・Ⅱ（新入生を除く）	数学入門Ⅰ・Ⅱ（新入生を除く）
専門科目（経済学科）	フレッシャーズ・セミナー	
専門科目（経営学科）〈経済学科は自由設計科目〉	ビジネスライティングⅠ・Ⅱ	経営情報論Ⅰ・Ⅱ
自由設計科目	ＷＲＤ	英文多読ａ・ｂ
	現代社会論演習ａ・ｂ	独会話選択ａ・ｂ
	社会構造論演習ａ・ｂ	独語選択（初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）
	思想・人間論演習ａ・ｂ	仏会話選択ａ・ｂ
	表現文化論演習ａ・ｂ	仏語選択（初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）
	歴史文化論演習ａ・ｂ	スペイン語選択（初級ａ・ｂ）
	地域空間論演習ａ・ｂ	中国語選択（初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）
	生命科学の世界ａ・ｂ	韓国語会話選択ａ・ｂ
	数理・自然科学演習ａ・ｂ	韓国語選択（初級ａ・ｂ）
	心身論演習ａ・ｂ	ディプロム・コース中級（独語ａ・ｂ、仏語ａ・ｂ、スペイン語ａ・ｂ、韓国語ａ・ｂ）
	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	
	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ	ディプロム・コース上級（独語ａ・ｂ、仏語ａ・ｂ）
	データサイエンス概論	コンピュータ・リテラシーＡ１・Ａ２、Ｂ～Ｅ
	データサイエンス基礎	図書館活用法
	データアナリティクス基礎	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ
	機械学習基礎	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ
	英語リスニング&スピーキング（初級ａ・ｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ
	英語リーディング&ライティング（初級ａ・ｂ、中級ａ・ｂ、上級ａ・ｂ）	スポーツ・ウエルネス実技科目
	英会話選択ａ・ｂ	マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ

注1）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」もしくは「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。
注2）＊印のついた授業科目のうち、後期開講科目の登録は、後期に行う。

4　登録上の注意

①「WRD」は科目の性質上、登録者数が受講者定員を上回った場合、受講者の決定については、１年次生を優先する。
②「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」はセットで履修することになっている。抽選登録をする際は、A1のみ登録する。抽選の結果、A1の履修が許可された場合、セットとなるA2のクラスも自動的に履修登録される。

5　定員に余裕がある授業科目の履修登録

抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、履修登録期間において先着順で登録を受け付ける。日程の詳細は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

B　履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目

1　対象科目

全学共通教育科目（p.164～169）
（「A抽選登録を必要とする授業科目（p.17）」、「Cその他の手続きを必要とする授業科目（p.19～20）」を除く）

2　受講者調整対象科目の決定と調整結果の発表

履修登録期間中に登録者数が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学が判断した授業科目は、受講者数の調整を行い、受講者及び定員を決定する。
日程の詳細は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
調整結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

なお、調整の対象となった科目、ならなかった科目、いずれも履修登録期間中は定員の範囲内で自由に削除・登録することが可能である。

C その他の手続きを必要とする授業科目

1 2年次コース別英語

２年次「コース別英語」に関する説明会およびコースの決定は、１年次の冬（日程等は後日LiveCampusU等で周知する）に行う。履修登録は教務部が事前登録を行うので、各自のコース・クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

2 基礎・3年次ゼミナール*

＊2025年度より2年次で履修するゼミナールの名称は「基礎ゼミナール」に変更された。

① ゼミナール説明会
「ゼミナール」の申請手続き等について、説明会を開催する。ゼミナールは必修であるので必ず出席すること。

② 履修登録
履修登録は教務部が行う。

上記に関する詳細はLiveCampusU等で別途案内する。

3 選考を行う授業科目

下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講１週目の授業で選考を行う（後期開講科目は後期に行う）。詳細については掲示・シラバスを確認すること。

- 「TOEIC（特級）Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ」
- 「ビジネス英語ａ・ｂ」

なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができないので、シラバス等をよく読んでおくこと。

4 スポーツ・ウエルネス実技科目［集中コース］

スポーツ・ウエルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、**履修登録をする前に必ずスポーツ・ウエルネス科で履修申し込みの手続きを行い、申し込み手続き完了後に履修登録を行わなければならない。**授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。
なお、やむを得ない理由によりコースが中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

申し込み日
スキー：９月中旬
※申し込み日、および申し込み方法の詳細については、シラバス、LiveCampusUの連絡通知等を確認すること。

［定員に空きがある場合の追加］
9号館3階の共通教育研究センターで手続きを行うこと。

▼

スポーツ・ウエルネス科での申し込み手続き完了後、LiveCampusU にて履修登録を行う。

5 海外短期語学研修・海外短期研修

4月（夏季）および10～11月（春季）に研修内容および申込方法に関する説明会を行うので、参加希望者は出席すること。説明会の予定はLiveCampusUの連絡通知等で周知する。また、研修参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。
やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。

海外短期語学研修（英語・夏季）	2単位	【研 修 先】アルバータ大学（カナダ） 【期　　間】8月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
	2単位	【研 修 先】オタゴ大学（ニュージーランド） 【期　　間】8月～9月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（英語・春季）	2単位	【研 修 先】ニューカッスル大学（オーストラリア） 【期　　間】2月～3月〔約4週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
	2単位	【研 修 先】コロラド大学ボルダー校（アメリカ） 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（独語・春季）	2単位	【研 修 先】ドレスデン工科大学（ドイツ） 【期　　間】2月～3月〔約4週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（仏語・春季）	2単位	【研 修 先】西部カトリック大学（フランス） 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（中国語・夏季）	2単位	【研 修 先】北京大学（中国） 【期　　間】8月～9月〔約4週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	2単位	【研 修 先】アルカラ大学 【期　　間】8月～9月〔約3週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修（スペイン語・春季）	2単位	【研 修 先】アルカラ大学 【期　　間】2月～3月〔約3週間〕 【単　　位】翌年度前期科目として単位を授与する。

2021年度以降入学者のみ履修可

海外短期語学研修（英語・夏季）	1単位	【研 修 先】マレーシア工科大学（マレーシア） 【期　　間】8月〔約2週間〕 【単　　位】本年度後期科目として単位を授与する。

履修上の注意については、各学科の【履修規定 Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）】の国際交流科目群の項を併せて参照すること。

6 キャリア・エクスペリエンス

「キャリア・エクスペリエンス」（後期開講）を履修登録すると、前期同一曜日時限に開講される「キャリア・エクスペリエンス事前講義」（前期開講）も自動的に登録される。従って、本科目は前期の履修登録期間中に登録をしなければならない。
第1回の授業で詳細についてガイダンスを行うので、必ず出席すること。

Ⅵ 試験・レポート

A 試　験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

① **定期試験**
- 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

② **定期試験に代わるレポート**…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験。
提出日・提出先等は授業科目担当者により異なる。

③ **追 試 験**…病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※ 授業期間中に実施される試験や「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験および定期試験に代わるレポートの詳細は、LiveCampusUにて発表する。その他、授業内で課される課題（小テスト等）については、授業科目担当者より直接指示がなされる。

B 定期試験

1 注 意 事 項

① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
② 不正行為は学則に基づき処分される。

2 試 験 期 間

巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

3 試 験 時 間

原則60分とする。

4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約１週間前にLiveCampusUにて発表する。

5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、LiveCampusUにて発表する。

6 受 験 心 得

① **学生証を必ず持参**すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
② 試験場には、**定刻までに入室**すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
③ 試験開始後30分以内は退室できない。
④ 答案の氏名欄（学籍番号、氏名）と出席カードは、**ペン（鉛筆以外）**で記入すること。
⑤ **答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない。**また、**無記名答案は無効**となる場合があるので注意すること。

7 試験開始時間の変更および中止

小田急線の新宿から相模大野までの全区間が運行を停止した場合、気象庁から東京23区西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合、定期試験開始時刻の変更（繰下実施等）あるいは定期試験を中止する場合がある。

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。
また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

1 教務部に提出する場合

表　紙

① 教務部で配付する**「指定の表紙」**を使用する。
② 表紙には必ず**「整理番号」**（LiveCampusUを参照のこと）を記入する。

提出書式

〈パソコンを使用する場合〉
横書き（A４判）

〈手書きの場合〉
提出するレポートは必ずペン（鉛筆以外）書きとすること。
① 原稿用紙指定の場合
横書き（A４判400字詰め）　縦書き（B４判400字詰め）
② レポート用紙の場合
横書き（A４判）
※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

2 教務部以外に提出する場合

提出要領

用紙等提出要領は授業科目担当者の指示に従うこと。

D 追試験

病気その他やむを得ない事由により定期試験期間中に実施される「定期試験」を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる**（定期試験に代わるレポートは除く）**。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はLiveCampusUにて発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格および受付時間

① 病気およびケガ
（医療機関が発行した診断書（原本）、または、これに準ずるものを添付　＊当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療（療養）期間等が明記されていること。）

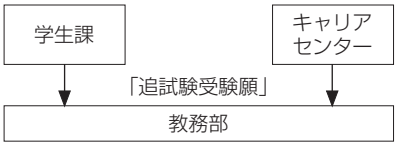
② 忌引
（会葬礼状（原本）または死亡診断書（写し）添付　※原則として、適用日数は死亡日（または通夜・葬儀）当日を1日目と数え、血族および配偶者の場合、以下の通りとする。
父母・配偶者・子　連続7日間、祖父母・おじ・おば・兄弟姉妹　連続5日間、曾祖父母　連続3日間、甥姪・いとこ　連続2日間。いずれも土日を含めて連続した日数。）

③ 交通機関の遅れ
（遅延証明書添付　＊試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。）

④ 就職試験当日
（就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。）

⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

2 提 出 要 領



① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、授業科目担当者の判断により、追試験を実施しないことがある。

Ⅶ 成　績

1 成績評価

成績評価は、前期･後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

	合格				不合格	
素　点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価 成績証明書	秀	優	良	可	不可	／
英文成績証明書	E	V	G	S	F	／

※／（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、前期成績を９月上旬頃、学年（後期）成績を３月上旬頃にLiveCampusUにて開示し、学生の学修状況把握のため、保証人に対しても開示する。
開示日や保証人に対する成績開示不同意申し出についての詳細については、LiveCampusUにて周知する。

3 成績評価問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。
なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

■ **申請受付窓口**
教務部

■ **申請の条件**
① 当該科目の授業に３分の１以上欠席していないこと（大学学則第23条第１項）。
② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

■ **申請の手続きおよび受付期間**
必ず申請者本人が申請すること。
- 当該年度前期成績：詳細は７月にLiveCampusU等で発表する。
- 当該年度学年（後期）成績：詳細は１月にLiveCampusU等で発表する。

■ **回答および結果の開示方法**
教務部にて授業科目担当者からの回答を受領後、申請者へLiveCampusU等で開示する。

Ⅷ GPA制度

1 制度の概要と目的

成績評価の方法として、GPA（grade point average）制度を実施している。
GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い（＝学修に要した時間の差異）が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP（grade point）に基づいて算定する。

	合　　格				不合格	
素　点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	／
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{\text{4.0×「秀」の総修得単位数＋3.0×「優」の総修得単位数＋2.0×「良」の総修得単位数＋1.0×「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」および「／」の単位数を含む。）}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。
※GP（grade point）は「成績評定点」を、GPA（grade point average）は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

① **カリキュラム上卒業要件単位として認められていない授業科目**
② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をLiveCampusUの成績ダッシュボードに表示し、成績通知書および成績証明書に記載する。

5 留 意 事 項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、履修している授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

Ⅸ 卒業論文

A 卒業論文題目届

用紙はLiveCampusUにて配信する。
提出期間は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

B 卒業論文提出要領

1 提出期間

巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
※ **提出締め切り日時は厳守**すること。締め切り日時以降の提出は認めない。

2 提出方法

(ア) **WebClassを用いたオンライン提出**のみとする（郵送での提出は認められないので、注意すること）。
(イ) WebClass上に**学科毎に「○○学科卒業論文提出用コース」**が設置されており、コース内の「テスト/アンケート」のところに「○○学科卒業論文提出」が設置されているので、そちらに提出すること。
(ウ) 提出者には提出した旨の**自動応答メール**が届くので、**必ず確認**し、応答メールが届かない場合は再提出すること。応答メールが届かない場合は、応答メールが「迷惑メール」分類されていないのかもよく確認すること。
(エ) WebClassの設定上、期間内であれば何度でも提出可能だが、提出のたびに新しい提出ファイルに置き換わる（上書きされる）ので注意すること。

3 書式

① **ファイル形式**
- 卒業論文の**提出形式はPDF**のみとする。
- WebClassで1回に送信できる**PDFファイルの容量の上限は40MB**なので**容量を超えないよう注意**すること。
- 40MBを超える場合は、早めに教務課に相談すること。

② **ファイル名**
- 卒業論文の**ファイル名は、「指導教員名＋先生」「学籍番号」「学生氏名」**とし、**空白（スペース）を入れずに明記**すること（例：澤柳政太郎先生22E3333成城哲夫）。

③ **レイアウト（用紙）**
- **用紙の設定はA4判**とし、**各ページ1行40字×30行**とすること。
- 目次の末尾に字詰を注記すること（例：横40字×縦30行）。

④ **その他**
- 指導教員より指示がある場合は、それにも従うこと。

4 表紙

表紙のページには、以下の必要事項を必ず書くこと。
①卒業年度
②所属ゼミ名
③題目
④学部・学科
⑤学籍番号
⑥氏名

【見本】

2025年度卒業
○○ゼミ
○○○○○の研究
経済学部○○学科
22E3333　成城 哲夫

5 要旨

（経営学科のみ）表紙の次のページに必ず要旨（A4、１ページ以内）をつけること。

6 その他

① 経営学科では2024年度から卒業論文の副査制度を導入した。期日およびその他の詳細については2025年4月に別途提示する。なお、経済学科では2027年度から導入する。
② 卒業論文の提出に際して、不明な点がある場合は指導教員に確認すること。

X 他学部聴講制度

1 制度の概要	所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。 ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。 聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。
2 聴講可能科目	LiveCampusU等にて発表する。
3 聴講可能科目数	**年間２科目まで**
4 手続き方法および手続き期間	「他学部聴講願」に、必要事項を記入の上、教務部に提出すること。 提出期間は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
5 注意事項	① 聴講可能な授業科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。 ② 他学部聴講は、教授会での審議によっては、認められない場合がある。

XI 成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する成城大学経済学部在学生のための科目等履修生制度

A 制度の趣旨

成城大学経済学部に在籍する４年次の学生で、本学大学院経済学研究科への進学を志望する優秀な学生に、「科目等履修生制度」を援用して大学院の授業科目を履修することを認める制度である。この制度で修得した単位は、大学院進学後に審査の上、大学院博士課程前期の単位として認定される。これは優秀な学部学生に対して、その能力を早期にかつ高度に発展させる機会を与える特例措置であり、これによって学部と大学院をあわせて５年間で修士号を取得することも可能である。なお、この制度へ出願するに当たっては、卒業論文の作成など学部の授業の履修に影響を及ぼさないよう、十分に留意すること。

B 実施要項

1 出願資格	以下の①～④の全ての資格を満たす者 ① ４月１日現在において本学経済学部４年次に在籍し、当該年度３月卒業見込の者。 ② 本学大学院経済学研究科に進学を志望する者。 （本年度に実施する経済学研究科Ⅱ期またはⅢ期内部推薦入試の受験を予定する者） ③ ３年次までに、卒業要件単位（124単位）の80%（100単位）以上を修得していること。 ④ １～３年次のGPAにおいて、全科目の平均もしくは専門科目のみの平均が**2.15**以上であること。

2 出願手続

出願を希望する者は、本学ホームページから必要書類をダウンロードし、所定の期間内に出願手続きを済ませること。

① **出願期間**　巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

② **出願書類**

1）願書（本学所定用紙）
2）履修計画書（本学所定用紙）
3）前年度までの成績通知書

※ **なお、出願にあたっては、事前に、受入れを希望する研究指導教員の面接を受け、承認印をもらうこと。**

③ **出願先**

教務部（１号館１階）
受付時間：月曜日～金曜日８：30～18：00（締切日は16：30まで）
土曜日８：30～13：00

3 審査・決定

① 履修可否の審査は、原則として出願書類および面接で行う。
② 面接は、大学院進学の志望理由、大学院における履修計画、学部の授業の履修状況などを中心に、受入れを希望する研究指導教員他によって行う。
③ 履修の可否は、研究科教授会で決定する。

4 面接日・審査結果の発表

巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

5 審査料・受講料

審査料は無料。受講料は１単位につき、10,000円。
（ただし、受講料は全額減免の対象とする。）

6 履修条件等

① 履修を許可された者には、科目等履修生証を交付する。
② 履修可能科目は、経済学研究科の専任教員の担当する博士課程前期の授業科目および研究指導である。
③ 受入れを希望する研究指導教員の担当する研究指導または授業科目は、必ず履修しなければならない。大学院在籍１年で修士号を取得することを希望する場合には、当該研究指導を必ず履修すること。
④ 履修可能な単位数は、20単位以内であり、かつ、当該年度の本学部における履修科目として登録する単位数と合算して本学部における履修科目登録上限単位数を超えない単位数とする。

7 修得単位の取扱い

① 履修した授業科目の試験に合格したときは、所定の単位を与え、申請により、成績証明書を発行する。
② 修得した単位は、本学経済学部卒業後、翌年度に本学大学院に入学した場合に限り、20単位を限度に、大学院博士課程前期の修了要件単位として申請することができる。その際、優秀な成績の場合には、大学院在籍１年で修士号を取得することも可能である。
③ 修得した単位は、学部の修得単位とはならない。

8 受講手続

科目等履修生証の準備が整い次第連絡するので、教務部で受け取ること。
※ ５月16日（金）までに科目等履修生証を受け取らなかった場合には、履修の意思がないものとみなし、受講許可を取り消す。

9 受講科目の確認

登録完了後に教務部から連絡するので、これを受けて速やかにLiveCampusUで確認すること。

10 その他

① 出願を希望する学生は、本学経済学研究科ホームページから経済学研究科学生募集要項〈内部推薦入試制度〉を必ず参照すること。
② 出願方法や審査方法・スケジュール等は変更になる場合がある。変更の場合は、LiveCampusU等で周知する。

XII 転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。
なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、LiveCampusUにて案内するので、各自確認すること。
また、転学部・転学科を希望する者は、転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

XIII 秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在籍し、3月に行われた卒業判定の結果、大学学則第18条に規定する卒業要件をみたすことができず、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

＊ 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【XIV 卒業延期制度】を参照すること。

2 制度の注意点

①秋（9月）で自動的に卒業となる。
本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、**秋（詳細な日付はLiveCampusU等で発表する。）で自動的に卒業となるので十分注意すること。**
※ 履修科目登録上限単位数、卒業確定者発表日等は別途案内する。

②年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。
本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、**今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。**申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

③「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。
本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。また、「教職課程」履修者の「免許取得見込証明書」についても通常と記載内容が異なる。

④秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。
「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤「教育職員免許状」は卒業と同時に交付されない。
秋（9月）卒業する場合は、卒業後、自身で免許交付申請手続きを行うことになる。ただし、上記②により卒業延期制度の適用を受け、年度末（3月）まで在学する場合は、大学で免許交付申請手続きを行う。詳細は教務部教職課程担当まで問い合わせること。

⑥校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。
また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。
※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑦秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。
就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

XIV 卒業延期制度

1 制度の概要（目的）

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し在学することを認める制度である。
卒業を延期することができる期間は、１年（※）ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生（以下､「卒業延期適用者」）が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、１回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。
※ １年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業（以下「繰上卒業」）することができる。

2 対象者（資格要件）

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。
① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第５条第２項に規定する年数（８年）を超えないこと。
③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度（卒業延期適用者にあっては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ）の以下の期日（当該日が休日の場合はその前日）までに卒業延期願を提出し、２月下旬ないし９月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
- 学年末をもって卒業要件を満たす者　　２月15日
- 前期末をもって卒業要件を満たす者　　７月末日

② 前項により卒業の延期を許可された学生（以下「卒業延期者」）に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、３月10日（当該日が休日の場合はその前日）までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日（当該日が休日又は土曜日に当たるときは、その前日）までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末、または前期末での卒業とする。
- 学年末をもって卒業要件を満たす者　　３月20日
- 前期末をもって卒業要件を満たす者　　９月13日

⑤ 繰上卒業を希望する学生は、７月末日までに繰上卒業願を提出し、９月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および提出先

１号館１階　教務部

5 申請期間

申請期間等の詳細はLiveCampusU等で発表する。

6 その他

- 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
- 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学が認められた場合であっても、休学期間中の学費の減額は認められない。
- 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
  学年末をもって卒業要件を満たした者
  　授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の７割
  前期末をもって卒業要件を満たした者
  　授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の３割５分

※ その他の納付金である父母の会費、学友会費については、減額の対象とはならない。

経済学部の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

経済学部は、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握し、変貌する現実社会に対する洞察力と判断力を養うとともに、事業経営など種々の環境において必要な識見と実践能力を具えた人材を育成することを目的とする。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業を認定する。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することができる。
2．経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、経済学的・経営学的に考察することができる。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を具え、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握することができる。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考えのもとに、ゼミナールを必修の専門科目とする。
2．経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、４年次に行うゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、経済学的・経営学的考察力を涵養するため、専門講義科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経済学科・経営学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部では、その人材育成の目的を達成するために、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1．経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具えている人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2．ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション力、および読解力や文章力などのリテラシーを有する人材。
3．文化や価値観の多様性を理解できる思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、幅広い分野を興味と関心を持って学ぶ意欲がある人材。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

経済学部 経済学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

経済学科は、経済社会における諸現象を、理論、歴史および社会の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、経済社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学科では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業が認定される。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することができる。
2．経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論・応用・歴史・社会問題の側面から考察することができる。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を具え、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握することができる。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学科では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考えのもとに、ゼミナールを必修の専門科目とする。
2．経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、４年次に行うゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論的・実証的・歴史的考察力を涵養するため、経済理論、応用経済、歴史、社会問題といった幅広い分野の専門科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経済学科・経営学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部では、その人材育成の目的を達成するために、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1．経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具えている人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2．ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション力、および読解力や文章力などのリテラシーを有する人材。
3．文化や価値観の多様性を理解できる思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、幅広い分野を興味と関心を持って学ぶ意欲がある人材。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

経済学部 経営学科の人材育成の目的と3つの方針

Ⅰ 人材育成の目的

経営学科は、経済社会ならびに企業経営における諸現象を、経営学に関わる学際的専門領域の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、産業社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。

Ⅱ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業が認定される。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することができる。
2．経営理論を実践するために必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、経営学、会計学、商学、金融、経営情報学、統計学などの専門的視点から理論的・実証的・歴史的に考察することができる。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を具え、経済社会における諸現象を理論的・実証的・歴史的に把握することができる。

Ⅲ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1．思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考え方のもとに、ゼミナールを必修の専門科目とする。
2．経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、４年次に行うゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3．経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論的・実証的・歴史的考察力を涵養するため、経営学、会計学、商学、金融、経営情報学、統計学といった幅広い分野の専門科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4．経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経営学科・経済学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5．国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的・歴史的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部では、その人材育成の目的を達成するために、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1．経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具えている人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2．ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション力、および読解力や文章力などのリテラシーを有する人材。
3．文化や価値観の多様性を理解できる思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、幅広い分野を興味と関心を持って学ぶ意欲がある人材。

※今後、３つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

履修規定

経済学科
［2024年度以降入学者用］

Ⅰ 総説 …… 32
A．開設科目および卒業要件単位数 …… 32
B．履修単位制限 …… 33
C．２年次から３年次への進級基準 …… 33
D．特別学修達成プログラム DAP（Distinguished Achievement Program）について …… 34

Ⅱ 経済学科授業科目一覧表 …… 36

Ⅲ—1　分野別履修方法（基礎科目） …… 42
A．語　　学 …… 42
B．基礎数理 …… 43

Ⅲ—2　分野別履修方法（専門科目） …… 43
A．ゼミナール …… 44
B．専門基礎科目 …… 44
C．専門選択科目 …… 45

Ⅲ—3　分野別履修方法（自由設計科目） …… 46
A．推奨科目 …… 47
B．一般科目 …… 53

Ⅲ—4　分野別履修方法（教職関連科目） …… 60

Ⅳ 経済学科　履修系統図 …… 62

I 総　説

A 開設科目および卒業要件単位数

1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の４つの分野から構成されている。なお、専門科目のうち、ゼミナールについては、2025年度から開設科目の変更を予定している。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の３分野から**第１表**に示す規定単位数を修得しなければならない。

3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および２年次から３年次への進級基準に十分注意すること。

第１表　経済学科　開設科目および卒業要件単位数

分野	区分				規定単位数
基礎科目	語学	英語			8
		第二外国語			6
	基礎数理				4
専門科目	ゼミナール				10
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習			6
	専門基礎選択科目				16
	専門選択科目				36
自由設計科目	推奨科目	専門選択関連科目			20
		法学関連科目			
		教養科目			
		全学共通教育科目	リテラシー科目群	WRD、IT科目	
			教養科目群	系列科目の一部（注6）	
			キャリアデザイン科目群（注7）		
			国際交流科目群（注8）		
			データサイエンス科目群		
	一般科目	全学共通教育科目	リテラシー科目群	外国語科目	18
			教養科目群	総合科目、成城学、系列科目の一部（注6）	
			スポーツ・ウエルネス教育科目（注9）		
		他学部開設科目（注10）			
教職関連科目（注11）					－
合　計					124

（注1）（注2）（注3）（注4）（注5）

〔第１表の注意事項〕

（注１）**基礎数理**の規定単位数を超えて修得した単位は、**推奨科目**に充当することができる。
（注２）ゼミナールの規定単位数を超えて修得した単位は、**専門基礎選択科目**に充当することができる。
（注３）**専門基礎選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**専門選択科目**に充当することができる。
（注４）**専門選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**推奨科目**に充当することができる。
（注５）**推奨科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**一般科目**に充当することができる。
（注６）系列科目は推奨科目と一般科目に分けられる。詳細は、「経済学科授業科目一覧表第3表（p.38）」を参照すること。
（注７）**キャリアデザイン科目群**には、卒業要件単位に算入されない科目がある。履修規定を参照すること。
（注８）**国際交流科目群**のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
（注９）**スポーツ・ウエルネス教育科目**は、**４単位**まで卒業要件単位として認められる。
（注10）**他学部開設科目**は、**8単位**まで卒業要件単位として認められる。
（注11）教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められない。

B 履修単位制限

1 履修単位制限

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を、**48単位**とする。
※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目

③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.8以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を4単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学科より期中および成績確定後に学習指導の場が設けられる。
※教職課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※本措置と、教職課程における特例措置の双方の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

C ２年次から３年次への進級基準

２年次から３年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、２年次終了までに**第２表**に示す所定の単位を修得していなければならない。
なお、専門科目のうち、ゼミナールについては、2025年度から開設科目の変更を予定している。

第２表　進級基準

分　野	区　　分		単位数
基礎科目	語学	英語	10
		第二外国語	
	基礎数理		4
専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナール	2
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習	6
	専門基礎選択科目		8
	専門選択科目		6
自由設計科目	推奨科目		10
計			46

（注1）
（注2）
（注3）
（注4）

〔第２表の注意事項〕

（注１）**基礎数理**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**推奨科目**の単位数（10単位）に充当することができる。

（注２）**ゼミナール**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**専門基礎選択科目**の単位数（８単位）に充当することができる。

（注３）**専門基礎選択科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**専門選択科目**の単位数（６単位）に充当することができる。
なお、ゼミナールから充当した単位数がある場合も、その単位数と専門基礎選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して８単位を超えていれば、その超えた単位数を専門選択科目に充当することができるものとする。

（注４）**専門選択科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**推奨科目**の単位数（10単位）に充当することができる。
なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して６単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目に充当することができるものとする。

D 特別学修達成プログラム DAP（Distinguished Achievement Program）について

1 DAPとは

DAPは、卒業要件とは別に設定されたプログラム修了要件を充たした経済学部学生に対し、プログラムに応じた修了認定証とオープンバッジを発行する制度であり、卒業時に発行される成績証明書にはその学修成果が記載される。プログラムは、卒業要件に算入可能な科目で構成されており、主たる専門分野に加えてもう一つ極める分野を定め、2本の柱で目的を持って系統的に学ぶことを提案し、その達成を支援するものである。

2 プログラム

DAPの第1弾として2024年度より「経済学部データサイエンスプログラム」を開設している。

3 修了要件

各プログラムの修了認定においては別表で指定される、「プログラム必修科目」4単位、「プログラム選択必修科目」4単位、「プログラム関連科目」8単位、計16単位を修得することが必要である。

4 登録申請

DAPへの申請を希望する学生は以下の手続きを行うこと。
① 1年次9月ごろに行う希望調査に回答する。
② 2年次にDAPへの登録申請を行う。（3年次以降も追加の登録申請可能。）
※申請方法および申請期間の詳細は、3月にLiveCampusUで周知する。

5 修了認定

DAP修了認定は、4年次4月・9月、卒業時に経済学部教授会が行う。ただし、4年次4月の認定対象になるのは3年次までに登録していた場合のみのため注意すること。

別表　経済学部データサイエンスプログラム

DAP修了要件単位数	授業科目名	単位	配当年次	分野・区分
必修ではないが必修科目履修前に修得を推奨（推奨科目）	データサイエンス概論 ※1	2	1～4	データサイエンス科目群（全学共通教育科目）
	データサイエンス基礎 ※1	2	1～4	
4（必修科目）	データアナリティクス基礎 ※2	2	2～4	
	機械学習基礎 ※2	2	2～4	
4（選択必修科目）	データアナリティクス応用	2	2～4	
	機械学習応用	2	2～4	
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2	2～4	
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2	2～4	
	データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	各2	2～4	
8（関連科目）	データ解析入門Ⅰ・Ⅱ	各2	1	経済学基礎・専門科目
	統計学	4	2～4	
	計量経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	経営統計学Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	プログラミングと機械学習Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	経営情報論Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
計16				

※1　文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定科目
※2　文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」認定科目
　　抽選科目であるが、DAP申請者には定員上の特例措置を適用する。詳細はDAP申請時に確認すること。

Ⅱ 経済学科授業科目一覧表

第3表

分野・区分			配当年次 1年	配当年次 2年
基礎科目	語学	英語	英語読解（1）a① 英語読解（1）b① 上級英語読解（1）a① 上級英語読解（1）b① [1～4年] 英語読解（再）①	英語読解（2）a① 英語読解（2）b① 上級英語読解（2）a① 上級英語読解（2）b①
			Communicative English（1）a① Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）b① [1～4年] Communicative English（再）①	Communicative English（2）a① Communicative English（2）b① Advanced Communicative English（2）a① Advanced Communicative English（2）b①
				TOEIC a①　TOEIC b① 上級TOEIC a①　上級TOEIC b① [2～4年] TOEIC（再）①
		第二外国語	独語（初級）a② 独語（初級）b②	独語（中級）a① 独語（中級）b①
			仏語（初級）a② 仏語（初級）b②	仏語（中級）a① 仏語（中級）b①
			中国語（初級）a② 中国語（初級）b②	中国語（中級）a① 中国語（中級）b①
	基礎数理		データ解析入門Ⅰ②　数学入門Ⅰ② データ解析入門Ⅱ②　数学入門Ⅱ②	
専門科目	ゼミナール			基礎ゼミナール②
	専門基礎必修科目		ミクロ経済学入門・演習 ③ マクロ経済学入門・演習 ③	
	専門基礎選択科目			[2～4年] ミクロ経済学Ⅰ②　マクロ経済学Ⅱ②　経済学史Ⅰ② ミクロ経済学Ⅱ②　ゲーム理論入門② マクロ経済学Ⅰ②　統計学④
	専門選択科目		[1年] フレッシャーズ・セミナー② [1～4年] 外国史概説A② 外国史概説B② 社会問題入門② 社会科学入門②	[2～4年] 経済数学Ⅰ②　医療経済論Ⅱ②　社会キャリア論B② 経済数学Ⅱ②　国際貿易論Ⅰ②　社会デザイン論Ⅰ② 数理経済学A②　国際貿易論Ⅱ②　社会デザイン論Ⅱ② 数理経済学B②　開発経済学Ⅰ②　日本経済論A② 経済変動論A②　開発経済学Ⅱ②　日本経済論B② 経済変動論B②　食料・資源経済論Ⅰ②　世界経済事情A② 経済統計論④　食料・資源経済論Ⅱ②　世界経済事情B② 計量経済学Ⅰ②　環境経済学Ⅰ②　国際関係論Ⅰ② 計量経済学Ⅱ②　環境経済学Ⅱ②　国際関係論Ⅱ② 産業組織論Ⅰ②　日本経済史Ⅰ②　経済地理学Ⅰ② 産業組織論Ⅱ②　日本経済史Ⅱ②　経済地理学Ⅱ② 経済思想史Ⅰ②　西洋経済史Ⅰ②　英経済書講読Ⅰ② 経済思想史Ⅱ②　西洋経済史Ⅱ②　英経済書講読Ⅱ② 金融論Ⅰ②　東洋経済史Ⅰ②　独経済書講読A② 金融論Ⅱ②　東洋経済史Ⅱ②　独経済書講読B② 国際金融論Ⅰ②　現代経済史Ⅰ②　仏経済書講読A② 国際金融論Ⅱ②　現代経済史Ⅱ②　仏経済書講読B② 財政学Ⅰ②　社会思想史Ⅰ②　中国経済書講読A② 財政学Ⅱ②　社会思想史Ⅱ②　中国経済書講読B② 公共経済学Ⅰ②　社会保障論Ⅰ②　応用経済学特別講義C② 公共経済学Ⅱ②　社会保障論Ⅱ②　応用経済学特別講義D② 医療経済論Ⅰ②　社会キャリア論A②
自由設計科目	推奨科目	専門選択関連科目		[2～4年] 会計学総論Ⅰ②　経営統計学Ⅰ②　経営英書講読Ⅱ② 会計学総論Ⅱ②　経営統計学Ⅱ②　証券市場論Ⅰ② 企業会計論Ⅰ②　財務会計論Ⅰ②　証券市場論Ⅱ② 企業会計論Ⅱ②　財務会計論Ⅱ②　経営戦略論Ⅰ② 経営管理論Ⅰ②　原価計算論④　経営戦略論Ⅱ② 経営管理論Ⅱ②　財務管理論Ⅰ②　経営組織論Ⅰ② 経営史Ⅰ②　財務管理論Ⅱ②　経営組織論Ⅱ② 経営史Ⅱ②　ビジネスライティングⅠ②　人的資源論Ⅰ② マーケティング論Ⅰ②　ビジネスライティングⅡ②　人的資源論Ⅱ② マーケティング論Ⅱ②　経営英書講読Ⅰ②　ベンチャービジネス論Ⅰ②

注1）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注2）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

３　年	４　年	卒業要件単位数
		4
		4
		6
		4
３年次ゼミナール④	４年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	10
		6
経済学史Ⅱ② 市場と政府Ⅰ② 市場と政府Ⅱ② 経済史入門A② 経済史入門B② 社会経済史Ⅰ② 社会経済史Ⅱ② 社会政策Ⅰ② 社会政策Ⅱ②		16
[３・４年] 比較制度論A② 比較制度論B② 経済理論特別講義A② 経済理論特別講義B② 応用経済学特別講義A② 応用経済学特別講義B② 経済史特別講義A② 経済史特別講義B② 社会問題特別講義A② 社会問題特別講義B②		36
ベンチャービジネス論Ⅱ② 生産管理論Ⅰ② 生産管理論Ⅱ② 企業論Ⅰ② 企業論Ⅱ② 経営情報論Ⅰ② 経営情報論Ⅱ② 消費者行動論② マーケティング・サイエンス② 商品開発論Ⅰ② 商品開発論Ⅱ② サービス・マーケティング論Ⅰ② サービス・マーケティング論Ⅱ② ツーリズム・マーケティング論Ⅰ② ツーリズム・マーケティング論Ⅱ② 流通論② デジタル・マーケティング② 管理会計論④ 税務会計論Ⅰ② 税務会計論Ⅱ② 国際経営論Ⅰ② 国際経営論Ⅱ② 公企業論Ⅰ② 公企業論Ⅱ② 交通論Ⅰ② 交通論Ⅱ② 貿易論Ⅰ② 貿易論Ⅱ② リスクマネジメント論Ⅰ② リスクマネジメント論Ⅱ② 金融システム論Ⅰ② 金融システム論Ⅱ② 会計監査論Ⅰ② 会計監査論Ⅱ② 財務諸表分析Ⅰ② 財務諸表分析Ⅱ② 中小企業論Ⅰ② 中小企業論Ⅱ② プログラミングと機械学習Ⅰ② プログラミングと機械学習Ⅱ② 経営学特殊講義Ａ② 経営学特殊講義Ｂ② 経営学特殊講義Ｃ② 経営学特殊講義Ｄ② 経営学特殊講義Ｅ② 経営学特殊講義Ｆ②		20

第３表　Ⅱ. 経済学科授業科目一覧表（つづき①）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年	2　年
自由設計科目	推奨科目	法学関連科目		[2～4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④
		教養科目	[1～4年] 外国文化Ⅰａ② 外国文化Ⅰｂ② 外国文化Ⅱａ② 外国文化Ⅱｂ② 外国文化Ⅲａ② 外国文化Ⅲｂ② 外国文化Ⅳａ② 外国文化Ⅳｂ② 心理学ａ② 心理学ｂ② 数学Ⅰａ② 数学Ⅰｂ② 数学Ⅱａ② 数学Ⅱｂ② 現代社会とスポーツ②	
		全学共通教育科目	[1～4年] WRD④ コンピュータ・リテラシーＡ１② コンピュータ・リテラシーＡ２② コンピュータ・リテラシーＢ② コンピュータ・リテラシーＣ② コンピュータ・リテラシーＤ② コンピュータ・リテラシーＥ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は	
	一般科目	全学共通教育科目	[1～4年] 英語リスニング＆スピーキング（初級）a① 英語リスニング＆スピーキング（初級）b① 英語リスニング＆スピーキング（中級）a① 英語リスニング＆スピーキング（中級）b① 英語リスニング＆スピーキング（上級）a① 英語リスニング＆スピーキング（上級）b① 英語リーディング＆ライティング（初級）a① 英語リーディング＆ライティング（初級）b① 英語リーディング＆ライティング（中級）a① 英語リーディング＆ライティング（中級）b① 英語リーディング＆ライティング（上級）a① 英語リーディング＆ライティング（上級）b① 英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論Ⅷa② 現代社会論Ⅷb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb② 表現文化論Ⅴa② 表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa② 表現文化論Ⅵb② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史文化論Ⅰa② 歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa② 歴史文化論Ⅱb② 歴史文化論Ⅲa② 歴史文化論Ⅲb② 歴史文化論Ⅳa② スポーツ・ウエルネス教育科目【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅲ－３　分野別履修方法（自由設計科目）Ⓑ 一般科目 1 全学共通	

注１）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年	卒業要件単位数
[3・4年] 会社法Ⅰ② 会社法Ⅱ② 国際法Ⅰ④ 国際法Ⅱ④ 行政法Ⅰ④ 行政学④ 労働基準法④ 労働組合法④ 国際取引法④ 環境法② 社会保障法④ 税法Ⅰ② 税法Ⅱ② 金融商品取引法② 商取引法② 経済法Ⅰ② 経済法Ⅱ② 国際経済法④ 公務員法・行政組織法② 消費者法Ⅰ② 消費者法Ⅱ② 知的財産法④	20
スポーツ産業論② TOEIC（特級）Ⅰa① TOEIC（特級）Ⅰb① TOEIC（特級）Ⅱa① TOEIC（特級）Ⅱb① EAP（English for Academic Purposes）a① EAP（English for Academic Purposes）b① TOEFL a① TOEFL b① 中国語（特級）a① 中国語（特級）b① 政治経済論入門Ⅰ② 政治経済論入門Ⅱ② 図書館活用法② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b② Ⅲ－3　分野別履修方法（自由設計科目）A推奨科目４全学共通教育科目を参照】	
仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択a① 韓国語会話選択b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b① 総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ② 特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ② 歴史文化論Ⅳb② 歴史文化論Ⅴa② 歴史文化論Ⅴb② 歴史文化論演習a② 歴史文化論演習b② 地域空間論Ⅰa② 地域空間論Ⅰb② 地域空間論Ⅱa② 地域空間論Ⅱb② 地域空間論Ⅲa② 地域空間論Ⅲb② 地域空間論Ⅳa② 地域空間論Ⅳb② 地域空間論Ⅴa② 地域空間論Ⅴb② 地域空間論Ⅵa② 地域空間論Ⅵb② 地域空間論Ⅶa② 地域空間論Ⅶb② 地域空間論Ⅷa② 地域空間論Ⅷb② 地域空間論演習a② 地域空間論演習b② 数理の世界a② 数理の世界b② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b② 自然科学Ⅰa② 自然科学Ⅰb② 自然科学Ⅱa② 自然科学Ⅱb② 自然科学Ⅲa② 自然科学Ⅲb② 自然科学Ⅳa② 自然科学Ⅳb② 自然科学Ⅴa② 自然科学Ⅴb② 数理・自然科学演習ａ② 数理・自然科学演習ｂ② こころと身体ａ② こころと身体ｂ② 身体と運動・スポーツａ② 身体と運動・スポーツｂ② 心身論Ⅰa② 心身論Ⅰb② 心身論Ⅱa② 心身論Ⅱb② 心身論Ⅲa② 心身論Ⅲb② 心身論Ⅳa② 心身論Ⅳb② 心身論Ⅴa② 心身論Ⅴb② 心身論演習ａ② 心身論演習ｂ② 教育科目を参照】	18

第３表　Ⅱ. 経済学科授業科目一覧表（つづき②）

分野・区分 ＼ 配当年次			１　年	２　年
自由設計科目	一般科目	他学部開設科目		[2～4年] ギリシャ古典入門④ ギリシャ古典講読④ ローマ古典入門④ ローマ古典講読④ 古代国文学講義Ⅰ② 古代国文学講義Ⅱ② 中古国文学講義Ⅰ② 中古国文学講義Ⅱ② 中世国文学講義Ⅰ② 中世国文学講義Ⅱ② 近世国文学講義Ⅰ② 近世国文学講義Ⅱ② 近代国文学講義Ⅰ② 近代国文学講義Ⅱ② 漢文学講義Ⅰ② 漢文学講義Ⅱ② 国語学講義Ⅰ② 国語学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅰ② 国語国文学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅲ② 国語国文学講義Ⅳ② 国語国文学講義Ⅴ② 国語国文学講義Ⅵ② 国語国文学講義Ⅶ② 国語国文学講義Ⅷ② 国語国文学講義Ⅸ② 国語国文学講義Ⅹ② 英語学概論④ 英語文学史④ 美学・芸術学入門ａ② 美学・芸術学入門ｂ② 美術史入門ａ② 美術史入門ｂ② 美学一般講義ａ② 美学一般講義ｂ② 音楽学一般講義ａ② 音楽学一般講義ｂ② 演劇学一般講義ａ② 演劇学一般講義ｂ② 映画学一般講義ａ② 映画学一般講義ｂ② 日本美術史一般講義ａ② 日本美術史一般講義ｂ② 東洋美術史一般講義ａ② 東洋美術史一般講義ｂ② 西洋美術史一般講義Ⅰａ② 西洋美術史一般講義Ⅰｂ② 西洋美術史一般講義Ⅱａ② 西洋美術史一般講義Ⅱｂ② 美学特殊講義Ⅰ② 美学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅰ② 芸術学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅲ② 芸術学特殊講義Ⅳ② 芸術学特殊講義Ⅴ② 美術史特殊講義Ⅰ② 美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅰａ② 文化史特殊講義Ⅰｂ②
教職関連科目			【教職関連科目は、Ⅲ－４　分野別履修方法（教職関連科目）を参照】	

注１）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年			卒業要件単位数
文化史特殊講義Ⅱａ②	マスコミ原論②	ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)②	18
文化史特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ史②	ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅲａ②	ジャーナリズム論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅲｂ②	リスクコミュニケーション論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅳａ②	社会心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅳｂ②	広告心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)②	
歴史学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ研究法②	広域芸術論講義②	
歴史学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅰ②	ヨーロッパの文化特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅱ②	ヨーロッパの文化特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅲ②	西洋古典特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅲａ②	マスコミ講義Ⅳ②	西洋古典特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅲｂ②	マスコミ講義Ⅴ②	言語学特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ講義Ⅵ②	言語学特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅶ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅷ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅸ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅰ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅱ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)②	
文化人類学特殊講義Ⅰａ②	コミュニケーション講義Ⅲ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)②	
文化人類学特殊講義Ⅰｂ②	コミュニケーション講義Ⅳ②	広域芸術論特殊講義②	
文化人類学特殊講義Ⅱａ②	コミュニケーション講義Ⅴ②	哲学史特殊講義ａ②	
文化人類学特殊講義Ⅱｂ②	コミュニケーション講義Ⅵ②	哲学史特殊講義ｂ②	
文化人類学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅶ②	ヨーロッパ文化史④	
文化人類学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅷ②	アメリカ文化史④	
日本文化史ａ②	コミュニケーション講義Ⅸ②	日本文学④	
日本文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅰ②	外国文学④	
東洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅱ②	エコロジー論④	
東洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅲ②	文明と社会④	
西洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅳ②	家族と社会の変動④	
西洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅴ②	短期学外演習②	
考古学ａ②	マスコミ特殊講義Ⅵ②		
考古学ｂ②	ヨーロッパの文化④		
[3・4年]			
英語学特殊講義Ａ②	英語文学特殊講義Ａ②	英語文化特殊講義Ａ②	
英語学特殊講義Ｂ②	英語文学特殊講義Ｂ②	英語文化特殊講義Ｂ②	
			－
合　　計			124

Ⅲ−1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経済学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と基礎数理から構成される。

A 語　学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか１つ）であり、必修科目である。卒業に必要な語学の単位数は**第４表**のとおりである。

第４表　卒業に必要な語学の規定単位数

		1年次 前期	1年次 後期	計
英　語		英語読解（1）a① 上級英語読解（1）a① いずれか１科目	英語読解（1）b① 上級英語読解（1）b① いずれか１科目	4
		Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）a① いずれか１科目	Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）b① いずれか１科目	
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（初級）a②	（初級）b②	4
計		4	4	8

		2年次 前期	2年次 後期	計
英　語		英語読解（2）a① 上級英語読解（2）a① いずれか１科目	英語読解（2）b① 上級英語読解（2）b① いずれか１科目	4
		コース別 TOEIC a ① 上級 TOEIC a ① Communicative English（2）a ① Advanced Communicative English（2）a ① いずれか１科目	コース別 TOEIC b ① 上級 TOEIC b ① Communicative English（2）b ① Advanced Communicative English（2）b ① いずれか１科目	
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（中級）a①	（中級）b ①	2
計		3	3	6

計	14

1 「英　　語」

１年次配当の週２回の英語の授業は、１つは読解、もう１つはネイティヴの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。
２年次では週２回の授業を、１つは読解、もう１つはTOEIC準備コース／ Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて１つ選ぶコース別英語の授業を行う。
※ コース選択の方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

2 「独語」・「仏語」・「中国語」

１年次配当の「初級」は週２回、２年次配当の「中級」は週１回の授業を行う。

3 履修上の注意

《英語》
① 英語は下表のとおり履修するクラスが指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と7月下旬～8月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と1月下旬～2月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラス（各レベル）を履修する

英語の科目はいずれも教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、1年次後期の英語科目は、4月時点では履修するクラスが未定のため担当教員名は「教務部」となっている。実際に受講する各授業科目への登録変更は、前期成績確定後に教務部が行うので、1年次後期英語科目のクラスや担当

教員については、後期開講前に確認すること。

② 英語の再履修
配当年次や学期、授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、**再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。**

※ 登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
例）1年次前期に、「Advanced Communicative English（a）」を履修し不合格だった場合、1年次後期以降、「Communicative English（再）」を履修する。

《独語・仏語・中国語》

① 「初級a/b」、「中級a/b」は教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、履修登録は下記の履修条件によって行われる。
- 「初級b」は「初級a」合格者のみが履修できる。
- 「中級a」及び「中級b」は、「初級b」合格者のみが履修できる（「中級a」が単位未修得の場合でも「中級b」は履修できる）。

※ 前期履修科目が不合格となり、後期に事前登録されている科目の履修条件を満たさなかった場合、後期に登録されている科目は削除される。

※「初級a」、「初級b」については、進級に大きく影響するため、早期の修得が望ましい。

② 独語・仏語・中国語の再履修
前期に履修した「初級a」または「初級b」が不合格となった場合は、後期に自身で再履修クラスを履修登録することができる。ただし、定員が設けられているため、後期の抽選登録が必要となる。

B 基礎数理

1 基礎数理

基礎数理の開設科目は、**第５表**のとおりである。
基礎数理は、経済学科の専門分野にわたって共通に必要とされる論理的思考や数量的な分析の基礎を習得することを目的とした科目である。

第５表　基礎数理

授　業　科　目	配当年次	単位
データ解析入門Ⅰ	1	2
データ解析入門Ⅱ	1	2
数学入門Ⅰ	1	2
数学入門Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

① 進級および卒業に必要な単位数は4単位である。
② 基礎数理科目は必修科目ではないが、1年次は全ての科目を履修することになっている。
③ 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目（推奨科目）に算入することができる。
④ 基礎数理の科目が不合格で進級に必要な単位数を満たせない場合は、翌年度に再履修すること。
⑤ 2年次以降に基礎数理科目の履修を希望する場合、特別な履修登録手続きが必要である。
登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

Ⅲ–2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「基礎ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎必修科目、専門基礎選択科目、専門選択科目である。各分野の規定単位数は、**第６表**に、またそれぞれの開設科目、配当年次は**第７表～第９表**のとおりである。

第６表　専門科目規定単位数

分野	区　　分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	10
	専門基礎必修科目	6
	専門基礎選択科目	16
	専門選択科目	36
計		68

A ゼミナール

1 ゼミナール および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って、担当教員の下で、活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の修得と、主体性と自立心を養うことを目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第7表　ゼミナール

授　業　科　目	配当年次	単位
基礎ゼミナール*	2	2
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

＊3年次以降は基礎ゼミナールを履修することはできない。

2 履修上の注意

① ゼミナールは定員が定められており、履修希望者数がそれを超えた場合には選考することがある。
② 卒業要件・進級基準におけるゼミナールの規定単位数を超えて修得した単位は、専門基礎選択科目に充当することができる。（基礎ゼミナールを前期2単位、後期2単位の4単位修得した場合、2単位はゼミナール、2単位は専門基礎選択科目の進級基準の規定単位として認められる。）
③ 3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならず、原則として指導教員の変更は認められない。
④ 3年次ゼミナールが不合格の者は4年次ゼミナールを履修することができず、当該ゼミナールを再履修しなければならない。従って、3年次ゼミナールの単位を修得できなかった場合は、卒業年度が1年遅れることとなる。
⑤「ゼミナール」の登録については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑥「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は、卒業論文の執筆を含む4単位の科目である。卒業論文を提出した場合であっても、「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の場合は、同科目の再履修と卒業論文の再提出が義務付けられる。
⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること Ⅸ 卒業論文】を参照すること。

B 専門基礎科目

1 必修科目・選択科目

専門基礎科目は必修科目と選択科目から構成され、**第8表**のとおりである。
必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は1年次配当の必修科目であり、いずれも「講義クラス」と「演習クラス」からなる週2回の授業である。週1回の「講義クラス」で学んだ基本的な考え方や基礎的な知識の理解を深めるために、少人数での「演習クラス」が用意され、きめ細かな指導が行われる。
選択科目は、専門選択科目を学ぶための基礎となる科目である。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表　専門基礎科目

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
必修科目	ミクロ経済学入門・演習	1	3
	マクロ経済学入門・演習	1	3
選択科目	ミクロ経済学Ⅰ	2～4	2
	ミクロ経済学Ⅱ	2～4	2
	マクロ経済学Ⅰ	2～4	2
	マクロ経済学Ⅱ	2～4	2
	ゲーム理論入門	2～4	2
	統計学	2～4	4
	経済学史Ⅰ	2～4	2
選択科目	経済学史Ⅱ	2～4	2
	市場と政府Ⅰ	2～4	2
	市場と政府Ⅱ	2～4	2
	経済史入門A	2～4	2
	経済史入門B	2～4	2
	社会経済史Ⅰ	2～4	2
	社会経済史Ⅱ	2～4	2
	社会政策Ⅰ	2～4	2
	社会政策Ⅱ	2～4	2

2 履修上の注意

① 必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は複数クラス開講されるが、教務部がクラスを指定し、事前登録を行う。なお、単位未修得者も、教務部で事前登録を行う。
② 選択科目で規定単位数（16単位）を超えて修得した単位は、専門選択科目に算入することができる。
なお、ゼミナールから充当した単位数がある場合も、その単位数と専門基礎選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して16単位を超えていれば、その超えた単位数を専門選択科目に充当することができるものとする。
③ 2024年度をもって「経済と社会Ⅰ・Ⅱ」、「ミクロ経済学概論」、「マクロ経済学概論」は廃講となった。なお、修得済みの科目は専門基礎科目の単位として認められる。
④ 2025年度に「ゲーム理論入門」、「経済史入門A・B」が新設された。

C 専門選択科目

1 専門選択科目

専門選択科目は、**第９表**のとおりである。
専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経済学科開設の科目である。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第９表　専門選択科目

授　業　科　目	配当年次	単位	授　業　科　目	配当年次	単位
フレッシャーズ・セミナー	1	2	東洋経済史Ⅰ	2～4	2
外国史概説 A	1～4	2	東洋経済史Ⅱ	2～4	2
外国史概説 B	1～4	2	現代経済史Ⅰ	2～4	2
社会問題入門	1～4	2	現代経済史Ⅱ	2～4	2
社会科学入門	1～4	2	社会思想史Ⅰ	2～4	2
経済数学Ⅰ	2～4	2	社会思想史Ⅱ	2～4	2
経済数学Ⅱ	2～4	2	社会保障論Ⅰ	2～4	2
数理経済学 A	2～4	2	社会保障論Ⅱ	2～4	2
数理経済学 B	2～4	2	社会キャリア論 A	2～4	2
経済変動論 A	2～4	2	社会キャリア論 B	2～4	2
経済変動論 B	2～4	2	社会デザイン論Ⅰ	2～4	2
経済統計論	2～4	4	社会デザイン論Ⅱ	2～4	2
計量経済学Ⅰ	2～4	2	日本経済論 A	2～4	2
計量経済学Ⅱ	2～4	2	日本経済論 B	2～4	2
産業組織論Ⅰ	2～4	2	世界経済事情 A	2～4	2
産業組織論Ⅱ	2～4	2	世界経済事情 B	2～4	2
経済思想史Ⅰ	2～4	2	国際関係論Ⅰ	2～4	2
経済思想史Ⅱ	2～4	2	国際関係論Ⅱ	2～4	2
金融論Ⅰ	2～4	2	経済地理学Ⅰ	2～4	2
金融論Ⅱ	2～4	2	経済地理学Ⅱ	2～4	2
国際金融論Ⅰ	2～4	2	英経済書講読Ⅰ	2～4	2
国際金融論Ⅱ	2～4	2	英経済書講読Ⅱ	2～4	2
財政学Ⅰ	2～4	2	独経済書講読 A	2～4	2
財政学Ⅱ	2～4	2	独経済書講読 B	2～4	2
公共経済学Ⅰ	2～4	2	仏経済書講読 A	2～4	2
公共経済学Ⅱ	2～4	2	仏経済書講読 B	2～4	2
医療経済論Ⅰ	2～4	2	中国経済書講読 A	2～4	2
医療経済論Ⅱ	2～4	2	中国経済書講読 B	2～4	2
国際貿易論Ⅰ	2～4	2	比較制度論 A	3・4	2
国際貿易論Ⅱ	2～4	2	比較制度論 B	3・4	2
開発経済学Ⅰ	2～4	2	経済理論特別講義 A	3・4	2
開発経済学Ⅱ	2～4	2	経済理論特別講義 B	3・4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2～4	2	応用経済学特別講義 A	3・4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2～4	2	応用経済学特別講義 B	3・4	2
環境経済学Ⅰ	2～4	2	応用経済学特別講義 C	2～4	2
環境経済学Ⅱ	2～4	2	応用経済学特別講義 D	2～4	2
日本経済史Ⅰ	2～4	2	経済史特別講義 A	3・4	2
日本経済史Ⅱ	2～4	2	経済史特別講義 B	3・4	2
西洋経済史Ⅰ	2～4	2	社会問題特別講義 A	3・4	2
西洋経済史Ⅱ	2～4	2	社会問題特別講義 B	3・4	2

2 履修上の注意

① 専門選択科目の規定単位数は36単位である。
② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目に算入することができる。なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して36単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目に充当することができるものとする。
③「フレッシャーズ・セミナー」は、経済学科1年次のみ履修することができる。
④「フレッシャーズ・セミナー」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑤ 専門選択科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。

Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

1　自由設計科目

自由設計科目は、各人の専門能力を高めると同時に、各人の興味・関心に関連した知識、スキルを習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、**第10表**のとおり、12区分から構成されている。
なお、自由設計科目の規定単位数は、**第11表**に示される単位によっても充当することができる。

第10表　自由設計科目

区分				規定単位数
推奨科目	専門選択関連科目			20
	法学関連科目			
	教養科目			
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	WRD、IT科目	
		教養科目群	系列科目の一部	
		キャリアデザイン科目群		
		国際交流科目群		
		データサイエンス科目群		
一般科目	全学共通教育科目	リテラシー科目群	外国語科目	18
		教養科目群	総合科目、成城学、系列科目の一部	
		スポーツ・ウエルネス教育科目		
	他学部開設科目			

第11表　自由設計科目に充当できる単位

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
基礎数理	4	推奨科目の単位として充当
専門選択科目 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位 ゼミナールの規定単位数を超えて修得した単位	36	

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
推奨科目 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位 ゼミナールの規定単位数を超えて修得した単位	20	一般科目の単位として充当

2　履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。

A 推奨科目

推奨科目は、「専門選択関連科目」、「法学関連科目」、「教養科目」、「全学共通教育科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 専門選択関連科目

専門選択関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経営学系の専門科目であり、開設科目は**第12表**のとおりである。

第12表　専門選択関連科目

授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位
会計学総論Ⅰ	2～4	2	マーケティング・サイエンス	2～4	2
会計学総論Ⅱ	2～4	2	商品開発論Ⅰ	2～4	2
企業会計論Ⅰ	2～4	2	商品開発論Ⅱ	2～4	2
企業会計論Ⅱ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営管理論Ⅰ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営管理論Ⅱ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営史Ⅰ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営史Ⅱ	2～4	2	流通論	2～4	2
マーケティング論Ⅰ	2～4	2	デジタル・マーケティング	2～4	2
マーケティング論Ⅱ	2～4	2	管理会計論	2～4	4
経営統計学Ⅰ	2～4	2	税務会計論Ⅰ	2～4	2
経営統計学Ⅱ	2～4	2	税務会計論Ⅱ	2～4	2
財務会計論Ⅰ	2～4	2	国際経営論Ⅰ	2～4	2
財務会計論Ⅱ	2～4	2	国際経営論Ⅱ	2～4	2
原価計算論	2～4	4	公企業論Ⅰ	2～4	2
財務管理論Ⅰ	2～4	2	公企業論Ⅱ	2～4	2
財務管理論Ⅱ	2～4	2	交通論Ⅰ	2～4	2
ビジネスライティングⅠ	2～4	2	交通論Ⅱ	2～4	2
ビジネスライティングⅡ	2～4	2	貿易論Ⅰ	2～4	2
経営英書講読Ⅰ	2～4	2	貿易論Ⅱ	2～4	2
経営英書講読Ⅱ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2～4	2
証券市場論Ⅰ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2～4	2
証券市場論Ⅱ	2～4	2	金融システム論Ⅰ	2～4	2
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	金融システム論Ⅱ	2～4	2
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	会計監査論Ⅰ	2～4	2
経営組織論Ⅰ	2～4	2	会計監査論Ⅱ	2～4	2
経営組織論Ⅱ	2～4	2	財務諸表分析Ⅰ	2～4	2
人的資源論Ⅰ	2～4	2	財務諸表分析Ⅱ	2～4	2
人的資源論Ⅱ	2～4	2	中小企業論Ⅰ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2～4	2	中小企業論Ⅱ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅰ	2～4	2
生産管理論Ⅰ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅱ	2～4	2
生産管理論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 A	2～4	2
企業論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義 B	2～4	2
企業論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 C	2～4	2
経営情報論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義 D	2～4	2
経営情報論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 E	2～4	2
消費者行動論	2～4	2	経営学特殊講義 F	2～4	2

〔第12表の注意事項〕
「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、**第13表**のとおりである。

第13表　法学関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
民法概論	2～4	4
商法概論	2～4	4
憲法	2～4	4
会社法Ⅰ	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4
国際法Ⅱ	3・4	4
行政法Ⅰ	3・4	4
行政学	3・4	4
労働基準法	3・4	4
労働組合法	3・4	4
国際取引法	3・4	4
環境法	3・4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
社会保障法	3・4	4
税法Ⅰ	3・4	2
税法Ⅱ	3・4	2
金融商品取引法	3・4	2
商取引法	3・4	2
経済法Ⅰ	3・4	2
経済法Ⅱ	3・4	2
国際経済法	3・4	4
公務員法・行政組織法	3・4	2
消費者法Ⅰ	3・4	2
消費者法Ⅱ	3・4	2
知的財産法	3・4	4

3 教 養 科 目

教養科目の開設科目は、**第14表**のとおりである。

第14表　教養科目

授　業　科　目	配当年次	単位
外国文化Ⅰ a	1～4	2
外国文化Ⅰ b	1～4	2
外国文化Ⅱ a	1～4	2
外国文化Ⅱ b	1～4	2
外国文化Ⅲ a	1～4	2
外国文化Ⅲ b	1～4	2
外国文化Ⅳ a	1～4	2
外国文化Ⅳ b	1～4	2
心理学 a	1～4	2
心理学 b	1～4	2
数学Ⅰ a	1～4	2
数学Ⅰ b	1～4	2
数学Ⅱ a	1～4	2
数学Ⅱ b	1～4	2
現代社会とスポーツ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
スポーツ産業論	1～4	2
TOEIC（特級）Ⅰ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅰ b	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ b	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）a	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）b	1～4	1
TOEFL a	1～4	1
TOEFL b	1～4	1
中国語（特級）a	1～4	1
中国語（特級）b	1～4	1
政治経済論入門Ⅰ	1～4	2
政治経済論入門Ⅱ	1～4	2

〔第14表の注意事項〕

「TOEIC（特級）Ⅰa」、「TOEIC（特級）Ⅰb」、「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

4 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、**第15表～第19表**のとおりである。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

〔注意事項〕

全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

a リテラシー科目群

リテラシー科目群の開設科目は**第15表**のとおりである。

第15表　リテラシー科目群（WRD、IT科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
WRD	WRD	1～4	4
IT科目	コンピュータ・リテラシー A1	1～4	2
	コンピュータ・リテラシー A2	1～4	2
	コンピュータ・リテラシー B	1～4	2
	コンピュータ・リテラシー C	1～4	2
	コンピュータ・リテラシー D	1～4	2
	コンピュータ・リテラシー E	1～4	2
	図書館活用法	1～4	2

〔第15表の注意事項〕

① 「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。

② セットで履修した「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

b 教養科目群

教養科目群の開設科目は**第16表**のとおりである。

第16表　教養科目群（系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
現代社会論系列	基幹	社会学入門 a	1～4	2
		社会学入門 b	1～4	2
		メディア論入門 a	1～4	2
		メディア論入門 b	1～4	2
社会構造論系列	基幹	国際関係論入門 a	1～4	2
		国際関係論入門 b	1～4	2
		経済学入門 a	1～4	2
		経済学入門 b	1～4	2
		政治学入門 a	1～4	2
		政治学入門 b	1～4	2
		情報社会論入門 a	1～4	2
		情報社会論入門 b	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）a	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）b	1～4	2
思想・人間論系列	基幹	哲学入門 a	1～4	2
		哲学入門 b	1～4	2
		宗教学入門 a	1～4	2
		宗教学入門 b	1～4	2
		倫理学入門 a	1～4	2
		倫理学入門 b	1～4	2
		西洋思想入門 a	1～4	2
		西洋思想入門 b	1～4	2
		東洋思想入門 a	1～4	2
		東洋思想入門 b	1～4	2
		日本思想入門 a	1～4	2
		日本思想入門 b	1～4	2
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	1～4	2
		歴史学入門 b	1～4	2
		日本近現代史 a	1～4	2
		日本近現代史 b	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 a	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 b	1～4	2
		アジア近現代史 a	1～4	2
		アジア近現代史 b	1～4	2
		アメリカ近現代史 a	1～4	2
		アメリカ近現代史 b	1～4	2
地域空間論系列	基幹	文化人類学入門 a	1～4	2
		文化人類学入門 b	1～4	2
		空間システム論入門 a	1～4	2
		空間システム論入門 b	1～4	2

［C キャリアデザイン科目群］

キャリアデザイン科目群の開設科目は**第17表**のとおりである。

第17表　キャリアデザイン科目群

授　業　科　目	配当年次	単位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第17表の注意事項〕

① 2025年度に科目が一新され、以下の科目は廃講となり、**第17表**の科目が新設された。**☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に推奨科目の卒業要件単位に算入することができる。**なお、上限には修得済の旧授業科目も含まれるため注意すること。

旧授業科目	
☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	職業選択
★プロジェクト演習	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ
★成城インターンシップ	時事英語Ⅰ・Ⅱ
業界企業分析	時事問題研究

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

② キャリアデザイン科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ キャリアデザイン科目群は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

④ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

⑤「キャリア・エクスペリエンス」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑥「キャリア・エクスペリエンス」は反復履修できるが、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。なお、2024年度以前に「成城インターンシップ」の単位を修得している場合、「キャリア・エクスペリエンス」を履修することもできるが、卒業要件単位に算入することはできない。**

［d 国際交流科目群］

国際交流科目群の開設科目は**第18表**のとおりである。

第18表　国際交流科目群

区分	授業科目	配当年次	単位
留学対策科目	Academic Skills ⅠA	1～4	1
	Academic Skills ⅠB	1～4	1
	Academic Skills ⅡA	1～4	1
	Academic Skills ⅡB	1～4	1
	Academic Skills ⅢA	1～4	1
	Academic Skills ⅢB	1～4	1
	Academic Skills ⅣA	1～4	1
	Academic Skills ⅣB	1～4	1
	Academic Skills ⅤA	2～4	1
	Academic Skills ⅤB	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies ⅠA	1～4	2
	Japan Studies ⅠB	1～4	2
	Japan Studies ⅡA	1～4	2
	Japan Studies ⅡB	1～4	2
	Japan Studies ⅢA	1～4	2
	Japan Studies ⅢB	1～4	2
	Japan Studies ⅣA	1～4	2
	Japan Studies ⅣB	1～4	2
	Japan Studies ⅤA	1～4	2
	Japan Studies ⅤB	1～4	2
	Japan Studies ⅥA	1～4	2
	Japan Studies ⅥB	1～4	2
	Japan Studies ⅦA	1～4	2
	Japan Studies ⅦB	1～4	2
	Japan Studies ⅧA	1～4	2
	Japan Studies ⅧB	1～4	2
	Japan Studies ⅨA	1～4	2
	Japan Studies ⅨB	1～4	2
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics ⅠA	1～4	2
	Special Topics ⅠB	1～4	2
	Special Topics ⅡA	1～4	2
	Special Topics ⅡB	1～4	2
	Special Topics ⅢA	1～4	2
	Special Topics ⅢB	1～4	2
	Special Topics ⅣA	1～4	2
	Special Topics ⅣB	1～4	2
	Special Topics ⅤA	1～4	2
	Special Topics ⅤB	1～4	2

区分	授業科目	配当年次	単位
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（スペイン語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	1
受け入れ留学生科目	日本語（初級1）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級1）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅳ	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅠA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅠB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅢA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅢB	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣB	交換留学生等	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第18表の注意事項〕

① **「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。**

② 卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が認められている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は**履修科目登録上限単位数には算入されない。**詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 海外短期語学研修のうち、配当年次が＊印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位授与がされる科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。

⑤「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の授与を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち**卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。**

⑥「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑦ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、または外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。

［ e データサイエンス科目群 ］

データサイエンス科目群の開設科目は**第19表**のとおりである。

第19表　データサイエンス科目群

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
リテラシー科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2～4	2
	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2
選択科目	データアナリティクス応用	2～4	2
	機械学習応用	2～4	2
	数理科学基礎a	1～4	2
	数理科学基礎b	1～4	2
	数理科学応用a	1～4	2
	数理科学応用b	1～4	2

〔第19表の注意事項〕

①「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。

②「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

③「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

B 一般科目

一般科目は、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」によって構成される。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、**第20表～第21表**のとおりである。

[a リテラシー科目群]

リテラシー科目群の開設科目は**第20表**のとおりである。

第20表　リテラシー科目群（外国語科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング（初級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（初級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）b	1～4	1
	英会話選択a	1～4	1
	英会話選択b	1～4	1
	ビジネス英語a	1～4	1
	ビジネス英語b	1～4	1
	英文多読a	1～4	1
	英文多読b	1～4	1
	独会話選択a	1～4	1
	独会話選択b	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	独語選択（中級）a	1～4	1
	独語選択（中級）b	1～4	1
	独語選択（上級）a	1～4	1
	独語選択（上級）b	1～4	1
	仏会話選択a	1～4	1
	仏会話選択b	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
外国語科目	仏語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	仏語選択（中級）a	1～4	1
	仏語選択（中級）b	1～4	1
	仏語選択（上級）a	1～4	1
	仏語選択（上級）b	1～4	1
	スペイン語選択（初級）a	1～4	1
	スペイン語選択（初級）b	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	中国語選択（中級）a	1～4	1
	中国語選択（中級）b	1～4	1
	中国語選択（上級）a	1～4	1
	中国語選択（上級）b	1～4	1
	韓国語会話選択a	1～4	1
	韓国語会話選択b	1～4	1
	韓国語選択（初級）a	1～4	1
	韓国語選択（初級）b	1～4	1
外国語科目（ディプロム・コース）	ディプロム・コース中級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）b	1～4	1

《英語到達目標》

① 「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」
初級：TOEIC　600－700点、英検2級程度
中級：TOEIC　700－800点、英検準1級程度
上級：TOEIC　800－990点、英検1級程度

② 「英会話選択」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

③ 「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。

④ 「英文多読」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》

① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の４～３級の合格。

② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）２級～準１級の合格。

③ 中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の３級の合格。

〔第20表の注意事項〕

① 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備　　考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	•「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	• 上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の中級2単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第１回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

② 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、**卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。**

※単位修得の例

- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**中級（独語）**b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- 「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**上級（仏語）**a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を3単位、「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

［b 教養科目群］

教養科目群の開設科目は**第21表**のとおりである。

第21表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
総合科目		総合講座Ⅰ	1～4	2
		総合講座Ⅱ	1～4	2
		総合講座Ⅲ	1～4	2
		総合講座Ⅳ	1～4	2
		総合講座Ⅴ	1～4	2
		総合講座Ⅵ	1～4	2
		特別講座Ⅰ	1～4	2
		特別講座Ⅱ	1～4	2
成城学		成城学園を知る	1～4	2
		成城学Ⅰ	1～4	2
		成城学Ⅱ	1～4	2
		成城学Ⅲ	1～4	2
		成城学Ⅳ	1～4	2
		成城学Ⅴ	1～4	2
現代社会論系列	展開	現代社会論Ⅰa	1～4	2
		現代社会論Ⅰb	1～4	2
		現代社会論Ⅱa	1～4	2
		現代社会論Ⅱb	1～4	2
		現代社会論Ⅲa	1～4	2
		現代社会論Ⅲb	1～4	2
		現代社会論Ⅳa	1～4	2
		現代社会論Ⅳb	1～4	2
		現代社会論Ⅴa	1～4	2
		現代社会論Ⅴb	1～4	2
		現代社会論Ⅵa	1～4	2
		現代社会論Ⅵb	1～4	2
		現代社会論Ⅶa	1～4	2
		現代社会論Ⅶb	1～4	2
		現代社会論Ⅷa	1～4	2
		現代社会論Ⅷb	1～4	2
		現代社会論演習 a	1～4	2
		現代社会論演習 b	1～4	2
社会構造論系列	展開	社会構造論Ⅰa	1～4	2
		社会構造論Ⅰb	1～4	2
		社会構造論Ⅱa	1～4	2
		社会構造論Ⅱb	1～4	2
		社会構造論Ⅲa	1～4	2
		社会構造論Ⅲb	1～4	2
		社会構造論Ⅳa	1～4	2
		社会構造論Ⅳb	1～4	2
		社会構造論Ⅴa	1～4	2
		社会構造論Ⅴb	1～4	2
		社会構造論Ⅵa	1～4	2
		社会構造論Ⅵb	1～4	2
		社会構造論演習 a	1～4	2
		社会構造論演習 b	1～4	2
思想・人間論系列	展開	思想・人間論Ⅰa	1～4	2
		思想・人間論Ⅰb	1～4	2
		思想・人間論Ⅱa	1～4	2
		思想・人間論Ⅱb	1～4	2
思想・人間論系列	展開	思想・人間論Ⅲa	1～4	2
		思想・人間論Ⅲb	1～4	2
		思想・人間論演習 a	1～4	2
		思想・人間論演習 b	1～4	2
表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1～4	2
		文学入門 b	1～4	2
		言語学入門 a	1～4	2
		言語学入門 b	1～4	2
		音楽入門 a	1～4	2
		音楽入門 b	1～4	2
		表象文化論入門 a	1～4	2
		表象文化論入門 b	1～4	2
	展開	表現文化論Ⅰa	1～4	2
		表現文化論Ⅰb	1～4	2
		表現文化論Ⅱa	1～4	2
		表現文化論Ⅱb	1～4	2
		表現文化論Ⅲa	1～4	2
		表現文化論Ⅲb	1～4	2
		表現文化論Ⅳa	1～4	2
		表現文化論Ⅳb	1～4	2
		表現文化論Ⅴa	1～4	2
		表現文化論Ⅴb	1～4	2
		表現文化論Ⅵa	1～4	2
		表現文化論Ⅵb	1～4	2
		表現文化論演習 a	1～4	2
		表現文化論演習 b	1～4	2
歴史文化論系列	展開	歴史文化論Ⅰa	1～4	2
		歴史文化論Ⅰb	1～4	2
		歴史文化論Ⅱa	1～4	2
		歴史文化論Ⅱb	1～4	2
		歴史文化論Ⅲa	1～4	2
		歴史文化論Ⅲb	1～4	2
		歴史文化論Ⅳa	1～4	2
		歴史文化論Ⅳb	1～4	2
		歴史文化論Ⅴa	1～4	2
		歴史文化論Ⅴb	1～4	2
		歴史文化論演習 a	1～4	2
		歴史文化論演習 b	1～4	2
地域空間論系列	展開	地域空間論Ⅰa	1～4	2
		地域空間論Ⅰb	1～4	2
		地域空間論Ⅱa	1～4	2
		地域空間論Ⅱb	1～4	2
		地域空間論Ⅲa	1～4	2
		地域空間論Ⅲb	1～4	2
		地域空間論Ⅳa	1～4	2
		地域空間論Ⅳb	1～4	2
		地域空間論Ⅴa	1～4	2
		地域空間論Ⅴb	1～4	2
		地域空間論Ⅵa	1～4	2
		地域空間論Ⅵb	1～4	2

第21表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）（つづき）

分野		授　業　科　目	配当年次	単位
地域空間論系列	展開	地域空間論Ⅶa	1～4	2
		地域空間論Ⅶb	1～4	2
		地域空間論Ⅷa	1～4	2
		地域空間論Ⅷb	1～4	2
		地域空間論演習 a	1～4	2
		地域空間論演習 b	1～4	2
数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1～4	2
		数理の世界 b	1～4	2
		物理の世界 a	1～4	2
		物理の世界 b	1～4	2
		化学の世界 a	1～4	2
		化学の世界 b	1～4	2
		生命科学の世界 a	1～4	2
		生命科学の世界 b	1～4	2
		科学史 a	1～4	2
		科学史 b	1～4	2
	展開	自然科学Ⅰa	1～4	2
		自然科学Ⅰb	1～4	2
		自然科学Ⅱa	1～4	2
		自然科学Ⅱb	1～4	2
		自然科学Ⅲa	1～4	2
		自然科学Ⅲb	1～4	2
		自然科学Ⅳa	1～4	2
		自然科学Ⅳb	1～4	2
		自然科学Ⅴa	1～4	2
		自然科学Ⅴb	1～4	2
		数理・自然科学演習 a	1～4	2
		数理・自然科学演習 b	1～4	2

分野		授　業　科　目	配当年次	単位
心身論系列	基幹	こころと身体 a	1～4	2
		こころと身体 b	1～4	2
		身体と運動・スポーツ a	1～4	2
		身体と運動・スポーツ b	1～4	2
	展開	心身論Ⅰa	1～4	2
		心身論Ⅰb	1～4	2
		心身論Ⅱa	1～4	2
		心身論Ⅱb	1～4	2
		心身論Ⅲa	1～4	2
		心身論Ⅲb	1～4	2
		心身論Ⅳa	1～4	2
		心身論Ⅳb	1～4	2
		心身論Ⅴa	1～4	2
		心身論Ⅴb	1～4	2
		心身論演習 a	1～4	2
		心身論演習 b	1～4	2

〔第21表の注意事項〕
世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

［C スポーツ・ウエルネス教育科目］

スポーツ・ウエルネス教育科目は、**第22表**のとおりである。

第22表　スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース		配当年次	単位
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ		1～4	2
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中）	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー＆フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ　　スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス＆コンディショニング エアロビクス＆ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ＆ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
	身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス			

〔第22表の注意事項〕

① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ **スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室、または指定された教室でガイダンスを行う。**

④ **スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。**なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。

⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。

⑥ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

⑦ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。

2 他学部開設科目

他学部開設科目は、**第23表**のとおりである。

第23表　他学部開設科目

授業科目	配当年次	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2～4	4	文芸
ギリシャ古典講読	2～4	4	文芸
ローマ古典入門	2～4	4	文芸
ローマ古典講読	2～4	4	文芸
古代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
古代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅲ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅳ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅴ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅵ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅶ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅷ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅸ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅹ	2～4	2	文芸
英語学概論	2～4	4	文芸
英語文学史	2～4	4	文芸
英語学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義B	3・4	2	文芸
美学・芸術学入門a	2～4	2	文芸
美学・芸術学入門b	2～4	2	文芸
美術史入門a	2～4	2	文芸
美術史入門b	2～4	2	文芸
美学一般講義a	2～4	2	文芸
美学一般講義b	2～4	2	文芸
音楽学一般講義a	2～4	2	文芸
音楽学一般講義b	2～4	2	文芸
演劇学一般講義a	2～4	2	文芸
演劇学一般講義b	2～4	2	文芸
映画学一般講義a	2～4	2	文芸
映画学一般講義b	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義a	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義b	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義a	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義b	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰb	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱb	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
日本文化史a	2～4	2	文芸
日本文化史b	2～4	2	文芸
東洋文化史a	2～4	2	文芸
東洋文化史b	2～4	2	文芸
西洋文化史a	2～4	2	文芸
西洋文化史b	2～4	2	文芸

第23表　他学部開設科目（つづき）

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
考古学a	2～4	2	文芸
考古学b	2～4	2	文芸
マスコミ原論	2～4	2	文芸
マスコミ史	2～4	2	文芸
ジャーナリズム論	2～4	2	文芸
リスクコミュニケーション論	2～4	2	文芸
社会心理学	2～4	2	文芸
広告心理学	2～4	2	文芸
マスコミ研究法	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化	2～4	4	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論講義	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義a	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義b	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義a	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義b	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論特殊講義	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義a	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義b	2～4	2	文芸
ヨーロッパ文化史	2～4	4	法
アメリカ文化史	2～4	4	法
日本文学	2～4	4	法
外国文学	2～4	4	法
エコロジー論	2～4	4	社会イノベーション
文明と社会	2～4	4	社会イノベーション
家族と社会の変動	2～4	4	社会イノベーション
短期学外演習	2～4	2	社会イノベーション

〔第23表の注意事項〕

① 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。**修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② 「マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

教職関連科目は、**第24表**のとおりである。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第24表　教職関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
日本史概説 a	2～4	2
日本史概説 b	2～4	2
人文地理学 a	2～4	2
人文地理学 b	2～4	2
地理学講義 a	2～4	2
地理学講義 b	2～4	2
地誌学 a	2～4	2
地誌学 b	2～4	2
哲学講義 a	2～4	2
哲学講義 b	2～4	2
宗教学講義 a	2～4	2
宗教学講義 b	2～4	2
倫理学講義 a	2～4	2
倫理学講義 b	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第24表の注意事項〕

① 教職関連科目は、教職課程を登録した者が「『教科に関する専門的事項』に該当する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない。**
③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 Ⅱ 教職課程科目の履修　6 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

Ⅳ 経済学科　履修系統図

凡例：基 基礎数理科目　専 専門科目　推 自由設計科目（推奨科目）

末尾文字：①末尾「Ⅱ」の科目は同一科目名の末尾「Ⅰ」の科目内容を前提とする。
②末尾文字にA～Dを持つ同一科目名の科目間には前提関係はない。
③語学の（　）内数字は年次、「a」は前期科目、「b」は後期科目を表す。

修得能力

国際社会で必要とされる外国語能力。

【語学】

英語

- 英語読解（1）a・b → 英語読解（2）a・b
- 上級英語読解（1）a・b → 上級英語読解（2）a・b
- Communicative English（1）a・b → Communicative English（2）a・b
- Advanced Communicative English（1）a・b → Advanced Communicative English（2）a・b
- TOEIC a・b
- 上級 TOEIC a・b

第二外国語

- 独語（初級）a・b → 独語（中級）a・b
- 仏語（初級）a・b → 仏語（中級）a・b
- 中国語（初級）a・b → 中国語（中級）a・b

修得能力

コミュニケーション能力および提案・発信能力。

ゼミナール

- 専 基礎ゼミナール → 専 3年次ゼミナール → 専 4年次ゼミナール（卒業論文を含む）

修得能力

経済学の実証分析に必須なデータ処理・統計的分析能力。

- 基 データ解析入門Ⅰ → 基 データ解析入門Ⅱ
- 基 数学入門Ⅰ → 基 数学入門Ⅱ
- 専 統計学 / 計量経済学Ⅰ → 専 経済統計論 / 計量経済学Ⅱ
- 専 経済数学Ⅰ → 専 経済数学Ⅱ

修得能力

経済学の理論的分析に必要な基本的概念の修得と論理的思考力。

- 専 ミクロ経済学入門・演習
- 専 マクロ経済学入門・演習
- 専 ミクロ経済学Ⅰ / マクロ経済学Ⅰ / ゲーム理論入門 → 専 ミクロ経済学Ⅱ / 専 マクロ経済学Ⅱ → 専 比較制度論A / 比較制度論B / 産業組織論Ⅰ / 数理経済学A / 数理経済学B → 専 経済変動論A / 経済変動論B / 産業組織論Ⅱ / 経済理論特別講義A / 経済理論特別講義B

修得能力

現実の経済問題および経済政策に関わる分析方法の学修を通じて培われる問題発見能力、問題解決能力。

- 専 国際貿易論Ⅰ / 国際金融論Ⅰ / 食料・資源経済論Ⅰ / 開発経済学Ⅰ / 環境経済学Ⅰ → 専 国際貿易論Ⅱ / 国際金融論Ⅱ / 食料・資源経済論Ⅱ / 開発経済学Ⅱ / 環境経済学Ⅱ
- 専 財政学Ⅰ / 公共経済学Ⅰ / 医療経済論Ⅰ / 金融論Ⅰ → 専 財政学Ⅱ / 公共経済学Ⅱ / 医療経済論Ⅱ / 金融論Ⅱ
- 専 フレッシャーズ・セミナー
- 専 日本経済論A / 日本経済論B / 市場と政府Ⅰ / 推 政治経済論入門Ⅰ / 専 応用経済学特別講義C / 応用経済学特別講義D
  - → 専 市場と政府Ⅱ / 推 政治経済論入門Ⅱ → 専 世界経済事情A / 世界経済事情B → 専 応用経済学特別講義A / 応用経済学特別講義B

修得能力

経済・社会システムの地域的、歴史的観察により養われる客観的・批判的な理解力、柔軟な課題対応能力。

- 専 外国史概説A / 外国史概説B
- 推 日本近現代史a・b / ヨーロッパ近現代史a・b / アジア近現代史a・b / アメリカ近現代史a・b
- 専 経済史入門A / 経済史入門B / 社会経済史Ⅰ → 専 社会経済史Ⅱ → 専 西洋経済史Ⅰ / 専 東洋経済史Ⅰ / 専 日本経済史Ⅰ → 専 西洋経済史Ⅱ / 専 東洋経済史Ⅱ / 専 日本経済史Ⅱ → 専 現代経済史Ⅰ / 推 経営史Ⅰ → 専 現代経済史Ⅱ / 専 経済史特別講義A / 専 経済史特別講義B / 推 経営史Ⅱ
  - 専 独経済書講読A / 独経済書講読B / 仏経済書講読A / 仏経済書講読B / 中国経済書講読A / 中国経済書講読B

修得能力

社会（労働と生活）の諸問題に対する思想や政策の歴史的展開と現状の修学により培われる経済的・政治的・倫理的政策提言力。

- 専 社会問題入門 / 社会科学入門
- 推 社会学入門a・b / 政治学入門a・b / 西洋思想入門a・b / 歴史学入門a・b / 文化人類学入門a・b
- 専 経済学史Ⅰ / 英経済書講読Ⅰ → 専 経済学史Ⅱ / 英経済書講読Ⅱ
- 専 経済思想史Ⅰ → 専 経済思想史Ⅱ
- 専 社会思想史Ⅰ → 専 社会思想史Ⅱ
- 専 社会政策Ⅰ / 社会デザイン論Ⅰ → 専 社会政策Ⅱ / 社会デザイン論Ⅱ
- 専 社会保障論Ⅰ / 社会キャリア論A / 社会キャリア論B / 経済地理学Ⅰ / 国際関係論Ⅰ / 推 社会保障法 / 労働基準法
  - → 専 社会保障論Ⅱ / 専 経済地理学Ⅱ / 専 国際関係論Ⅱ → 専 社会問題特別講義A / 専 社会問題特別講義B

修得能力

課題発見・探求に必要な幅広い知識および方法の修得。

その他　自由設計科目（別表【自由設計科目一覧】参照）

【自由設計科目一覧】

注意：「政治経済論入門」及び「専門選択関連科目」以外の科目の末尾ローマ数字（Ⅰ、Ⅱなど）は前提関係を示さない。

推奨科目

専門選択関連科目

会計学総論Ⅰ・Ⅱ	経営学特殊講義A～F	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	ベンチャービジネス論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング・サイエンス	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	デジタル・マーケティング	中小企業論Ⅰ・Ⅱ
企業会計論Ⅰ・Ⅱ	財務会計論Ⅰ・Ⅱ	経営統計学Ⅰ・Ⅱ	経営英書講読Ⅰ・Ⅱ	商品開発論Ⅰ・Ⅱ	公企業論Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	貿易論Ⅰ・Ⅱ
経営管理論Ⅰ・Ⅱ	原価計算論Ⅰ・Ⅱ	経営戦略論Ⅰ・Ⅱ	証券市場論Ⅰ・Ⅱ	サービス・マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	交通論Ⅰ・Ⅱ	税務会計論Ⅰ・Ⅱ	リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ
経営史Ⅰ・Ⅱ	財務管理論Ⅰ・Ⅱ	経営組織論Ⅰ・Ⅱ	経営情報論Ⅰ・Ⅱ	生産管理論Ⅰ・Ⅱ	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	会計監査論Ⅰ・Ⅱ	金融システム論Ⅰ・Ⅱ
プログラミングと機械学習Ⅰ・Ⅱ	ビジネスライティングⅠ・Ⅱ	人的資源論Ⅰ・Ⅱ	消費者行動論	企業論Ⅰ・Ⅱ	流通論	財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ	

法学関連科目

民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	国際経済法
商法概論	行政法Ⅰ	国際取引法	金融商品取引法	公務員法・行政組織法
憲法	行政学	環境法	商取引法	消費者法Ⅰ・Ⅱ
会社法Ⅰ・Ⅱ	労働基準法	社会保障法	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法

教養科目

政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC（特級）Ⅰa・b	中国語（特級）a・b	TOEFL a・b	数学Ⅰa・b	現代社会とスポーツ
外国文化Ⅰa・b～Ⅳa・b	TOEIC（特級）Ⅱa・b	EAP（English for Academic Purposes）a・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論

全学共通教育科目

リテラシー科目群

WRD	コンピュータ・リテラシー	図書館活用法

教養科目群

社会学入門a・b	経済学入門a・b	法学（含む日本国憲法）a・b	倫理学入門a・b	日本思想入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b	文化人類学入門a・b
メディア論入門a・b	政治学入門a・b	哲学入門a・b	西洋思想入門a・b	歴史学入門a・b	アジア近現代史a・b	空間システム論入門a・b
国際関係論入門a・b	情報社会論入門a・b	宗教学入門a・b	東洋思想入門a・b	日本近現代史a・b	アメリカ近現代史a・b	

キャリアデザイン科目群

キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	キャリア・エクスペリエンス	ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ
キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ	ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ	

国際交流科目群

Academic Skills Ⅰ～Ⅵ	North American Studies	Japan StudiesⅠA・B～ⅨA・B	海外短期語学研修	
European Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠA・B～ⅤA・B	海外短期研修	

データサイエンス科目群

データサイエンス概論	データサイエンス基礎	データアナリティクス基礎	機械学習基礎	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	データサイエンス・ワークフロー・プログラム
データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	データアナリティクス応用	機械学習応用	数理科学基礎a・b	数理科学応用a・b	

一般科目

全学共通教育科目

リテラシー科目群

英語リスニング＆スピーキング	英会話選択	英文多読	独語選択	仏語選択	中国語選択	韓国語選択
英語リーディング＆ライティング	ビジネス英語	独会話選択	仏会話選択	スペイン語選択	韓国語会話選択	ディプロム・コース（独語、仏語、スペイン語、韓国語）

総合科目

総合講座Ⅰ～Ⅵ	特別講座Ⅰ・Ⅱ

成城学

成城学園を知る	成城学Ⅰ～Ⅴ

系列科目

現代社会論Ⅰa・b～Ⅷa・b	思想・人間論Ⅰa・b～Ⅲa・b	音楽入門a・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	数理の世界a・b	科学史a・b	身体と運動・スポーツa・b
現代社会論演習a・b	思想・人間論演習a・b	表象文化論入門a・b	歴史文化論演習a・b	物理の世界a・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b
社会構造論Ⅰa・b～Ⅵa・b	文学入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅵa・b	地域空間論Ⅰa・b～Ⅷa・b	化学の世界a・b	数理・自然科学演習a・b	心身論演習a・b
社会構造論演習a・b	言語学入門a・b	表現文化論演習a・b	地域空間論演習a・b	生命科学の世界a・b	こころと身体a・b	

スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス＆コンディショニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	レクリエーション・スポーツ
ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス＆ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	フットサル	サイクル・スポーツ
身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー＆フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ラグビー	スキー
アクアエクササイズ	剣道（古武道）	水泳	テニス	バレーボール	ヨガ＆ピラティス	

他学部開設科目

ギリシャ古典入門	国語学講義Ⅰ・Ⅱ	美学・芸術学入門a・b	美学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	考古学a・b	マスコミ特殊講義Ⅰ～Ⅵ	西洋古典特殊講義a・b	哲学史特殊講義a・b
ギリシャ古典講読	国語国文学講義Ⅰ～Ⅹ	美術史入門a・b	芸術学特殊講義Ⅰ～Ⅴ	マスコミ原論	ヨーロッパの文化	言語学特殊講義Ⅰ（独）	ヨーロッパ文化史
ローマ古典入門	英語学概論	美学一般講義a・b	美術史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	リスクコミュニケーション論	ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	言語学特殊講義Ⅱ（仏）	アメリカ文化史
ローマ古典講読	英語文学史	音楽学一般講義a・b	文化史特殊講義Ⅰa・b～Ⅳa・b	マスコミ史	ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	日本文学
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	演劇学一般講義a・b	歴史学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	ジャーナリズム論	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	外国文学
中古国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	映画学一般講義a・b	民俗学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	社会心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	エコロジー論
中世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義A	日本美術史一般講義a・b	文化人類学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	広告心理学	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	文明と社会
近世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義B	東洋美術史一般講義a・b	日本文化史a・b	マスコミ研究法	ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	家族と社会の変動
近代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	西洋美術史一般講義Ⅰa・b	東洋文化史a・b	マスコミ講義Ⅰ～Ⅸ	広域芸術論講義	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	短期学外演習
漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義B	西洋美術史一般講義Ⅱa・b	西洋文化史a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅸ	ヨーロッパの文化特殊講義a・b	広域芸術論特殊講義	

履修規定

経営学科
［2024年度以降入学者用］

Ⅰ 総説 …… 66
A．開設科目および卒業要件単位数 …… 66
B．履修単位制限 …… 67
C．２年次から３年次への進級基準 …… 67
D．特別学修達成プログラム DAP（Distinguished Achievement Program）について …… 68

Ⅱ 経営学科授業科目一覧表 …… 70

Ⅲ—1　分野別履修方法（基礎科目） …… 76
A．語　　学 …… 76
B．初年次教育科目 …… 77

Ⅲ—2　分野別履修方法（専門科目） …… 77
A．ゼミナール …… 78
B．専門基礎科目 …… 78
C．専門選択科目 …… 79

Ⅲ—3　分野別履修方法（自由設計科目） …… 80
A．専門関連科目 …… 81
B．教養科目 …… 82

Ⅲ—4　分野別履修方法（教職関連科目） …… 94

Ⅳ 経営学科　履修系統図 …… 96

Ⅰ 総　説

A 開設科目および卒業要件単位数

1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。なお、専門科目のうち、ゼミナールについては、2025年度から開設科目の変更を予定している。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から第1表に示す規定単位数を修得しなければならない。

3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第１表　経営学科　開設科目および卒業要件単位数

分野	区分			規定単位数
基礎科目	語学	英語		8
		第二外国語		6
	初年次教育科目	データ分析Ⅰ・Ⅱ		4
専門科目	ゼミナール			12
	専門基礎科目			12 (注1)
	専門選択科目			44 (注2)
自由設計科目	専門関連科目	経済学関連科目		20
		法学関連科目		
	教養科目	経済学部開設・教養科目		18
		全学共通教育科目	リテラシー科目群	
			教養科目群	
			キャリアデザイン科目群(注3)	
			国際交流科目群(注4)	
			データサイエンス科目群(注5)	
			スポーツ・ウエルネス教育科目(注6)	
		他学部開設科目(注7)		
教職関連科目(注8)				—
合計				124

〔第１表の注意事項〕

（注１）**専門基礎科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**専門選択科目**に充当することができる。

（注２）**専門選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**専門関連科目**に充当することができる。

（注３）**キャリアデザイン科目群**には、卒業要件単位に算入されない科目がある。履修規定を参照すること。

（注４）**国際交流科目群**のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。

（注５）**スポーツ・ウエルネス教育科目**は、**4単位**まで卒業要件単位として認められる。

（注６）**他学部開設科目**は、**8単位**まで卒業要件単位として認められる。

（注７）教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められない。

B 履修単位制限

1 履修単位制限

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を、**48単位**とする。
※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を２単位分履修登録してある。

② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目

③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.8以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を4単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学科より期中および成績確定後に学習指導の場が設けられる。
※教職課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※本措置と、教職課程における特例措置の双方の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

C ２年次から３年次への進級基準

２年次から３年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、２年次終了までに**第２表**に示す所定の単位を修得していなければならない。

第２表　進級基準

分野	区　分		単位数
基礎科目	語学	英語	10
		第二外国語	
	初年次教育科目	データ分析Ⅰ・Ⅱ	4
専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナール	2
	専門基礎科目		12
	専門選択科目		8
自由設計科目	教養科目		10
計			46

（注）

〔第２表の注意事項〕
（注）**専門基礎科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**専門選択科目**の単位数（８単位）に充当することができる。

D 特別学修達成プログラム DAP（Distinguished Achievement Program）について

1 DAPとは

DAPは、卒業要件とは別に設定されたプログラム修了要件を充たした経済学部学生に対し、プログラムに応じた修了認定証とオープンバッジを発行する制度であり、卒業時に発行される成績証明書にはその学修成果が記載される。プログラムは、卒業要件に算入可能な科目で構成されており、主たる専門分野に加えてもう一つ極める分野を定め、2本の柱で目的を持って系統的に学ぶことを提案し、その達成を支援するものである。

2 プログラム

DAPの第1弾として2024年度より「経済学部データサイエンスプログラム」を開設している。

3 修了要件

各プログラムの修了認定においては別表で指定される、「プログラム必修科目」4単位、「プログラム選択必修科目」4単位、「プログラム関連科目」8単位、計16単位を修得することが必要である。

4 登録申請

DAPへの申請を希望する学生は以下の手続きを行うこと。
① 1年次9月ごろに行う希望調査に回答する。
② 2年次にDAPへの登録申請を行う。（3年次以降も追加の登録申請可能。）
※申請方法および申請期間の詳細は、3月にLiveCampusUで周知する。

5 修了認定

DAP修了認定は、4年次4月・9月、卒業時に経済学部教授会が行う。ただし、4年次4月の認定対象になるのは3年次までに登録していた場合のみのため注意すること。

別表　経済学部データサイエンスプログラム

DAP修了要件単位数	授業科目名	単位	配当年次	分野・区分
必修ではないが必修科目履修前に修得を推奨（推奨科目）	データサイエンス概論 ※1	2	1～4	データサイエンス科目群（全学共通教育科目）
	データサイエンス基礎 ※1	2	1～4	
4（必修科目）	データアナリティクス基礎 ※2	2	2～4	
	機械学習基礎 ※2	2	2～4	
4（選択必修科目）	データアナリティクス応用	2	2～4	
	機械学習応用	2	2～4	
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2	2～4	
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2	2～4	
	データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	各2	2～4	
8（関連科目）	データ解析入門Ⅰ・Ⅱ【経済学科生のみ履修可】	各2	1	経営学専門・専門関連科目
	統計学	4	2～4	
	計量経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	経営統計学Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	プログラミングと機械学習Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
	経営情報論Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	
計16				

※1　文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定科目
※2　文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」認定科目
抽選科目であるが、DAP申請者には定員上の特例措置を適用する。詳細はDAP申請時に確認すること。

Ⅱ 経営学科授業科目一覧表

第3表

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年	2　年
基礎科目	語学	英語	英語読解（1）a① 英語読解（1）b① 上級英語読解（1）a① 上級英語読解（1）b① [1～4年] 英語読解（再）①	英語読解（2）a① 英語読解（2）b① 上級英語読解（2）a① 上級英語読解（2）b①
			Communicative English（1）a① Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）b① [1～4年] Communicative English（再）①	Communicative English（2）a① Communicative English（2）b① Advanced Communicative English（2）a① Advanced Communicative English（2）b①
				TOEIC a①　TOEIC b① 上級TOEIC a①　上級TOEIC b① [2～4年] TOEIC（再）①
		第二外国語	独語（初級）a② 独語（初級）b②	独語（中級）a① 独語（中級）b①
			仏語（初級）a② 仏語（初級）b②	仏語（中級）a① 仏語（中級）b①
			中国語（初級）a② 中国語（初級）b②	中国語（中級）a① 中国語（中級）b①
	初年次教育科目		データ分析Ⅰ② データ分析Ⅱ②	
専門科目	ゼミナール			基礎ゼミナール②
	専門基礎科目		経営学総論Ⅰ②　商学総論Ⅰ② 経営学総論Ⅱ②　商学総論Ⅱ② 会計学総論Ⅰ②　経済学Ⅰ② 会計学総論Ⅱ②　経済学Ⅱ②	
	専門選択科目			[2～4年] 企業会計論Ⅰ②　財務会計論Ⅱ② 企業会計論Ⅱ②　原価計算論④ 経営管理論Ⅰ②　財務管理論Ⅰ② 経営管理論Ⅱ②　財務管理論Ⅱ② 経営史Ⅰ②　ビジネスライティングⅠ② 経営史Ⅱ②　ビジネスライティングⅡ② マーケティング論Ⅰ②　経営英書講読Ⅰ② マーケティング論Ⅱ②　経営英書講読Ⅱ② 経営統計学Ⅰ②　証券市場論Ⅰ② 経営統計学Ⅱ②　証券市場論Ⅱ② 経営数学Ⅰ②　経営戦略論Ⅰ② 経営数学Ⅱ②　経営戦略論Ⅱ② 財務会計論Ⅰ②　経営組織論Ⅰ②
自由設計科目	専門関連科目	経済学関連科目	[1～4年] 外国史概説 A② 外国史概説 B② 社会問題基礎② 社会科学基礎②	[2～4年] ミクロ経済学Ⅰ②　数理経済学A② ミクロ経済学Ⅱ②　数理経済学B② マクロ経済学Ⅰ②　経済変動論A② マクロ経済学Ⅱ②　経済変動論B② ゲーム理論入門②　経済統計論④ 統計学④　計量経済学Ⅰ② 経済学史Ⅰ②　計量経済学Ⅱ② 経済学史Ⅱ②　産業組織論Ⅰ② 市場と政府Ⅰ②　産業組織論Ⅱ② 市場と政府Ⅱ②　経済思想史Ⅰ② 経済史入門A②　経済思想史Ⅱ② 経済史入門B②　金融論Ⅰ② 社会経済史Ⅰ②　金融論Ⅱ② 社会経済史Ⅱ②　国際金融論Ⅰ② 社会政策Ⅰ②　国際金融論Ⅱ② 社会政策Ⅱ②　財政学Ⅰ②
		法学関連科目		[2～4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④

注1）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注2）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

３　年	４　年	卒業要件単位数
		4
		4
		6
		4
３年次ゼミナール④	４年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		12

44

経営組織論Ⅱ②
人的資源論Ⅰ②
人的資源論Ⅱ②
ベンチャービジネス論Ⅰ②
ベンチャービジネス論Ⅱ②
生産管理論Ⅰ②
生産管理論Ⅱ②
企業論Ⅰ②
企業論Ⅱ②
経営情報論Ⅰ②
経営情報論Ⅱ②
消費者行動論②
マーケティング・サイエンス②
商品開発論Ⅰ②
商品開発論Ⅱ②
サービス・マーケティング論Ⅰ②
サービス・マーケティング論Ⅱ②
ツーリズム・マーケティング論Ⅰ②
ツーリズム・マーケティング論Ⅱ②
流通論②
デジタル・マーケティング②
管理会計論④
税務会計論Ⅰ②
税務会計論Ⅱ②
国際経営論Ⅰ②
国際経営論Ⅱ②
公企業論Ⅰ②
公企業論Ⅱ②
交通論Ⅰ②
交通論Ⅱ②
貿易論Ⅰ②
貿易論Ⅱ②
リスクマネジメント論Ⅰ②
リスクマネジメント論Ⅱ②
金融システム論Ⅰ②
金融システム論Ⅱ②
会計監査論Ⅰ②
会計監査論Ⅱ②
財務諸表分析Ⅰ②
財務諸表分析Ⅱ②
中小企業論Ⅰ②
中小企業論Ⅱ②
プログラミングと機械学習Ⅰ②
プログラミングと機械学習Ⅱ②
経営学特殊講義Ａ②
経営学特殊講義Ｂ②
経営学特殊講義Ｃ②
経営学特殊講義Ｄ②
経営学特殊講義Ｅ②
経営学特殊講義Ｆ②

20

財政学Ⅱ②
公共経済学Ⅰ②
公共経済学Ⅱ②
医療経済論Ⅰ②
医療経済論Ⅱ②
国際貿易論Ⅰ②
国際貿易論Ⅱ②
開発経済学Ⅰ②
開発経済学Ⅱ②
食料・資源経済論Ⅰ②
食料・資源経済論Ⅱ②
環境経済学Ⅰ②
環境経済学Ⅱ②
日本経済史Ⅰ②
日本経済史Ⅱ②
西洋経済史Ⅰ②
西洋経済史Ⅱ②
東洋経済史Ⅰ②
東洋経済史Ⅱ②
現代経済史Ⅰ②
現代経済史Ⅱ②
社会思想史Ⅰ②
社会思想史Ⅱ②
社会保障論Ⅰ②
社会保障論Ⅱ②
社会キャリア論A②
社会キャリア論B②
社会デザイン論Ⅰ②
社会デザイン論Ⅱ②
日本経済論A②
日本経済論B②
世界経済事情A②
世界経済事情B②
国際関係論Ⅰ②
国際関係論Ⅱ②
経済地理学Ⅰ②
経済地理学Ⅱ②
英経済書講読Ⅰ②
英経済書講読Ⅱ②
独経済書講読A②
独経済書講読B②
仏経済書講読A②
仏経済書講読B②
中国経済書講読A②
中国経済書講読B②
応用経済学特別講義C②
応用経済学特別講義D②

[3・4年]
比較制度論A②
比較制度論B②
経済理論特別講義A②
経済理論特別講義B②
応用経済学特別講義A②
応用経済学特別講義B②
経済史特別講義A②
経済史特別講義B②
社会問題特別講義A②
社会問題特別講義B②

[3・4年]
会社法Ⅰ②
会社法Ⅱ②
国際法Ⅰ④
国際法Ⅱ④
行政法Ⅰ④
行政学④
労働基準法④
労働組合法④
国際取引法④
環境法②
社会保障法④
税法Ⅰ②
税法Ⅱ②
金融商品取引法②
商取引法②
経済法Ⅰ②
経済法Ⅱ②
国際経済法④
公務員法・行政組織法②
消費者法Ⅰ②
消費者法Ⅱ②
知的財産法④

第３表　Ⅱ. 経営学科授業科目一覧表（つづき①）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年		2　年
自由設計科目	教養科目	経済学部開設・教養科目	[1～4年]		
			外国文化Ⅰa② 外国文化Ⅰb② 外国文化Ⅱa② 外国文化Ⅱb② 外国文化Ⅲa②	外国文化Ⅲb② 外国文化Ⅳa② 外国文化Ⅳb② 心理学a② 心理学b②	数学Ⅰa② 数学Ⅰb② 数学Ⅱa② 数学Ⅱb② 現代社会とスポーツ②
		全学共通教育科目	[1～4年]		
			WRD④		
			英語リスニング＆スピーキング（初級）a① 英語リスニング＆スピーキング（初級）b① 英語リスニング＆スピーキング（中級）a① 英語リスニング＆スピーキング（中級）b① 英語リスニング＆スピーキング（上級）a① 英語リスニング＆スピーキング（上級）b① 英語リーディング＆ライティング（初級）a① 英語リーディング＆ライティング（初級）b① 英語リーディング＆ライティング（中級）a① 英語リーディング＆ライティング（中級）b① 英語リーディング＆ライティング（上級）a①	英語リーディング＆ライティング（上級）b① 英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb①	独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa①
			コンピュータ・リテラシーＡ１② コンピュータ・リテラシーＡ２②	コンピュータ・リテラシーＢ② コンピュータ・リテラシーＣ②	コンピュータ・リテラシーＤ② コンピュータ・リテラシーＥ②
			総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ②		総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ②
			成城学園を知る② 成城学Ⅰ②	成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ②	成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ②
			社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論Ⅷa② 現代社会論Ⅷb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a②	情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b②	思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb② 表現文化論Ⅴa② 表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa② 表現文化論Ⅵb② 表現文化論演習a②
			キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目、スポーツ・ウエルネス教育科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、		

注１）○で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年			卒業要件単位数
スポーツ産業論② TOEIC（特級）Ⅰa① TOEIC（特級）Ⅰb① TOEIC（特級）Ⅱa① TOEIC（特級）Ⅱb①	EAP（English for Academic Purposes）a① EAP（English for Academic Purposes）b① TOEFL a① TOEFL b① 中国語（特級）a①	中国語（特級）b① 政治経済論入門Ⅰ② 政治経済論入門Ⅱ②	
仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb①	中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択ａ① 韓国語会話選択ｂ① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a①	ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b①	
図書館活用法②			
総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ②		特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ②	
表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史 a② アメリカ近現代史 b② 歴史文化論Ⅰa② 歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa② 歴史文化論Ⅱb② 歴史文化論Ⅲa② 歴史文化論Ⅲb② 歴史文化論Ⅳa② 歴史文化論Ⅳb② 歴史文化論Ⅴa② 歴史文化論Ⅴb② 歴史文化論演習 a② 歴史文化論演習 b② 文化人類学入門 a② 文化人類学入門 b② 空間システム論入門 a② 空間システム論入門 b② 地域空間論Ⅰa② 地域空間論Ⅰb②	地域空間論Ⅱa② 地域空間論Ⅱb② 地域空間論Ⅲa② 地域空間論Ⅲb② 地域空間論Ⅳa② 地域空間論Ⅳb② 地域空間論Ⅴa② 地域空間論Ⅴb② 地域空間論Ⅵa② 地域空間論Ⅵb② 地域空間論Ⅶa② 地域空間論Ⅶb② 地域空間論Ⅷa② 地域空間論Ⅷb② 地域空間論演習 a② 地域空間論演習 b② 数理の世界 a② 数理の世界 b② 物理の世界 a② 物理の世界 b② 化学の世界 a② 化学の世界 b② 生命科学の世界 a② 生命科学の世界 b② 科学史 a② 科学史 b② 自然科学Ⅰa② 自然科学Ⅰb② 自然科学Ⅱa②	自然科学Ⅱb② 自然科学Ⅲa② 自然科学Ⅲb② 自然科学Ⅳa② 自然科学Ⅳb② 自然科学Ⅴa② 自然科学Ⅴb② 数理・自然科学演習 a② 数理・自然科学演習 b② こころと身体 a② こころと身体 b② 身体と運動・スポーツ a② 身体と運動・スポーツ b② 心身論Ⅰa② 心身論Ⅰb② 心身論Ⅱa② 心身論Ⅱb② 心身論Ⅲa② 心身論Ⅲb② 心身論Ⅳa② 心身論Ⅳb② 心身論Ⅴa② 心身論Ⅴb② 心身論演習 a② 心身論演習 b②	18
データサイエンス科目、スポーツ・ウエルネス教育科目は Ⅲ－３　分野別履修方法（自由設計科目）Ⓑ教養科目 2 全学共通教育科目を参照】			

第３表　Ⅱ. 経営学科授業科目一覧表（つづき②）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年	2　年
自由設計科目	教養科目	他学部開設科目		[2～4年] ギリシャ古典入門④ ギリシャ古典講読④ ローマ古典入門④ ローマ古典講読④ 古代国文学講義Ⅰ② 古代国文学講義Ⅱ② 中古国文学講義Ⅰ② 中古国文学講義Ⅱ② 中世国文学講義Ⅰ② 中世国文学講義Ⅱ② 近世国文学講義Ⅰ② 近世国文学講義Ⅱ② 近代国文学講義Ⅰ② 近代国文学講義Ⅱ② 漢文学講義Ⅰ② 漢文学講義Ⅱ② 国語学講義Ⅰ② 国語学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅰ② 国語国文学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅲ② 国語国文学講義Ⅳ② 国語国文学講義Ⅴ② 国語国文学講義Ⅵ② 国語国文学講義Ⅶ② 国語国文学講義Ⅷ② 国語国文学講義Ⅸ② 国語国文学講義Ⅹ② 英語学概論④ 英語文学史④ 美学・芸術学入門ａ② 美学・芸術学入門ｂ② 美術史入門ａ② 美術史入門ｂ② 美学一般講義ａ② 美学一般講義ｂ② 音楽学一般講義ａ② 音楽学一般講義ｂ② 演劇学一般講義ａ② 演劇学一般講義ｂ② 映画学一般講義ａ② 映画学一般講義ｂ② 日本美術史一般講義ａ② 日本美術史一般講義ｂ② 東洋美術史一般講義ａ② 東洋美術史一般講義ｂ② 西洋美術史一般講義Ⅰａ② 西洋美術史一般講義Ⅰｂ② 西洋美術史一般講義Ⅱａ② 西洋美術史一般講義Ⅱｂ② 美学特殊講義Ⅰ② 美学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅰ② 芸術学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅲ② 芸術学特殊講義Ⅳ② 芸術学特殊講義Ⅴ② 美術史特殊講義Ⅰ② 美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅰａ② 文化史特殊講義Ⅰｂ②
教職関連科目			【教職関連科目は、Ⅲ－４　分野別履修方法（教職関連科目）を参照】	

注１）○で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年			卒業要件単位数
文化史特殊講義Ⅱａ②	マスコミ原論②	ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)②	18
文化史特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ史②	ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅲａ②	ジャーナリズム論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅲｂ②	リスクコミュニケーション論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅳａ②	社会心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅳｂ②	広告心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)②	
歴史学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ研究法②	広域芸術論講義②	
歴史学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅰ②	ヨーロッパの文化特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅱ②	ヨーロッパの文化特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅲ②	西洋古典特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅲａ②	マスコミ講義Ⅳ②	西洋古典特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅲｂ②	マスコミ講義Ⅴ②	言語学特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ講義Ⅵ②	言語学特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅶ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅷ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅸ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅰ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅱ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)②	
文化人類学特殊講義Ⅰａ②	コミュニケーション講義Ⅲ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)②	
文化人類学特殊講義Ⅰｂ②	コミュニケーション講義Ⅳ②	広域芸術論特殊講義②	
文化人類学特殊講義Ⅱａ②	コミュニケーション講義Ⅴ②	哲学史特殊講義ａ②	
文化人類学特殊講義Ⅱｂ②	コミュニケーション講義Ⅵ②	哲学史特殊講義ｂ②	
文化人類学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅶ②	ヨーロッパ文化史④	
文化人類学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅷ②	アメリカ文化史④	
日本文化史ａ②	コミュニケーション講義Ⅸ②	日本文学④	
日本文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅰ②	外国文学④	
東洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅱ②	エコロジー論④	
東洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅲ②	文明と社会④	
西洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅳ②	家族と社会の変動④	
西洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅴ②	短期学外演習②	
考古学ａ②	マスコミ特殊講義Ⅵ②		
考古学ｂ②	ヨーロッパの文化④		
[3・4年]			
英語学特殊講義Ａ②	英語文学特殊講義Ａ②	英語文化特殊講義Ａ②	
英語学特殊講義Ｂ②	英語文学特殊講義Ｂ②	英語文化特殊講義Ｂ②	
			–
合　　計			124

Ⅲ−1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経営学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と初年次教育科目から構成される。

A 語　学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業に必要な語学の単位数は**第４表**のとおりである。

第４表　卒業に必要な語学の規定単位数

		1年次 前期	1年次 後期	計
英　語		英語読解（1）a① 上級英語読解（1）a① （いずれか1科目） Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）a① （いずれか1科目）	英語読解（1）b① 上級英語読解（1）b① （いずれか1科目） Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）b① （いずれか1科目）	4
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（初級）a②	（初級）b②	4
計		4	4	8

		2年次 前期	2年次 後期	計
英　語		英語読解（2）a① 上級英語読解（2）a① （いずれか1科目）	英語読解（2）b① 上級英語読解（2）b① （いずれか1科目）	4
		コース別：TOEIC a ① 上級 TOEIC a ① Communicative English（2）a ① Advanced Communicative English（2）a ① （いずれか1科目）	コース別：TOEIC b ① 上級 TOEIC b ① Communicative English（2）b ① Advanced Communicative English（2）b ① （いずれか1科目）	
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（中級）a①	（中級）b ①	2
計		3	3	6

計	14

1 「英　　語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解、もう1つはネイティヴの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。
2年次では週2回の授業を、1つは読解、もう1つはTOEIC準備コース／ Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。
※ コース選択の方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

3 履修上の注意

《英語》
① 英語は下表のとおり履修するクラスが指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と7月下旬～8月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と1月下旬～2月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラス（各レベル）を履修する

英語の科目はいずれも教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、1年次後期の英語科目は、4月時点では履修する

クラスが未定のため担当教員名は「教務部」となっている。実際に受講する各授業科目への登録変更は、前期成績確定後に教務部が行うので、1年次後期英語科目のクラスや担当教員については、後期開講前に確認すること。

② 英語の再履修
配当年次や学期、授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、**再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。**

※ 登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
例）1年次前期に、「Advanced Communicative English（a）」を履修し不合格だった場合、1年次後期以降、「Communicative English（再）」を履修する。

《独語・仏語・中国語》

① 「初級a/b」、「中級a/b」は教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、履修登録は下記の履修条件によって行われる。
- 「初級b」は「初級a」合格者のみが履修できる。
- 「中級a」及び「中級b」は、「初級b」合格者のみが履修できる（「中級a」が単位未修得の場合でも「中級b」は履修できる）。

※ 前期履修科目が不合格となり、後期に事前登録されている科目の履修条件を満たさなかった場合、後期に登録されている科目は削除される。

※「初級a」、「初級b」については、進級に大きく影響するため、早期の修得が望ましい。

② 独語・仏語・中国語の再履修
前期に履修した「初級a」または「初級b」が不合格となった場合は、後期に自身で再履修クラスを履修登録することができる。ただし、定員が設けられているため、後期の抽選登録が必要となる。

B 初年次教育科目

1 初年次教育科目

初年次教育科目の開設科目は、**第5表**のとおりである。
初年次教育科目は、経営学科の専門領域にわたって共通に必要とされる基礎的知識・スキルを習得することを目的とした科目である。

第5表　初年次教育科目

授　業　科　目	配当年次	単位
データ分析Ⅰ	1	2
データ分析Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

① 「データ分析Ⅰ」、「データ分析Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講されるが、1年次は指定されたクラスで履修すること。
② 初年次教育科目が不合格の場合は再履修者用クラスを履修すること。

Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「基礎ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎科目、専門選択科目である。各分野の規定単位数は**第6表**に、またそれぞれの開設科目、配当年次は**第7表～第9表**のとおりである。

第6表　専門科目規定単位数

分野	区　分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	12
	専門基礎科目	12
	専門選択科目	44
計		68

A ゼミナール

1 ゼミナール および卒業論文

２、３、４年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って、指導教員の下で活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の修得と、主体的・自立的な人間性の向上を目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第７表　ゼミナール

授　業　科　目	配当年次	単位
基礎ゼミナール	2	2
３年次ゼミナール	3	4
４年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

2 履修上の注意

① ゼミナールは定員が定められており、履修希望者数がそれを超えた場合には「基礎ゼミナール」は抽選、「３年次ゼミナール」は選考が行われる。
② ゼミナールの履修登録は教務部で行う。説明会等に関する日程の詳細は、後日LiveCampusU等で周知する。
③「3年次ゼミナール」、「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならず、原則として指導教員の変更は認められない。
④ ３年次に「3年次ゼミナール」を修得できなかった場合、４年次に同一指導教員の同科目を履修しなければならない。４年次には「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が履修登録されるため、2つのゼミナールを同時履修することとなる。
⑤「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は、卒業論文の執筆を含む４単位の科目である。卒業論文を提出した場合であっても、「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の場合は、同科目の再履修と卒業論文の再提出が義務付けられる。
⑥ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること Ⅸ 卒業論文】を参照すること。

B 専門基礎科目

1 専門基礎科目

専門基礎科目は、**第８表**のとおりである。
専門基礎科目は、経営学科での専門領域の科目を学修する上で必要な基礎的知識を習得することを目的とした科目である。

第８表　専門基礎科目

授　業　科　目	配当年次	単位
経営学総論Ⅰ	1	2
経営学総論Ⅱ	1	2
会計学総論Ⅰ	1	2
会計学総論Ⅱ	1	2
商学総論Ⅰ	1	2
商学総論Ⅱ	1	2
経済学Ⅰ	1	2
経済学Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

① 専門基礎科目の規定単位数（12単位）を超えて修得した単位は、専門選択科目に算入することができる。
② 専門基礎科目は必修科目ではないが、1年次は全ての科目を履修することになっている。
③ 専門基礎科目が不合格で進級・卒業に必要な単位数を満たせない場合は、再履修すること。

C 専門選択科目

1 専門選択科目

専門選択科目は、**第９表**のとおりである。
専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経営学科開設の科目である。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第９表　専門選択科目

授　業　科　目	配当年次	単位	授　業　科　目	配当年次	単位
企業会計論Ⅰ	2～4	2	マーケティング・サイエンス	2～4	2
企業会計論Ⅱ	2～4	2	商品開発論Ⅰ	2～4	2
経営管理論Ⅰ	2～4	2	商品開発論Ⅱ	2～4	2
経営管理論Ⅱ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営史Ⅰ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営史Ⅱ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
マーケティング論Ⅰ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
マーケティング論Ⅱ	2～4	2	流通論	2～4	2
経営統計学Ⅰ	2～4	2	デジタル・マーケティング	2～4	2
経営統計学Ⅱ	2～4	2	管理会計論	2～4	4
経営数学Ⅰ	2～4	2	税務会計論Ⅰ	2～4	2
経営数学Ⅱ	2～4	2	税務会計論Ⅱ	2～4	2
財務会計論Ⅰ	2～4	2	国際経営論Ⅰ	2～4	2
財務会計論Ⅱ	2～4	2	国際経営論Ⅱ	2～4	2
原価計算論	2～4	4	公企業論Ⅰ	2～4	2
財務管理論Ⅰ	2～4	2	公企業論Ⅱ	2～4	2
財務管理論Ⅱ	2～4	2	交通論Ⅰ	2～4	2
ビジネスライティングⅠ	2～4	2	交通論Ⅱ	2～4	2
ビジネスライティングⅡ	2～4	2	貿易論Ⅰ	2～4	2
経営英書講読Ⅰ	2～4	2	貿易論Ⅱ	2～4	2
経営英書講読Ⅱ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2～4	2
証券市場論Ⅰ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2～4	2
証券市場論Ⅱ	2～4	2	金融システム論Ⅰ	2～4	2
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	金融システム論Ⅱ	2～4	2
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	会計監査論Ⅰ	2～4	2
経営組織論Ⅰ	2～4	2	会計監査論Ⅱ	2～4	2
経営組織論Ⅱ	2～4	2	財務諸表分析Ⅰ	2～4	2
人的資源論Ⅰ	2～4	2	財務諸表分析Ⅱ	2～4	2
人的資源論Ⅱ	2～4	2	中小企業論Ⅰ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2～4	2	中小企業論Ⅱ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅰ	2～4	2
生産管理論Ⅰ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅱ	2～4	2
生産管理論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義A	2～4	2
企業論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義B	2～4	2
企業論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義C	2～4	2
経営情報論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義D	2～4	2
経営情報論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義E	2～4	2
消費者行動論	2～4	2	経営学特殊講義F	2～4	2

2 履修上の注意

① 専門選択科目の規定単位数は44単位である。
② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、専門関連科目に算入することができる。
③ 専門選択科目の２年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。
④「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

1　自由設計科目

自由設計科目は、学生の興味、関心、専門分野に対応した知識を習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、**第10表**に示されるとおり、10区分から構成されている。
なお、自由設計科目の規定単位数は、**第11表**に示される単位によっても充当することができる。

第10表　自由設計科目

区分			規定単位数
専門関連科目	経済学関連科目		20
	法学関連科目		
教養科目	経済学部開設・教養科目		18
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	
		教養科目群	
		キャリアデザイン科目群	
		国際交流科目群	
		データサイエンス科目群	
		スポーツ・ウエルネス教育科目	
	他学部開設科目		

第11表　自由設計科目に充当できる単位

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
専門選択科目 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位	44	専門関連科目の単位として充当

2　履修上の注意

自由設計科目の２年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。

A 専門関連科目

専門関連科目は、「経済学関連科目」と「法学関連科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 経済学関連科目

経済学関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経済学系の専門科目であり、開設科目は**第12表**のとおりである。

第12表　経済学関連科目

授業科目	配当年次	単位
外国史概説 A	1～4	2
外国史概説 B	1～4	2
社会問題基礎	1～4	2
社会科学基礎	1～4	2
ミクロ経済学Ⅰ	2～4	2
ミクロ経済学Ⅱ	2～4	2
マクロ経済学Ⅰ	2～4	2
マクロ経済学Ⅱ	2～4	2
ゲーム理論入門	2～4	2
統計学	2～4	4
経済学史Ⅰ	2～4	2
経済学史Ⅱ	2～4	2
市場と政府Ⅰ	2～4	2
市場と政府Ⅱ	2～4	2
経済史入門 A	2～4	2
経済史入門 B	2～4	2
社会経済史Ⅰ	2～4	2
社会経済史Ⅱ	2～4	2
社会政策Ⅰ	2～4	2
社会政策Ⅱ	2～4	2
数理経済学 A	2～4	2
数理経済学 B	2～4	2
経済変動論 A	2～4	2
経済変動論 B	2～4	2
経済統計論	2～4	4
計量経済学Ⅰ	2～4	2
計量経済学Ⅱ	2～4	2
産業組織論Ⅰ	2～4	2
産業組織論Ⅱ	2～4	2
経済思想史Ⅰ	2～4	2
経済思想史Ⅱ	2～4	2
金融論Ⅰ	2～4	2
金融論Ⅱ	2～4	2
国際金融論Ⅰ	2～4	2
国際金融論Ⅱ	2～4	2
財政学Ⅰ	2～4	2
財政学Ⅱ	2～4	2
公共経済学Ⅰ	2～4	2
公共経済学Ⅱ	2～4	2
医療経済論Ⅰ	2～4	2
医療経済論Ⅱ	2～4	2
国際貿易論Ⅰ	2～4	2
国際貿易論Ⅱ	2～4	2
開発経済学Ⅰ	2～4	2
開発経済学Ⅱ	2～4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2～4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2～4	2

授業科目	配当年次	単位
環境経済学Ⅰ	2～4	2
環境経済学Ⅱ	2～4	2
日本経済史Ⅰ	2～4	2
日本経済史Ⅱ	2～4	2
西洋経済史Ⅰ	2～4	2
西洋経済史Ⅱ	2～4	2
東洋経済史Ⅰ	2～4	2
東洋経済史Ⅱ	2～4	2
現代経済史Ⅰ	2～4	2
現代経済史Ⅱ	2～4	2
社会思想史Ⅰ	2～4	2
社会思想史Ⅱ	2～4	2
社会保障論Ⅰ	2～4	2
社会保障論Ⅱ	2～4	2
社会キャリア論 A	2～4	2
社会キャリア論 B	2～4	2
社会デザイン論Ⅰ	2～4	2
社会デザイン論Ⅱ	2～4	2
日本経済論 A	2～4	2
日本経済論 B	2～4	2
世界経済事情 A	2～4	2
世界経済事情 B	2～4	2
国際関係論Ⅰ	2～4	2
国際関係論Ⅱ	2～4	2
経済地理学Ⅰ	2～4	2
経済地理学Ⅱ	2～4	2
英経済書講読Ⅰ	2～4	2
英経済書講読Ⅱ	2～4	2
独経済書講読 A	2～4	2
独経済書講読 B	2～4	2
仏経済書講読 A	2～4	2
仏経済書講読 B	2～4	2
中国経済書講読 A	2～4	2
中国経済書講読 B	2～4	2
比較制度論 A	3・4	2
比較制度論 B	3・4	2
経済理論特別講義 A	3・4	2
経済理論特別講義 B	3・4	2
応用経済学特別講義 A	3・4	2
応用経済学特別講義 B	3・4	2
応用経済学特別講義 C	2～4	2
応用経済学特別講義 D	2～4	2
経済史特別講義 A	3・4	2
経済史特別講義 B	3・4	2
社会問題特別講義 A	3・4	2
社会問題特別講義 B	3・4	2

〔第12表の注意事項〕

① 2025年度に以下のように授業科目が変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
社会問題基礎	社会問題入門
社会科学基礎	社会科学入門

② 2024年度をもって「ミクロ経済学概論」、「マクロ経済学概論」は廃講となった。なお、修得済みの科目は経済学関連科目の単位として認められる。

③ 2025年度に「ゲーム理論入門」、「経済史入門A・B」が新設された。

2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、**第13表**のとおりである。

第13表　法学関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
民法概論	2～4	4
商法概論	2～4	4
憲法	2～4	4
会社法Ⅰ	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4
国際法Ⅱ	3・4	4
行政法Ⅰ	3・4	4
行政学	3・4	4
労働基準法	3・4	4
労働組合法	3・4	4
国際取引法	3・4	4
環境法	3・4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
社会保障法	3・4	4
税法Ⅰ	3・4	2
税法Ⅱ	3・4	2
金融商品取引法	3・4	2
商取引法	3・4	2
経済法Ⅰ	3・4	2
経済法Ⅱ	3・4	2
国際経済法	3・4	4
公務員法・行政組織法	3・4	2
消費者法Ⅰ	3・4	2
消費者法Ⅱ	3・4	2
知的財産法	3・4	4

B 教養科目

教養科目は「経済学部開設・教養科目」、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 経済学部開設・教養科目

経済学部開設・教養科目は、**第14表**のとおりである。

第14表　経済学部開設・教養科目

授　業　科　目	配当年次	単位
外国文化Ⅰ a	1～4	2
外国文化Ⅰ b	1～4	2
外国文化Ⅱ a	1～4	2
外国文化Ⅱ b	1～4	2
外国文化Ⅲ a	1～4	2
外国文化Ⅲ b	1～4	2
外国文化Ⅳ a	1～4	2
外国文化Ⅳ b	1～4	2
心理学 a	1～4	2
心理学 b	1～4	2
数学Ⅰ a	1～4	2
数学Ⅰ b	1～4	2
数学Ⅱ a	1～4	2
数学Ⅱ b	1～4	2
現代社会とスポーツ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
スポーツ産業論	1～4	2
TOEIC（特級）Ⅰ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅰ b	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ b	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）a	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）b	1～4	1
TOEFL a	1～4	1
TOEFL b	1～4	1
中国語（特級）a	1～4	1
中国語（特級）b	1～4	1
政治経済論入門Ⅰ	1～4	2
政治経済論入門Ⅱ	1～4	2

〔第14表の注意事項〕

「TOEIC（特級）Ⅰa」、「TOEIC（特級）Ⅰb」、「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

2 全学共通教育科目

全学共通教育科目は、**第15表～第19表**のとおりである。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

〔注意事項〕

全学共通教育科目の中には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

［a リテラシー科目群］

リテラシー科目群の開設科目は、**第15表**のとおりである。

第15表　リテラシー科目群（WRD、外国語科目、IT科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
WRD	WRD	1～4	4
外国語科目	英語リスニング&スピーキング（初級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（初級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）b	1～4	1
	英会話選択a	1～4	1
	英会話選択b	1～4	1
	ビジネス英語a	1～4	1
	ビジネス英語b	1～4	1
	英文多読a	1～4	1
	英文多読b	1～4	1
	独会話選択a	1～4	1
	独会話選択b	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	独語選択（中級）a	1～4	1
	独語選択（中級）b	1～4	1
	独語選択（上級）a	1～4	1
	独語選択（上級）b	1～4	1
	仏会話選択a	1～4	1
	仏会話選択b	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	仏語選択（中級）a	1～4	1
外国語科目	仏語選択（中級）b	1～4	1
	仏語選択（上級）a	1～4	1
	仏語選択（上級）b	1～4	1
	スペイン語選択（初級）a	1～4	1
	スペイン語選択（初級）b	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	中国語選択（中級）a	1～4	1
	中国語選択（中級）b	1～4	1
	中国語選択（上級）a	1～4	1
	中国語選択（上級）b	1～4	1
	韓国語会話選択a	1～4	1
	韓国語会話選択b	1～4	1
	韓国語選択（初級）a	1～4	1
	韓国語選択（初級）b	1～4	1
外国語科目（ディプロム・コース）	ディプロム・コース中級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）b	1～4	1
IT科目	コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーB	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーC	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
	図書館活用法	1～4	2

《英語到達目標》

① 「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」
　初級：TOEIC　600－700点、英検2級程度
　中級：TOEIC　700－800点、英検準1級程度
　上級：TOEIC　800－990点、英検1級程度
② 「英会話選択」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
③ 「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
④ 「英文多読」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》

① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の４～３級の合格。
② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）２級～準１級の合格。
③ 中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の３級の合格。

〔第15表の注意事項〕

① 「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。

② セットで履修した「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

③ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備　　考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	•「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	• 上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の中級2単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第１回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

④ 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、**卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。**

※単位修得の例

- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**中級（独語）**b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- 「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**上級（仏語）**a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を3単位、「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

［b 教養科目群］

教養科目群の開設科目は、**第16表**のとおりである。

第16表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
総合科目		総合講座Ⅰ	1～4	2
		総合講座Ⅱ	1～4	2
		総合講座Ⅲ	1～4	2
		総合講座Ⅳ	1～4	2
		総合講座Ⅴ	1～4	2
		総合講座Ⅵ	1～4	2
		特別講座Ⅰ	1～4	2
		特別講座Ⅱ	1～4	2
成城学		成城学園を知る	1～4	2
		成城学Ⅰ	1～4	2
		成城学Ⅱ	1～4	2
		成城学Ⅲ	1～4	2
		成城学Ⅳ	1～4	2
		成城学Ⅴ	1～4	2
現代社会論系列	基幹	社会学入門 a	1～4	2
		社会学入門 b	1～4	2
		メディア論入門 a	1～4	2
		メディア論入門 b	1～4	2
	展開	現代社会論Ⅰa	1～4	2
		現代社会論Ⅰb	1～4	2
		現代社会論Ⅱa	1～4	2
		現代社会論Ⅱb	1～4	2
		現代社会論Ⅲa	1～4	2
		現代社会論Ⅲb	1～4	2
		現代社会論Ⅳa	1～4	2
		現代社会論Ⅳb	1～4	2
		現代社会論Ⅴa	1～4	2
		現代社会論Ⅴb	1～4	2
		現代社会論Ⅵa	1～4	2
		現代社会論Ⅵb	1～4	2
		現代社会論Ⅶa	1～4	2
		現代社会論Ⅶb	1～4	2
		現代社会論Ⅷa	1～4	2
		現代社会論Ⅷb	1～4	2
		現代社会論演習 a	1～4	2
		現代社会論演習 b	1～4	2
社会構造論系列	基幹	国際関係論入門 a	1～4	2
		国際関係論入門 b	1～4	2
		経済学入門 a	1～4	2
		経済学入門 b	1～4	2
		政治学入門 a	1～4	2
		政治学入門 b	1～4	2
		情報社会論入門 a	1～4	2
		情報社会論入門 b	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）a	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）b	1～4	2
	展開	社会構造論Ⅰa	1～4	2
		社会構造論Ⅰb	1～4	2
		社会構造論Ⅱa	1～4	2
		社会構造論Ⅱb	1～4	2
		社会構造論Ⅲa	1～4	2
		社会構造論Ⅲb	1～4	2
		社会構造論Ⅳa	1～4	2
		社会構造論Ⅳb	1～4	2
		社会構造論Ⅴa	1～4	2
		社会構造論Ⅴb	1～4	2
		社会構造論Ⅵa	1～4	2
		社会構造論Ⅵb	1～4	2
		社会構造論演習 a	1～4	2
		社会構造論演習 b	1～4	2
思想・人間論系列	基幹	哲学入門 a	1～4	2
		哲学入門 b	1～4	2
		宗教学入門 a	1～4	2
		宗教学入門 b	1～4	2
		倫理学入門 a	1～4	2
		倫理学入門 b	1～4	2
		西洋思想入門 a	1～4	2
		西洋思想入門 b	1～4	2
		東洋思想入門 a	1～4	2
		東洋思想入門 b	1～4	2
		日本思想入門 a	1～4	2
		日本思想入門 b	1～4	2
	展開	思想・人間論Ⅰa	1～4	2
		思想・人間論Ⅰb	1～4	2
		思想・人間論Ⅱa	1～4	2
		思想・人間論Ⅱb	1～4	2
		思想・人間論Ⅲa	1～4	2
		思想・人間論Ⅲb	1～4	2
		思想・人間論演習 a	1～4	2
		思想・人間論演習 b	1～4	2
表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1～4	2
		文学入門 b	1～4	2
		言語学入門 a	1～4	2
		言語学入門 b	1～4	2
		音楽入門 a	1～4	2
		音楽入門 b	1～4	2
		表象文化論入門 a	1～4	2
		表象文化論入門 b	1～4	2
	展開	表現文化論Ⅰa	1～4	2
		表現文化論Ⅰb	1～4	2
		表現文化論Ⅱa	1～4	2
		表現文化論Ⅱb	1～4	2
		表現文化論Ⅲa	1～4	2
		表現文化論Ⅲb	1～4	2
		表現文化論Ⅳa	1～4	2
		表現文化論Ⅳb	1～4	2
		表現文化論Ⅴa	1～4	2
		表現文化論Ⅴb	1～4	2
		表現文化論Ⅵa	1～4	2
		表現文化論Ⅵb	1～4	2
		表現文化論演習 a	1～4	2
		表現文化論演習 b	1～4	2

第16表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）（つづき）

分野		授　業　科　目	配当年次	単位
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	1～4	2
		歴史学入門 b	1～4	2
		日本近現代史 a	1～4	2
		日本近現代史 b	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 a	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 b	1～4	2
		アジア近現代史 a	1～4	2
		アジア近現代史 b	1～4	2
		アメリカ近現代史 a	1～4	2
		アメリカ近現代史 b	1～4	2
	展開	歴史文化論Ⅰa	1～4	2
		歴史文化論Ⅰb	1～4	2
		歴史文化論Ⅱa	1～4	2
		歴史文化論Ⅱb	1～4	2
		歴史文化論Ⅲa	1～4	2
		歴史文化論Ⅲb	1～4	2
		歴史文化論Ⅳa	1～4	2
		歴史文化論Ⅳb	1～4	2
		歴史文化論Ⅴa	1～4	2
		歴史文化論Ⅴb	1～4	2
		歴史文化論演習 a	1～4	2
		歴史文化論演習 b	1～4	2
地域空間論系列	基幹	文化人類学入門 a	1～4	2
		文化人類学入門 b	1～4	2
		空間システム論入門 a	1～4	2
		空間システム論入門 b	1～4	2
	展開	地域空間論Ⅰa	1～4	2
		地域空間論Ⅰb	1～4	2
		地域空間論Ⅱa	1～4	2
		地域空間論Ⅱb	1～4	2
		地域空間論Ⅲa	1～4	2
		地域空間論Ⅲb	1～4	2
		地域空間論Ⅳa	1～4	2
		地域空間論Ⅳb	1～4	2
		地域空間論Ⅴa	1～4	2
		地域空間論Ⅴb	1～4	2
		地域空間論Ⅵa	1～4	2
		地域空間論Ⅵb	1～4	2
		地域空間論Ⅶa	1～4	2
		地域空間論Ⅶb	1～4	2
		地域空間論Ⅷa	1～4	2
		地域空間論Ⅷb	1～4	2
		地域空間論演習 a	1～4	2
		地域空間論演習 b	1～4	2

分野		授　業　科　目	配当年次	単位
数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1～4	2
		数理の世界 b	1～4	2
		物理の世界 a	1～4	2
		物理の世界 b	1～4	2
		化学の世界 a	1～4	2
		化学の世界 b	1～4	2
		生命科学の世界 a	1～4	2
		生命科学の世界 b	1～4	2
		科学史 a	1～4	2
		科学史 b	1～4	2
	展開	自然科学Ⅰa	1～4	2
		自然科学Ⅰb	1～4	2
		自然科学Ⅱa	1～4	2
		自然科学Ⅱb	1～4	2
		自然科学Ⅲa	1～4	2
		自然科学Ⅲb	1～4	2
		自然科学Ⅳa	1～4	2
		自然科学Ⅳb	1～4	2
		自然科学Ⅴa	1～4	2
		自然科学Ⅴb	1～4	2
		数理・自然科学演習 a	1～4	2
		数理・自然科学演習 b	1～4	2
心身論系列	基幹	こころと身体 a	1～4	2
		こころと身体 b	1～4	2
		身体と運動・スポーツ a	1～4	2
		身体と運動・スポーツ b	1～4	2
	展開	心身論Ⅰa	1～4	2
		心身論Ⅰb	1～4	2
		心身論Ⅱa	1～4	2
		心身論Ⅱb	1～4	2
		心身論Ⅲa	1～4	2
		心身論Ⅲb	1～4	2
		心身論Ⅳa	1～4	2
		心身論Ⅳb	1～4	2
		心身論Ⅴa	1～4	2
		心身論Ⅴb	1～4	2
		心身論演習 a	1～4	2
		心身論演習 b	1～4	2

〔第16表の注意事項〕

世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

［C キャリアデザイン科目群］

キャリアデザイン科目群の開設科目は**第17表**のとおりである。

第17表　キャリアデザイン科目群

授　業　科　目	配当年次	単位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第17表の注意事項〕

① 2025年度に科目が一新され、以下の科目は廃講となり、**第17表**の科目が新設された。**☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に教養科目の卒業要件単位に算入することができる。**なお、上限には修得済の旧授業科目も含まれるため注意すること。

旧授業科目	
☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	職業選択
★プロジェクト演習	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ
★成城インターンシップ	時事英語Ⅰ・Ⅱ
業界企業分析	時事問題研究

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

② キャリアデザイン科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ キャリアデザイン科目群は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

④ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

⑤「キャリア・エクスペリエンス」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑥「キャリア・エクスペリエンス」は反復履修できるが、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。なお、2024年度以前に「成城インターンシップ」の単位を修得している場合、「キャリア・エクスペリエンス」を履修することもできるが、卒業要件単位に算入することはできない。**

［d 国際交流科目群］

国際交流科目群の開設科目は、**第18表**のとおりである。

第18表　国際交流科目群

区分	授業科目	配当年次	単位
留学対策科目	Academic Skills ⅠA	1～4	1
	Academic Skills ⅠB	1～4	1
	Academic Skills ⅡA	1～4	1
	Academic Skills ⅡB	1～4	1
	Academic Skills ⅢA	1～4	1
	Academic Skills ⅢB	1～4	1
	Academic Skills ⅣA	1～4	1
	Academic Skills ⅣB	1～4	1
	Academic Skills ⅤA	2～4	1
	Academic Skills ⅤB	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies ⅠA	1～4	2
	Japan Studies ⅠB	1～4	2
	Japan Studies ⅡA	1～4	2
	Japan Studies ⅡB	1～4	2
	Japan Studies ⅢA	1～4	2
	Japan Studies ⅢB	1～4	2
	Japan Studies ⅣA	1～4	2
	Japan Studies ⅣB	1～4	2
	Japan Studies ⅤA	1～4	2
	Japan Studies ⅤB	1～4	2
	Japan Studies ⅥA	1～4	2
	Japan Studies ⅥB	1～4	2
	Japan Studies ⅦA	1～4	2
	Japan Studies ⅦB	1～4	2
	Japan Studies ⅧA	1～4	2
	Japan Studies ⅧB	1～4	2
	Japan Studies ⅨA	1～4	2
	Japan Studies ⅨB	1～4	2
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics ⅠA	1～4	2
	Special Topics ⅠB	1～4	2
	Special Topics ⅡA	1～4	2
	Special Topics ⅡB	1～4	2
	Special Topics ⅢA	1～4	2
	Special Topics ⅢB	1～4	2
	Special Topics ⅣA	1～4	2
	Special Topics ⅣB	1～4	2
	Special Topics ⅤA	1～4	2
	Special Topics ⅤB	1～4	2

区分	授業科目	配当年次	単位
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（スペイン語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	1
受け入れ留学生科目	日本語（初級1）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級1）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅳ	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅠA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅠB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅢA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅢB	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣB	交換留学生等	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第18表の注意事項〕

① 「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。

② 卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が認められている。【履修規定 I 総説 B履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は**履修科目登録上限単位数には算入されない。**詳細については、【履修規定 I 総説 B履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 海外短期語学研修のうち、配当年次が＊印になっているものは、１～３年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位授与がされる科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。

⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の授与を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち**卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。**

⑥ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑦ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、または外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。

［e データサイエンス科目群］

データサイエンス科目群の開設科目は、**第19表**に示すとおりである。

第19表　データサイエンス科目群

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
リテラシー科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2～4	2
	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2
選択科目	データアナリティクス応用	2～4	2
	機械学習応用	2～4	2
	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

〔第19表の注意事項〕

①「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。

②「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

③「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

［ f　スポーツ・ウエルネス教育科目 ］

スポーツ・ウエルネス教育科目は、**第20表**のとおりである。

第20表　スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース		配当年次	単位
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ		1～4	2
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中）	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー＆フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ　　スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス＆コンディショニング エアロビクス＆ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ＆ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
	身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス			

〔第20表の注意事項〕

① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ **スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室、または指定された教室でガイダンスを行う。**

④ **スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。**
なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。

⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。

⑥ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

⑦ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。

3 他学部開設科目

他学部開設科目は、**第21表**のとおりである。

第21表　他学部開設科目

授業科目	配当年次	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2～4	4	文芸
ギリシャ古典講読	2～4	4	文芸
ローマ古典入門	2～4	4	文芸
ローマ古典講読	2～4	4	文芸
古代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
古代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅲ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅳ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅴ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅵ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅶ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅷ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅸ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅹ	2～4	2	文芸
英語学概論	2～4	4	文芸
英語文学史	2～4	4	文芸
英語学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義B	3・4	2	文芸
美学・芸術学入門a	2～4	2	文芸
美学・芸術学入門b	2～4	2	文芸
美術史入門a	2～4	2	文芸
美術史入門b	2～4	2	文芸
美学一般講義a	2～4	2	文芸
美学一般講義b	2～4	2	文芸
音楽学一般講義a	2～4	2	文芸
音楽学一般講義b	2～4	2	文芸
演劇学一般講義a	2～4	2	文芸
演劇学一般講義b	2～4	2	文芸
映画学一般講義a	2～4	2	文芸
映画学一般講義b	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義a	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義b	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義a	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義b	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰb	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱb	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
日本文化史a	2～4	2	文芸
日本文化史b	2～4	2	文芸
東洋文化史a	2～4	2	文芸
東洋文化史b	2～4	2	文芸
西洋文化史a	2～4	2	文芸
西洋文化史b	2～4	2	文芸

第21表　他学部開設科目（つづき）

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
考古学a	2～4	2	文芸
考古学b	2～4	2	文芸
マスコミ原論	2～4	2	文芸
マスコミ史	2～4	2	文芸
ジャーナリズム論	2～4	2	文芸
リスクコミュニケーション論	2～4	2	文芸
社会心理学	2～4	2	文芸
広告心理学	2～4	2	文芸
マスコミ研究法	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化	2～4	4	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論講義	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義a	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義b	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義a	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義b	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論特殊講義	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義a	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義b	2～4	2	文芸
ヨーロッパ文化史	2～4	4	法
アメリカ文化史	2～4	4	法
日本文学	2～4	4	法
外国文学	2～4	4	法
エコロジー論	2～4	4	社会イノベーション
文明と社会	2～4	4	社会イノベーション
家族と社会の変動	2～4	4	社会イノベーション
短期学外演習	2～4	2	社会イノベーション

〔第21表の注意事項〕

① 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。**修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。**

② 「マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

教職関連科目は、**第22表**のとおりである。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第22表　教職関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
日本史概説 a	2～4	2
日本史概説 b	2～4	2
人文地理学 a	2～4	2
人文地理学 b	2～4	2
地理学講義 a	2～4	2
地理学講義 b	2～4	2
地誌学 a	2～4	2
地誌学 b	2～4	2
哲学講義 a	2～4	2
哲学講義 b	2～4	2
宗教学講義 a	2～4	2
宗教学講義 b	2～4	2
倫理学講義 a	2～4	2
倫理学講義 b	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第22表の注意事項〕

① 教職関連科目は、教職課程を登録した者が「『教科に関する専門的事項』に該当する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない。**
③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 Ⅱ 教職課程科目の履修　6 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

Ⅳ 経営学科　履修系統図

凡例：
- 基 基礎科目
- 専 専門基礎科目
- 済 経済学科開設科目
- 全 全学共通教育科目

【基礎科目】

英語

- 英語読解（1）a･b
- 上級英語読解（1）a･b
- Communicative English（1）a･b
- Advanced Communicative English（1）a･b

→

- 英語読解（2）a･b
- 上級英語読解（2）a･b
- Communicative English（2）a･b
- Advanced Communicative English（2）a･b
- TOEIC a･b
- 上級TOEIC a･b

第2外国語

- 独語（初級）a･b → 独語（中級）a･b
- 仏語（初級）a･b → 仏語（中級）a･b
- 中国語（初級）a･b → 中国語（中級）a･b

初年次教育科目

- データ分析ⅠⅡ

【専門科目】

ゼミナール

基礎ゼミナール → 3年次ゼミナール → 4年次ゼミナール（卒業論文を含む）

経営学関連

企業の経営行動の実態を理解する上で、必要な専門基礎知識を体系的に学ぶと同時に、実務や実践に活かすことのできる活きた経営学の修得をねらいとしています。

- 基 データ分析ⅠⅡ
- 専 経済学ⅠⅡ
- 専 経営学総論ⅠⅡ
- 専 会計学総論ⅠⅡ
- 専 商学総論ⅠⅡ

→

- 専 経営史ⅠⅡ
- 専 財務会計論ⅠⅡ
- 専 企業会計論ⅠⅡ
- 専 経営管理論ⅠⅡ
- 専 マーケティング論ⅠⅡ
- 専 経営統計学ⅠⅡ
- 専 経営数学ⅠⅡ
- 専 経営英書講読Ⅰ・Ⅱ
- 専 ビジネスライティングⅠⅡ
- 専 財務諸表分析ⅠⅡ

→

- 専 国際経営論ⅠⅡ
- 専 人的資源論ⅠⅡ
- 専 経営組織論ⅠⅡ
- 専 経営戦略論ⅠⅡ
- 専 経営情報論ⅠⅡ
- 専 企業論ⅠⅡ
- 専 生産管理論ⅠⅡ
- 専 ベンチャービジネス論ⅠⅡ
- 専 交通論ⅠⅡ
- 専 中小企業論ⅠⅡ
- 専 経営学特殊講義A～F

→

- 専 原価計算論
- 専 金融システム論ⅠⅡ
- 専 管理会計論
- 専 税務会計論ⅠⅡ
- 専 公企業論ⅠⅡ

会計学関連

会計は積み重ねの学問です。その分、各科目は密接に関連しており、領域に重なりがあります。系統的に学ぶことで、基礎科目の理解が深まり、応用科目の学習も容易になります。

- 専 会計学総論ⅠⅡ
- 基 データ分析ⅠⅡ
- 専 経営学総論ⅠⅡ
- 専 経済学ⅠⅡ
- 専 商学総論ⅠⅡ

→

- 専 財務会計論ⅠⅡ
- 専 原価計算論
- 専 経営数学ⅠⅡ
- 専 経営情報論ⅠⅡ

→

- 専 税務会計論ⅠⅡ
- 専 企業会計論ⅠⅡ
- 専 財務管理論ⅠⅡ
- 専 会計監査論ⅠⅡ
- 専 管理会計論
- 専 財務諸表分析ⅠⅡ

→

- 専 経営統計学ⅠⅡ
- 専 証券市場論ⅠⅡ
- 専 経営管理論ⅠⅡ
- 専 経営史ⅠⅡ
- 専 マーケティング論ⅠⅡ
- 専 人的資源論ⅠⅡ
- 専 経営戦略論ⅠⅡ
- 専 経営組織論ⅠⅡ
- 専 ベンチャービジネス論ⅠⅡ
- 専 国際経営論ⅠⅡ
- 専 経営学特殊講義A～F

商学関連

経営学総論、商学総論など、基礎となる科目を学んだ上で、商品開発論、マーケティング論、消費者行動論といった、より高度で応用的な科目を学びます。また、商学分野においても、データの分析・解析能力や数量的なアプローチが求められる場面が多くなっています。経営数学や経営統計学を学ぶことでこれらの能力を身に付けるようにします。

- 基 データ分析ⅠⅡ
- 専 経済学ⅠⅡ
- 専 経営学総論ⅠⅡ
- 専 会計学総論ⅠⅡ
- 専 商学総論ⅠⅡ

→

- 専 経営数学ⅠⅡ
- 専 経営統計学ⅠⅡ

→

- 専 商品開発論ⅠⅡ
- 専 マーケティング論ⅠⅡ
- 専 消費者行動論
- 専 マーケティング･サイエンス
- 専 サービス･マーケティング論ⅠⅡ
- 専 ツーリズム･マーケティング論ⅠⅡ
- 専 流通論
- 専 デジタル･マーケティング

→

- 専 経営管理論ⅠⅡ
- 専 経営組織論ⅠⅡ
- 専 経営戦略論ⅠⅡ
- 専 人的資源論ⅠⅡ
- 専 国際経営論ⅠⅡ
- 専 管理会計論
- 専 財務会計論ⅠⅡ
- 専 財務諸表分析ⅠⅡ
- 専 貿易論ⅠⅡ
- 専 経営学特殊講義A~F

基	データ分析ⅠⅡ
専	経済学ⅠⅡ
専	経営学総論ⅠⅡ
専	会計学総論ⅠⅡ
専	商学総論ⅠⅡ

専	経営数学ⅠⅡ
専	金融システム論ⅠⅡ
専	証券市場論ⅠⅡ
専	財務会計論ⅠⅡ
専	企業会計論ⅠⅡ

専	財務管理論ⅠⅡ
専	ベンチャービジネス論ⅠⅡ
済	国際金融論Ⅰ・Ⅱ
済	統計学ⅠⅡ
専	リスクマネジメント論ⅠⅡ
専	原価計算論
専	管理会計論

専	経営統計学ⅠⅡ
専	経営組織論ⅠⅡ
専	経営情報論ⅠⅡ

専	会計監査論ⅠⅡ
専	税務会計論ⅠⅡ
専	経営学特殊講義A～F

金融関連

１年次に経済学を履修した上で、２年次に金融システム論、証券市場論、３年次に財務管理論は必須です。金融機関への就職を希望する者は経営数学、国際金融論を履修してください。企業の財務セクションを希望する人は、財務会計など会計系科目を履修してください。

基	データ分析ⅠⅡ
専	経済学ⅠⅡ
専	経営学総論ⅠⅡ
専	会計学総論ⅠⅡ
専	商学総論ⅠⅡ
全	データサイエンス概論
全	データサイエンス基礎
全	数理科学基礎ａ・ｂ

専	経営数学ⅠⅡ
専	経営統計学ⅠⅡ

専	商品開発論ⅠⅡ
専	マーケティング論ⅠⅡ
専	マーケティング・サイエンス
専	生産管理論ⅠⅡ
専	経営戦略論ⅠⅡ
専	プログラミングと機械学習ⅠⅡ
全	データアナリティクス基礎
全	データアナリティクス応用
全	数理科学応用ａ・ｂ

専	経営情報論ⅠⅡ
専	経営学特殊講義A～F
全	機械学習基礎
全	データサイエンス・アドバンスド・プログラム

情報関連

経営学のどの分野を学ぶ上でも、データがきちんと読めて分析できる能力は大変重要です。データ分析でその基礎をしっかりと身に付け、経営統計学で知識を発展させた上で、更に実践的な内容を経営情報論で学びます。

【自由設計科目】

専門関連

経済学関連科目							
外国史概説 A・B	経済学史Ⅰ・Ⅱ	経済統計論	公共経済学Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史Ⅰ・Ⅱ	日本経済論 A・B	中国経済書講読A・B	
社会問題基礎	市場と政府Ⅰ・Ⅱ	計量経済学Ⅰ・Ⅱ	医療経済論Ⅰ・Ⅱ	東洋経済史Ⅰ・Ⅱ	世界経済事情 A ・B	応用経済学特別講義C・D	
社会科学基礎	経済史入門A・B	産業組織論Ⅰ・Ⅱ	国際貿易論Ⅰ・Ⅱ	現代経済史Ⅰ・Ⅱ	国際関係論Ⅰ ・Ⅱ	比較制度論A・B	
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	社会経済史Ⅰ・Ⅱ	経済思想史Ⅰ・Ⅱ	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	社会思想史Ⅰ・Ⅱ	経済地理学Ⅰ・Ⅱ	経済理論特別講義A・B	
マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	社会政策Ⅰ・Ⅱ	金融論Ⅰ・Ⅱ	食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ	英経済書講読Ⅰ・Ⅱ	応用経済学特別講義A・B	
ゲーム理論入門	数理経済学 A・B	国際金融論Ⅰ・Ⅱ	環境経済学Ⅰ・Ⅱ	社会キャリア論 A・B	独経済書講読A・B	経済史特別講義A・B	
統計学	経済変動論 A・B	財政学Ⅰ・Ⅱ	日本経済史Ⅰ・Ⅱ	社会デザイン論Ⅰ・Ⅱ	仏経済書講読A・B	社会問題特別講義A・B	

法学関連科目				
民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	国際経済法
商法概論	行政法Ⅰ	国際取引法	金融商品取引法	公務員法・行政組織法
憲法	行政学	環境法	商取引法	消費者法Ⅰ・Ⅱ
会社法Ⅰ・Ⅱ	労働基準法	社会保障法	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法

教養科目

全学共通教育科目

経済学部開設・教養科目							
政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC（特級）Ⅰa・b	中国語（特級）a・b	EAP（English for Academic Purposes）a・b	数学Ⅰa・b	現代社会とスポーツ		
外国文化Ⅰa・b～Ⅳa・b	TOEIC（特級）Ⅱa・b		TOEFLa・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論	

リテラシー科目群						
WRD	英会話選択	独会話選択	仏語選択	韓国語会話選択	図書館活用法	
英語リスニング&スピーキング	ビジネス英語	独語選択	スペイン語選択	韓国語選択	ディプロム・コース（独語、仏語、スペイン語、韓国語）	
英語リーディング&ライティング	英文多読	仏会話選択	中国語選択	コンピュータ・リテラシー		

教養科目群							
総合講座Ⅰ～Ⅵ	現代社会論演習a・b	社会構造論演習a・b	思想・人間論Ⅰa・b～Ⅲa・b	表現文化論演習a・b	歴史文化論演習a・b	化学の世界a・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b
特別講座Ⅰ・Ⅱ	国際関係論入門a・b	哲学入門a・b	思想・人間論演習a・b	歴史学入門a・b	文化人類学入門a・b	生命科学の世界a・b	心身論演習a・b
成城学園を知る	経済学入門a・b	宗教学入門a・b	文学入門a・b	日本近現代史a・b	空間システム論入門a・b	科学史a・b	
成城学Ⅰ～Ⅴ	政治学入門a・b	倫理学入門a・b	言語学入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b	地域空間論Ⅰa・b～Ⅷa・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b	
社会学入門a・b	情報社会論入門a・b	西洋思想入門a・b	音楽入門a・b	アジア近現代史a・b	地域空間論演習a・b	数理・自然科学演習a・b	
メディア論入門a・b	法学（含む日本国憲法）a・b	東洋思想入門a・b	表象文化論入門a・b	アメリカ近現代史a・b	数理の世界a・b	こころと身体a・b	
現代社会論Ⅰa・b～Ⅷa・b	社会構造論 Ⅰa・b～Ⅵa・b	日本思想入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅵa・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	物理の世界a・b	身体と運動・スポーツa・b	

キャリアデザイン科目群			
キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	キャリア・エクスペリエンス	ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ	
キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ	ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ		

国際交流科目群				
Academic Skills Ⅰ～Ⅵ	North American Studies	Japan StudiesⅠA・B～ⅨA・B	海外短期語学研修	留学準備演習
European Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠA・B～ⅤA・B	海外短期研修	

データサイエンス科目群						
データサイエンス概論	データサイエンス基礎	データアナリティクス基礎	機械学習基礎	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	
データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	データアナリティクス応用	機械学習応用	数理科学基礎ａ・ｂ	数理科学応用ａ・ｂ		

スポーツ・ウエルネス教育科目						
スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&コンディショニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	レクリエーション・スポーツ
ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	フットサル	サイクル・スポーツ
身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー&フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ヨガ&ピラティス	スキー
アクアエクササイズ	剣道（古武道）	水泳	テニス	バレーボール	ラグビー	

他学部開設科目							
ギリシャ古典入門	国語学講義Ⅰ・Ⅱ	美学・芸術学入門a・b	美学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	考古学a・b	マスコミ特殊講義Ⅰ～Ⅵ	西洋古典特殊講義a・b	哲学史特殊講義a・b
ギリシャ古典講読	国語国文学講義Ⅰ～Ⅹ	美術史入門a・b	芸術学特殊講義Ⅰ～Ⅴ	マスコミ原論	ヨーロッパの文化	言語学特殊講義Ⅰ（独）	ヨーロッパ文化史
ローマ古典入門	英語学概論	美学一般講義a・b	美術史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	リスクコミュニケーション論	ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	言語学特殊講義Ⅱ（仏）	アメリカ文化史
ローマ古典講読	英語文学史	音楽学一般講義a・b	文化史特殊講義Ⅰa・b～Ⅳa・b	マスコミ史	ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	日本文学
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	演劇学一般講義a・b	歴史学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	ジャーナリズム論	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	外国文学
中古国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	映画学一般講義a・b	民俗学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	社会心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	エコロジー論
中世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義A	日本美術史一般講義a・b	文化人類学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	広告心理学	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	文明と社会
近世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義B	東洋美術史一般講義a・b	日本文化史a・b	マスコミ研究法	ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	家族と社会の変動
近代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	西洋美術史一般講義Ⅰa・b	東洋文化史a・b	マスコミ講義Ⅰ～Ⅸ	広域芸術論講義	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	短期学外演習
漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義B	西洋美術史一般講義Ⅱa・b	西洋文化史a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅸ	ヨーロッパの文化特殊講義a・b	広域芸術論特殊講義	

履修規定

経済学科
［2023年度以前入学者用］

Ⅰ 総説…… 100
A．開設科目および卒業要件単位数…… 100
B．履修単位制限…… 101
C．２年次から３年次への進級基準…… 101

Ⅱ 経済学科授業科目一覧表…… 102

Ⅲ —1　分野別履修方法（基礎科目）…… 108
A．語　　学…… 108
B．基礎数理…… 109

Ⅲ —2　分野別履修方法（専門科目）…… 109
A．ゼミナール…… 110
B．専門基礎科目…… 110
C．専門選択科目…… 111

Ⅲ —3　分野別履修方法（自由設計科目）…… 112
A．推奨科目…… 113
B．一般科目…… 120

Ⅲ —4　分野別履修方法（教職関連科目）…… 127

Ⅳ 経済学科　履修系統図…… 128

I 総　説

A 開設科目および卒業要件単位数

1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の４つの分野から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の３分野から**第１表**に示す規定単位数を修得しなければならない。

3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および２年次から３年次への進級基準に十分注意すること。

第１表　経済学科　開設科目および卒業要件単位数

分野	区分				規定単位数
基礎科目	語学	英語			8
		第二外国語			6
	基礎数理				4
専門科目	ゼミナール				12
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習			6
	専門基礎選択科目				16
	専門選択科目				34
自由設計科目	推奨科目	専門選択関連科目			20
		法学関連科目			
		教養科目			
		全学共通教育科目	リテラシー科目群	WRD、IT科目	
			教養科目群	系列科目の一部（注5）	
			キャリアデザイン科目群（注6）		
			国際交流科目群（注7）		
			データサイエンス科目群		
	一般科目	全学共通教育科目	リテラシー科目群	外国語科目	18
			教養科目群	総合科目、成城学、系列科目の一部（注5）	
			スポーツ・ウエルネス教育科目（注8）		
		他学部開設科目（注9）			
教職関連科目（注10）					－
合　計					124

（注1）
（注2）
（注3）
（注4）

〔第１表の注意事項〕
（注１）**基礎数理**の規定単位数を超えて修得した単位は、**推奨科目**に充当することができる。
（注２）**専門基礎選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**専門選択科目**に充当することができる。
（注３）**専門選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**推奨科目**に充当することができる。
（注４）**推奨科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**一般科目**に充当することができる。
（注５）系列科目は推奨科目と一般科目に分けられる。詳細は、「経済学科授業科目一覧表第3表（p.102）」を参照すること。
（注６）**キャリアデザイン科目群**には、卒業要件単位に算入されない科目がある。履修規定を参照すること。
（注７）**国際交流科目群**のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
（注８）**スポーツ・ウエルネス教育科目**は、**４単位**まで卒業要件単位として認められる。
（注９）**他学部開設科目**は、**8単位**まで卒業要件単位として認められる。
（注10）教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められない。

B 履修単位制限

1 履修単位制限

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を、**48単位**とする。
※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目

③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.8以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を4単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学科より期中および成績確定後に学習指導の場が設けられる。
※教職課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※本措置と、教職課程における特例措置の双方の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

C ２年次から３年次への進級基準

２年次から３年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、２年次終了までに**第２表**に示す所定の単位を修得していなければならない。

第２表　進級基準

分　野	区　分		単位数
基礎科目	語学	英語	10
		第二外国語	
	基礎数理		4
専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナール（注1）	4
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習	6
	専門基礎選択科目		8
	専門選択科目		6
自由設計科目	推奨科目		10
計			48

（注2）
（注3）
（注4）

〔第２表の注意事項〕
（注１）「２年次ゼミナール」は2025年度から「基礎ゼミナール」（２単位）に変更された。
進級基準を満たすためには、「基礎ゼミナール」４単位分を修得しなければならない（ただし、2024年度以前に「２年次ゼミナール」（４単位）を修得済みの場合は除く）。
（注２）**基礎数理**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**推奨科目**の単位数（10単位）に充当することができる。
（注３）**専門基礎選択科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**専門選択科目**の単位数（６単位）に充当することができる。
（注４）**専門選択科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**推奨科目**の単位数（10単位）に充当することができる。
なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して６単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目に充当することができるものとする。

Ⅱ 経済学科授業科目一覧表

第3表

分野・区分			配当年次 1年	配当年次 2年
基礎科目	語学	英語	英語読解（1）a① 英語読解（1）b① 上級英語読解（1）a① 上級英語読解（1）b① [1～4年] 英語読解（再）①	英語読解（2）a① 英語読解（2）b① 上級英語読解（2）a① 上級英語読解（2）b①
			Communicative English（1）a① Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）b① [1～4年] Communicative English（再）①	Communicative English（2）a① Communicative English（2）b① Advanced Communicative English（2）a① Advanced Communicative English（2）b①
				TOEIC a①　TOEIC b① 上級TOEIC a①　上級TOEIC b① [2～4年] TOEIC（再）①
		第二外国語	独語（初級）a② 独語（初級）b②	独語（中級）a① 独語（中級）b①
			仏語（初級）a② 仏語（初級）b②	仏語（中級）a① 仏語（中級）b①
			中国語（初級）a② 中国語（初級）b②	中国語（中級）a① 中国語（中級）b①
	基礎数理		データ解析入門Ⅰ②　数学入門Ⅰ② データ解析入門Ⅱ②　数学入門Ⅱ②	
専門科目	ゼミナール			基礎ゼミナール②
	専門基礎必修科目		ミクロ経済学入門・演習 ③ マクロ経済学入門・演習 ③	
	専門基礎選択科目			[2～4年] ミクロ経済学Ⅰ②　マクロ経済学Ⅱ②　経済学史Ⅰ② ミクロ経済学Ⅱ②　ゲーム理論入門② マクロ経済学Ⅰ②　統計学④
	専門選択科目		[1年] フレッシャーズ・セミナー② [1～4年] 外国史概説A② 外国史概説B② 社会問題入門② 社会科学入門 ②	[2～4年] 経済数学Ⅰ②　医療経済論Ⅱ②　社会キャリア論B② 経済数学Ⅱ②　国際貿易論Ⅰ②　社会デザイン論Ⅰ② 数理経済学A②　国際貿易論Ⅱ②　社会デザイン論Ⅱ② 数理経済学B②　開発経済学Ⅰ②　日本経済論A② 経済変動論A②　開発経済学Ⅱ②　日本経済論B② 経済変動論B②　食料・資源経済論Ⅰ②　世界経済事情A② 経済統計論④　食料・資源経済論Ⅱ②　世界経済事情B② 計量経済学Ⅰ②　環境経済学Ⅰ②　国際関係論Ⅰ② 計量経済学Ⅱ②　環境経済学Ⅱ②　国際関係論Ⅱ② 産業組織論Ⅰ②　日本経済史Ⅰ②　経済地理学Ⅰ② 産業組織論Ⅱ②　日本経済史Ⅱ②　経済地理学Ⅱ② 経済思想史Ⅰ②　西洋経済史Ⅰ②　英経済書講読Ⅰ② 経済思想史Ⅱ②　西洋経済史Ⅱ②　英経済書講読Ⅱ② 金融論Ⅰ②　東洋経済史Ⅰ②　独経済書講読A② 金融論Ⅱ②　東洋経済史Ⅱ②　独経済書講読B② 国際金融論Ⅰ②　現代経済史Ⅰ②　仏経済書講読A② 国際金融論Ⅱ②　現代経済史Ⅱ②　仏経済書講読B② 財政学Ⅰ②　社会思想史Ⅰ②　中国経済書講読A② 財政学Ⅱ②　社会思想史Ⅱ②　中国経済書講読B② 公共経済学Ⅰ②　社会保障論Ⅰ②　応用経済学特別講義C② 公共経済学Ⅱ②　社会保障論Ⅱ②　応用経済学特別講義D② 医療経済論Ⅰ②　社会キャリア論A②
自由設計科目	推奨科目	専門選択関連科目		[2～4年] 会計学総論Ⅰ②　経営統計学Ⅰ②　経営英書講読Ⅱ② 会計学総論Ⅱ②　経営統計学Ⅱ②　証券市場論Ⅰ② 企業会計論Ⅰ②　財務会計論Ⅰ②　証券市場論Ⅱ② 企業会計論Ⅱ②　財務会計論Ⅱ②　経営戦略論Ⅰ② 経営管理論Ⅰ②　原価計算論④　経営戦略論Ⅱ② 経営管理論Ⅱ②　財務管理論Ⅰ②　経営組織論Ⅰ② 経営史Ⅰ②　財務管理論Ⅱ②　経営組織論Ⅱ② 経営史Ⅱ②　ビジネスライティングⅠ②　人的資源論Ⅰ② マーケティング論Ⅰ②　ビジネスライティングⅡ②　人的資源論Ⅱ② マーケティング論Ⅱ②　経営英書講読Ⅰ②　ベンチャービジネス論Ⅰ②

注1）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注2）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

３　年	４　年	卒業要件単位数
		4
		4
		6
		4
３年次ゼミナール④	４年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		6

経済学史Ⅱ② 市場と政府Ⅰ② 市場と政府Ⅱ②	経済史入門Ａ② 経済史入門Ｂ② 社会経済史Ⅰ②	社会経済史Ⅱ② 社会政策Ⅰ② 社会政策Ⅱ②	16

[３・４年] 比較制度論A② 比較制度論B② 経済理論特別講義A② 経済理論特別講義B② 応用経済学特別講義A② 応用経済学特別講義B② 経済史特別講義A② 経済史特別講義B② 社会問題特別講義A② 社会問題特別講義B②	34

ベンチャービジネス論Ⅱ②	商品開発論Ⅱ②	国際経営論Ⅰ②	金融システム論Ⅰ②	経営学特殊講義Ａ②	20
生産管理論Ⅰ②	サービス・マーケティング論Ⅰ②	国際経営論Ⅱ②	金融システム論Ⅱ②	経営学特殊講義Ｂ②	
生産管理論Ⅱ②	サービス・マーケティング論Ⅱ②	公企業論Ⅰ②	会計監査論Ⅰ②	経営学特殊講義Ｃ②	
企業論Ⅰ②	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ②	公企業論Ⅱ②	会計監査論Ⅱ②	経営学特殊講義Ｄ②	
企業論Ⅱ②	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ②	交通論Ⅰ②	財務諸表分析Ⅰ②	経営学特殊講義Ｅ②	
経営情報論Ⅰ②	流通論②	交通論Ⅱ②	財務諸表分析Ⅱ②	経営学特殊講義Ｆ②	
経営情報論Ⅱ②	デジタル・マーケティング②	貿易論Ⅰ②	中小企業論Ⅰ②		
消費者行動論②	管理会計論④	貿易論Ⅱ②	中小企業論Ⅱ②		
マーケティング・サイエンス②	税務会計論Ⅰ②	リスクマネジメント論Ⅰ②	プログラミングと機械学習Ⅰ②		
商品開発論Ⅰ②	税務会計論Ⅱ②	リスクマネジメント論Ⅱ②	プログラミングと機械学習Ⅱ②		

第３表　Ⅱ. 経済学科授業科目一覧表（つづき①）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年	2　年
自由設計科目	推奨科目	法学関連科目		[2～4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④
		教養科目	[1～4年] 外国文化Ⅰａ② 外国文化Ⅰｂ② 外国文化Ⅱａ② 外国文化Ⅱｂ② 外国文化Ⅲａ② 外国文化Ⅲｂ② 外国文化Ⅳａ② 外国文化Ⅳｂ② 心理学ａ② 心理学ｂ② 数学Ⅰａ② 数学Ⅰｂ② 数学Ⅱａ② 数学Ⅱｂ② 現代社会とスポーツ②	
		全学共通教育科目	[1～4年] WRD④ コンピュータ・リテラシーＡ１② コンピュータ・リテラシーＡ２② コンピュータ・リテラシーＢ② コンピュータ・リテラシーＣ② コンピュータ・リテラシーＤ② コンピュータ・リテラシーＥ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は	
	一般科目	全学共通教育科目	[1～4年] 英語リスニング＆スピーキング（初級）a① 英語リスニング＆スピーキング（初級）b① 英語リスニング＆スピーキング（中級）a① 英語リスニング＆スピーキング（中級）b① 英語リスニング＆スピーキング（上級）a① 英語リスニング＆スピーキング（上級）b① 英語リーディング＆ライティング（初級）a① 英語リーディング＆ライティング（初級）b① 英語リーディング＆ライティング（中級）a① 英語リーディング＆ライティング（中級）b① 英語リーディング＆ライティング（上級）a① 英語リーディング＆ライティング（上級）b① 英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論Ⅷa② 現代社会論Ⅷb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb② 表現文化論Ⅴa② 表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa② 表現文化論Ⅵb② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史文化論Ⅰa② 歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa② 歴史文化論Ⅱb② 歴史文化論Ⅲa② 歴史文化論Ⅲb② 歴史文化論Ⅳa② スポーツ・ウエルネス教育科目【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅲ－３　分野別履修方法（自由設計科目）Ⅱ 一般科目 1 全学共通	

注１）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年	卒業要件単位数
[3・4年] 会社法Ⅰ②　労働基準法④　税法Ⅱ②　公務員法・行政組織法② 会社法Ⅱ②　労働組合法④　金融商品取引法②　消費者法Ⅰ② 国際法Ⅰ④　国際取引法④　商取引法②　消費者法Ⅱ② 国際法Ⅱ④　環境法②　経済法Ⅰ②　知的財産法④ 行政法Ⅰ④　社会保障法④　経済法Ⅱ② 行政学④　税法Ⅰ②　国際経済法④	20
スポーツ産業論②　EAP（English for Academic Purposes）a①　中国語（特級）b① TOEIC（特級）Ⅰa①　EAP（English for Academic Purposes）b①　政治経済論入門Ⅰ② TOEIC（特級）Ⅰb①　TOEFL a①　政治経済論入門Ⅱ② TOEIC（特級）Ⅱa①　TOEFL b① TOEIC（特級）Ⅱb①　中国語（特級）a①	
図書館活用法② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b② Ⅲ－3　分野別履修方法（自由設計科目）A推奨科目４全学共通教育科目を参照】	
仏語選択（初級）Ⅱb①　中国語選択（中級）a①　ディプロム・コース上級（独語）b① 仏語選択（中級）a①　中国語選択（中級）b①　ディプロム・コース中級（仏語）a① 仏語選択（中級）b①　中国語選択（上級）a①　ディプロム・コース中級（仏語）b① 仏語選択（上級）a①　中国語選択（上級）b①　ディプロム・コース上級（仏語）a① 仏語選択（上級）b①　韓国語会話選択a①　ディプロム・コース上級（仏語）b① スペイン語選択（初級）a①　韓国語会話選択b①　ディプロム・コース中級（スペイン語）a① スペイン語選択（初級）b①　韓国語選択（初級）a①　ディプロム・コース中級（スペイン語）b① 中国語選択（初級）Ⅰa①　韓国語選択（初級）b①　ディプロム・コース中級（韓国語）a① 中国語選択（初級）Ⅰb①　ディプロム・コース中級（独語）a①　ディプロム・コース中級（韓国語）b① 中国語選択（初級）Ⅱa①　ディプロム・コース中級（独語）b① 中国語選択（初級）Ⅱb①　ディプロム・コース上級（独語）a①	18
総合講座Ⅴ②　特別講座Ⅰ② 総合講座Ⅵ②　特別講座Ⅱ② 歴史文化論Ⅳb②　数理の世界a②　こころと身体ｂ② 歴史文化論Ⅴa②　数理の世界b②　身体と運動・スポーツａ② 歴史文化論Ⅴb②　物理の世界a②　身体と運動・スポーツｂ② 歴史文化論演習a②　物理の世界b②　心身論Ⅰa② 歴史文化論演習b②　化学の世界a②　心身論Ⅰb② 地域空間論Ⅰa②　化学の世界b②　心身論Ⅱa② 地域空間論Ⅰb②　生命科学の世界a②　心身論Ⅱb② 地域空間論Ⅱa②　生命科学の世界b②　心身論Ⅲa② 地域空間論Ⅱb②　科学史a②　心身論Ⅲb② 地域空間論Ⅲa②　科学史b②　心身論Ⅳa② 地域空間論Ⅲb②　自然科学Ⅰa②　心身論Ⅳb② 地域空間論Ⅳa②　自然科学Ⅰb②　心身論Ⅴa② 地域空間論Ⅳb②　自然科学Ⅱa②　心身論Ⅴb② 地域空間論Ⅴa②　自然科学Ⅱb②　心身論演習ａ② 地域空間論Ⅴb②　自然科学Ⅲa②　心身論演習ｂ② 地域空間論Ⅵa②　自然科学Ⅲb② 地域空間論Ⅵb②　自然科学Ⅳa② 地域空間論Ⅶa②　自然科学Ⅳb② 地域空間論Ⅶb②　自然科学Ⅴa② 地域空間論Ⅷa②　自然科学Ⅴb② 地域空間論Ⅷb②　数理・自然科学演習ａ② 地域空間論演習a②　数理・自然科学演習ｂ② 地域空間論演習b②　こころと身体ａ② 教育科目を参照】	

第３表　Ⅱ. 経済学科授業科目一覧表（つづき②）

分野・区分 ＼ 配当年次			１　年	２　年
自由設計科目	一般科目	他学部開設科目		[2～4年] ギリシャ古典入門④ ギリシャ古典講読④ ローマ古典入門④ ローマ古典講読④ 古代国文学講義Ⅰ② 古代国文学講義Ⅱ② 中古国文学講義Ⅰ② 中古国文学講義Ⅱ② 中世国文学講義Ⅰ② 中世国文学講義Ⅱ② 近世国文学講義Ⅰ② 近世国文学講義Ⅱ② 近代国文学講義Ⅰ② 近代国文学講義Ⅱ② 漢文学講義Ⅰ② 漢文学講義Ⅱ② 国語学講義Ⅰ② 国語学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅰ② 国語国文学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅲ② 国語国文学講義Ⅳ② 国語国文学講義Ⅴ② 国語国文学講義Ⅵ② 国語国文学講義Ⅶ② 国語国文学講義Ⅷ② 国語国文学講義Ⅸ② 国語国文学講義Ⅹ② 英語学概論④ 英語文学史④ 美学・芸術学入門ａ② 美学・芸術学入門ｂ② 美術史入門ａ② 美術史入門ｂ② 美学一般講義ａ② 美学一般講義ｂ② 音楽学一般講義ａ② 音楽学一般講義ｂ② 演劇学一般講義ａ② 演劇学一般講義ｂ② 映画学一般講義ａ② 映画学一般講義ｂ② 日本美術史一般講義ａ② 日本美術史一般講義ｂ② 東洋美術史一般講義ａ② 東洋美術史一般講義ｂ② 西洋美術史一般講義Ⅰａ② 西洋美術史一般講義Ⅰｂ② 西洋美術史一般講義Ⅱａ② 西洋美術史一般講義Ⅱｂ② 美学特殊講義Ⅰ② 美学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅰ② 芸術学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅲ② 芸術学特殊講義Ⅳ② 芸術学特殊講義Ⅴ② 美術史特殊講義Ⅰ② 美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅰａ② 文化史特殊講義Ⅰｂ②
教職関連科目			【教職関連科目は、Ⅲ－４　分野別履修方法（教職関連科目）を参照】	

注１）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年			卒業要件単位数
文化史特殊講義Ⅱａ②	マスコミ原論②	ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)②	18
文化史特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ史②	ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅲａ②	ジャーナリズム論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅲｂ②	リスクコミュニケーション論②	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)②	
文化史特殊講義Ⅳａ②	社会心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)②	
文化史特殊講義Ⅳｂ②	広告心理学②	ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)②	
歴史学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ研究法②	広域芸術論講義②	
歴史学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅰ②	ヨーロッパの文化特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅱ②	ヨーロッパの文化特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅲ②	西洋古典特殊講義ａ②	
歴史学特殊講義Ⅲａ②	マスコミ講義Ⅳ②	西洋古典特殊講義ｂ②	
歴史学特殊講義Ⅲｂ②	マスコミ講義Ⅴ②	言語学特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅰａ②	マスコミ講義Ⅵ②	言語学特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅰｂ②	マスコミ講義Ⅶ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅱａ②	マスコミ講義Ⅷ②	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅱｂ②	マスコミ講義Ⅸ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)②	
民俗学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅰ②	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)②	
民俗学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅱ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)②	
文化人類学特殊講義Ⅰａ②	コミュニケーション講義Ⅲ②	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)②	
文化人類学特殊講義Ⅰｂ②	コミュニケーション講義Ⅳ②	広域芸術論特殊講義②	
文化人類学特殊講義Ⅱａ②	コミュニケーション講義Ⅴ②	哲学史特殊講義ａ②	
文化人類学特殊講義Ⅱｂ②	コミュニケーション講義Ⅵ②	哲学史特殊講義ｂ②	
文化人類学特殊講義Ⅲａ②	コミュニケーション講義Ⅶ②	ヨーロッパ文化史④	
文化人類学特殊講義Ⅲｂ②	コミュニケーション講義Ⅷ②	アメリカ文化史④	
日本文化史ａ②	コミュニケーション講義Ⅸ②	日本文学④	
日本文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅰ②	外国文学④	
東洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅱ②	エコロジー論④	
東洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅲ②	文明と社会④	
西洋文化史ａ②	マスコミ特殊講義Ⅳ②	家族と社会の変動④	
西洋文化史ｂ②	マスコミ特殊講義Ⅴ②	短期学外演習②	
考古学ａ②	マスコミ特殊講義Ⅵ②		
考古学ｂ②	ヨーロッパの文化④		
[3・4年]			
英語学特殊講義Ａ②	英語文学特殊講義Ａ②	英語文化特殊講義Ａ②	
英語学特殊講義Ｂ②	英語文学特殊講義Ｂ②	英語文化特殊講義Ｂ②	
			－
合　　計			124

Ⅲ−1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経済学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と基礎数理から構成される。

A 語　学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか１つ）であり、必修科目である。卒業に必要な語学の単位数は**第４表**のとおりである。

第４表　卒業に必要な語学の規定単位数

		1年次 前期	1年次 後期	計
英　語		英語読解（1）a① 上級英語読解（1）a① （いずれか１科目） Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）a① （いずれか１科目）	英語読解（1）b① 上級英語読解（1）b① （いずれか１科目） Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）b① （いずれか１科目）	4
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（初級）a②	（初級）b②	4
計		4	4	8

		2年次 前期	2年次 後期	計
英　語		英語読解（2）a① 上級英語読解（2）a① （いずれか１科目）	英語読解（2）b① 上級英語読解（2）b① （いずれか１科目）	4
		コース別：TOEIC a ① 上級 TOEIC a ① Communicative English（2）a ① Advanced Communicative English（2）a ① （いずれか１科目）	コース別：TOEIC b ① 上級 TOEIC b ① Communicative English（2）b ① Advanced Communicative English（2）b ① （いずれか１科目）	
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（中級）a①	（中級）b ①	2
計		3	3	6

計	14

1 「英　　語」

１年次配当の週２回の英語の授業は、１つは読解、もう１つはネイティヴの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。
２年次では週２回の授業を、１つは読解、もう１つはTOEIC準備コース／ Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて１つ選ぶコース別英語の授業を行う。
※ コース選択の方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。
また、2023年度をもって「基礎英語読解」「Basic Communicative English」「基礎TOEIC」の（1）ab（2）ab科目は廃講となった。修得済みの単位は、同区分で修得したものとして認められる。

2 「独語」・「仏語」・「中国語」

１年次配当の「初級」は週２回、２年次配当の「中級」は週１回の授業を行う。

3 履修上の注意

① 英語は下表のとおり履修するクラスが指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と7月下旬～8月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と1月下旬～2月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラス（各レベル）を履修する

英語の科目はいずれも教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、1年次後期の英語科目は、4月時点では履修する

クラスが未定のため担当教員名は「教務部」となっている。実際に受講する各授業科目への登録変更は、前期成績確定後に教務部が行うので、1年次後期英語科目のクラスや担当教員については、後期開講前に確認すること。

② 英語の再履修
配当年次や学期、授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、**再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。**

※ 登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
例）1年次前期に、「Advanced Communicative English（a）」を履修し不合格だった場合、1年次後期以降、「Communicative English（再）」を履修する。

③ 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再　履　修　の　方　法	
	前期科目（a）が不合格の場合	後期科目（b）が不合格の場合
初　　級	（初級）a〈再履修〉を履修すること	（初級）b〈再履修〉を履修すること
中　　級	2年次向けの（中級）aのうち、いずれかのクラスを再履修すること。	2年次向けの（中級）bのうち、いずれかのクラスを再履修すること。

※初級については、前期に不合格になった科目を、後期に再履修することができるが、定員が設けられているため、後期にも抽選登録が必要となる。

B 基礎数理

1 基礎数理

基礎数理の開設科目は、**第5表**のとおりである。
基礎数理は、経済学科の専門分野にわたって共通に必要とされる論理的思考や数量的な分析の基礎を習得することを目的とした科目である。

第5表　基礎数理

授　業　科　目	配当年次	単位
データ解析入門Ⅰ	1	2
データ解析入門Ⅱ	1	2
数学入門Ⅰ	1	2
数学入門Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

① 進級および卒業に必要な単位数は4単位である。
② 基礎数理科目は必修科目ではないが、1年次は全ての科目を履修することになっている。
③ 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目（推奨科目）に算入することができる。
④ 基礎数理の科目が不合格で進級に必要な単位数を満たせない場合は、翌年度に再履修すること。
⑤ 2年次以降に基礎数理科目の履修を希望する場合、特別な履修登録手続きが必要である。
登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「基礎ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎必修科目、専門基礎選択科目、専門選択科目である。各分野の規定単位数は、**第6表**に、またそれぞれの開設科目、配当年次は**第7表～第9表**のとおりである。

第6表　専門科目規定単位数

分野	区　　分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	12
	専門基礎必修科目	6
	専門基礎選択科目	16
	専門選択科目	34
計		68

A ゼミナール

1 ゼミナール および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、3年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の修得と、主体性と自立心を養うことを目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第7表　ゼミナール

授　業　科　目	配当年次	単位
基礎ゼミナール	2	2
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

2 履修上の注意

① 「2年次ゼミナール」は2025年度から「基礎ゼミナール」（2単位）に変更された。
「2年次ゼミナール」未修得の者は、「基礎ゼミナール」4単位分を修得しなければならない。
② ゼミナールは定員が定められており、履修希望者数がそれを超えた場合には選考することがある。
③ 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならず、原則として指導教員の変更は認められない（基礎ゼミナール履修者については、3年次ゼミナール履修時に改めて指導教員を決定する）。
④ 単位の授与は各年次に行うが、不合格の者は次の配当年次のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
⑤ 「ゼミナール」の登録については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は、卒業論文の執筆を含む4単位の科目である。卒業論文を提出した場合であっても、「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の場合は、同科目の再履修と卒業論文の再提出が義務付けられる。
⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること Ⅸ 卒業論文】を参照すること。

B 専門基礎科目

1 必修科目・選択科目

専門基礎科目は必修科目と選択科目から構成され、**第8表**のとおりである。
必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は1年次配当の必修科目であり、いずれも「講義クラス」と「演習クラス」からなる週2回の授業である。週1回の「講義クラス」で学んだ基本的な考え方や基礎的な知識の理解を深めるために、少人数での「演習クラス」が用意され、きめ細かな指導が行われる。
選択科目は、専門選択科目を学ぶための基礎となる科目である。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表　専門基礎科目

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
必修科目	ミクロ経済学入門・演習	1	3
	マクロ経済学入門・演習	1	3
選択科目	ミクロ経済学Ⅰ	2～4	2
	ミクロ経済学Ⅱ	2～4	2
	マクロ経済学Ⅰ	2～4	2
	マクロ経済学Ⅱ	2～4	2
	ゲーム理論入門	2～4	2
	統計学	2～4	4
	経済学史Ⅰ	2～4	2
選択科目	経済学史Ⅱ	2～4	2
	市場と政府Ⅰ	2～4	2
	市場と政府Ⅱ	2～4	2
	経済史入門A	2～4	2
	経済史入門B	2～4	2
	社会経済史Ⅰ	2～4	2
	社会経済史Ⅱ	2～4	2
	社会政策Ⅰ	2～4	2
	社会政策Ⅱ	2～4	2

2 履修上の注意

① 必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は複数クラス開講されるが、教務部がクラスを指定し、事前登録を行う。なお、単位未修得者も、教務部で事前登録を行う。
② 選択科目で規定単位数（16単位）を超えて修得した単位は、専門選択科目に算入することができる。
③ 2024年度をもって「経済と社会Ⅰ・Ⅱ」、「ミクロ経済学概論」、「マクロ経済学概論」は廃講となった。なお、修得済みの科目は専門基礎科目の単位として認められる。
④ 2025年度に「ゲーム理論入門」、「経済史入門A・B」が新設された。

C 専門選択科目

1 専門選択科目

専門選択科目は、**第９表**のとおりである。
専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経済学科開設の科目である。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第９表　専門選択科目

授　業　科　目	配当年次	単位	授　業　科　目	配当年次	単位
フレッシャーズ・セミナー	1	2	東洋経済史Ⅰ	2～4	2
外国史概説 A	1～4	2	東洋経済史Ⅱ	2～4	2
外国史概説 B	1～4	2	現代経済史Ⅰ	2～4	2
社会問題入門	1～4	2	現代経済史Ⅱ	2～4	2
社会科学入門	1～4	2	社会思想史Ⅰ	2～4	2
経済数学Ⅰ	2～4	2	社会思想史Ⅱ	2～4	2
経済数学Ⅱ	2～4	2	社会保障論Ⅰ	2～4	2
数理経済学 A	2～4	2	社会保障論Ⅱ	2～4	2
数理経済学 B	2～4	2	社会キャリア論 A	2～4	2
経済変動論 A	2～4	2	社会キャリア論 B	2～4	2
経済変動論 B	2～4	2	社会デザイン論Ⅰ	2～4	2
経済統計論	2～4	4	社会デザイン論Ⅱ	2～4	2
計量経済学Ⅰ	2～4	2	日本経済論 A	2～4	2
計量経済学Ⅱ	2～4	2	日本経済論 B	2～4	2
産業組織論Ⅰ	2～4	2	世界経済事情 A	2～4	2
産業組織論Ⅱ	2～4	2	世界経済事情 B	2～4	2
経済思想史Ⅰ	2～4	2	国際関係論Ⅰ	2～4	2
経済思想史Ⅱ	2～4	2	国際関係論Ⅱ	2～4	2
金融論Ⅰ	2～4	2	経済地理学Ⅰ	2～4	2
金融論Ⅱ	2～4	2	経済地理学Ⅱ	2～4	2
国際金融論Ⅰ	2～4	2	英経済書講読Ⅰ	2～4	2
国際金融論Ⅱ	2～4	2	英経済書講読Ⅱ	2～4	2
財政学Ⅰ	2～4	2	独経済書講読 A	2～4	2
財政学Ⅱ	2～4	2	独経済書講読 B	2～4	2
公共経済学Ⅰ	2～4	2	仏経済書講読 A	2～4	2
公共経済学Ⅱ	2～4	2	仏経済書講読 B	2～4	2
医療経済論Ⅰ	2～4	2	中国経済書講読 A	2～4	2
医療経済論Ⅱ	2～4	2	中国経済書講読 B	2～4	2
国際貿易論Ⅰ	2～4	2	比較制度論 A	3・4	2
国際貿易論Ⅱ	2～4	2	比較制度論 B	3・4	2
開発経済学Ⅰ	2～4	2	経済理論特別講義 A	3・4	2
開発経済学Ⅱ	2～4	2	経済理論特別講義 B	3・4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2～4	2	応用経済学特別講義 A	3・4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2～4	2	応用経済学特別講義 B	3・4	2
環境経済学Ⅰ	2～4	2	応用経済学特別講義 C	2～4	2
環境経済学Ⅱ	2～4	2	応用経済学特別講義 D	2～4	2
日本経済史Ⅰ	2～4	2	経済史特別講義 A	3・4	2
日本経済史Ⅱ	2～4	2	経済史特別講義 B	3・4	2
西洋経済史Ⅰ	2～4	2	社会問題特別講義 A	3・4	2
西洋経済史Ⅱ	2～4	2	社会問題特別講義 B	3・4	2

2 履修上の注意

① 専門選択科目の規定単位数は34単位である。
② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目に算入することができる。なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目に充当することができるものとする。
③「フレッシャーズ・セミナー」は、経済学科1年次のみ履修することができる。
④「フレッシャーズ・セミナー」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑤ 専門選択科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。
⑥ 2023年度をもって「産業経済学」は廃講となった。なお、修得済の単位は専門関連科目の単位として認められる。
⑦ 2024年度に「産業組織論Ⅰ・Ⅱ」および「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」が新設された。

Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

1 自由設計科目

自由設計科目は、各人の専門能力を高めると同時に、各人の興味・関心に関連した知識、スキルを習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、**第10表**のとおり、12区分から構成されている。
なお、自由設計科目の規定単位数は、**第11表**に示される単位によっても充当することができる。

第10表　自由設計科目

区分				規定単位数
推奨科目	専門選択関連科目			20
	法学関連科目			
	教養科目			
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	WRD、IT科目	
		教養科目群	系列科目の一部	
		キャリアデザイン科目群		
		国際交流科目群		
		データサイエンス科目群		
一般科目	全学共通教育科目	リテラシー科目群	外国語科目	18
		教養科目群	総合科目、成城学、系列科目の一部	
		スポーツ・ウエルネス教育科目		
	他学部開設科目			

第11表　自由設計科目に充当できる単位

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
基礎数理	4	推奨科目の単位として充当
専門選択科目 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位	34	

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
推奨科目 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位	20	一般科目の単位として充当

2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。

A 推奨科目

推奨科目は、「専門選択関連科目」、「法学関連科目」、「教養科目」、「全学共通教育科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 専門選択関連科目

専門選択関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経営学系の専門科目であり、開設科目は**第12表**のとおりである。

第12表　専門選択関連科目

授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位
会計学総論Ⅰ	2～4	2	マーケティング・サイエンス	2～4	2
会計学総論Ⅱ	2～4	2	商品開発論Ⅰ	2～4	2
企業会計論Ⅰ	2～4	2	商品開発論Ⅱ	2～4	2
企業会計論Ⅱ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営管理論Ⅰ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営管理論Ⅱ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営史Ⅰ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営史Ⅱ	2～4	2	流通論	2～4	2
マーケティング論Ⅰ	2～4	2	デジタル・マーケティング	2～4	2
マーケティング論Ⅱ	2～4	2	管理会計論	2～4	4
経営統計学Ⅰ	2～4	2	税務会計論Ⅰ	2～4	2
経営統計学Ⅱ	2～4	2	税務会計論Ⅱ	2～4	2
財務会計論Ⅰ	2～4	2	国際経営論Ⅰ	2～4	2
財務会計論Ⅱ	2～4	2	国際経営論Ⅱ	2～4	2
原価計算論	2～4	4	公企業論Ⅰ	2～4	2
財務管理論Ⅰ	2～4	2	公企業論Ⅱ	2～4	2
財務管理論Ⅱ	2～4	2	交通論Ⅰ	2～4	2
ビジネスライティングⅠ	2～4	2	交通論Ⅱ	2～4	2
ビジネスライティングⅡ	2～4	2	貿易論Ⅰ	2～4	2
経営英書講読Ⅰ	2～4	2	貿易論Ⅱ	2～4	2
経営英書講読Ⅱ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2～4	2
証券市場論Ⅰ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2～4	2
証券市場論Ⅱ	2～4	2	金融システム論Ⅰ	2～4	2
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	金融システム論Ⅱ	2～4	2
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	会計監査論Ⅰ	2～4	2
経営組織論Ⅰ	2～4	2	会計監査論Ⅱ	2～4	2
経営組織論Ⅱ	2～4	2	財務諸表分析Ⅰ	2～4	2
人的資源論Ⅰ	2～4	2	財務諸表分析Ⅱ	2～4	2
人的資源論Ⅱ	2～4	2	中小企業論Ⅰ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2～4	2	中小企業論Ⅱ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅰ	2～4	2
生産管理論Ⅰ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅱ	2～4	2
生産管理論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 A	2～4	2
企業論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義 B	2～4	2
企業論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 C	2～4	2
経営情報論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義 D	2～4	2
経営情報論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義 E	2～4	2
消費者行動論	2～4	2	経営学特殊講義 F	2～4	2

〔第12表の注意事項〕

① 「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

② 2021年度に「サービス・マーケティング論Ⅰ」および「サービス・マーケティング論Ⅱ」が新設された。

③ 2022年度に「ツーリズム・マーケティング論Ⅰ」および「ツーリズム・マーケティング論Ⅱ」が新設された。

④ 2023年度をもって、「消費者行動論Ⅱ」は廃講となった。修得済みの単位は推奨科目の単位として認められる。

⑤ 2024年度から「消費者行動論Ⅰ」（半期・2単位）および「消費者行動論Ⅱ」（半期・2単位）は、「消費者行動論」（半期・2単位）に統合して開設する。2023年度までに「消費者行動論Ⅰ」または「消費者行動論Ⅱ」の少なくとも一方の単位を修得している場合、「消費者行動論」を履修することはできない。
⑥ 2024年度に「マーケティング・サイエンス」、「流通論」および「デジタル・マーケティング」が新設された。
⑦ 2024年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
消費者行動論	消費者行動論Ⅰ
プログラミングと機械学習Ⅰ	コンピュータ論Ⅰ
プログラミングと機械学習Ⅱ	コンピュータ論Ⅱ

2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、**第13表**のとおりである。

第13表　法学関連科目

授業科目	配当年次	単位
民法概論	2～4	4
商法概論	2～4	4
憲法	2～4	4
会社法Ⅰ	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4
国際法Ⅱ	3・4	4
行政法Ⅰ	3・4	4
行政学	3・4	4
労働基準法	3・4	4
労働組合法	3・4	4
国際取引法	3・4	4
環境法	3・4	2

授業科目	配当年次	単位
社会保障法	3・4	4
税法Ⅰ	3・4	2
税法Ⅱ	3・4	2
金融商品取引法	3・4	2
商取引法	3・4	2
経済法Ⅰ	3・4	2
経済法Ⅱ	3・4	2
国際経済法	3・4	4
公務員法・行政組織法	3・4	2
消費者法Ⅰ	3・4	2
消費者法Ⅱ	3・4	2
知的財産法	3・4	4

〔第13表の注意事項〕
2021年度をもって「有価証券法」は廃講となった。修得済みの単位は推奨科目の単位として認められる。

3 教養科目

教養科目の開設科目は、**第14表**のとおりである。

第14表　教養科目

授業科目	配当年次	単位
外国文化Ⅰa	1～4	2
外国文化Ⅰb	1～4	2
外国文化Ⅱa	1～4	2
外国文化Ⅱb	1～4	2
外国文化Ⅲa	1～4	2
外国文化Ⅲb	1～4	2
外国文化Ⅳa	1～4	2
外国文化Ⅳb	1～4	2
心理学a	1～4	2
心理学b	1～4	2
数学Ⅰa	1～4	2
数学Ⅰb	1～4	2
数学Ⅱa	1～4	2
数学Ⅱb	1～4	2
現代社会とスポーツ	1～4	2

授業科目	配当年次	単位
スポーツ産業論	1～4	2
TOEIC（特級）Ⅰa	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅰb	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱa	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱb	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）a	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）b	1～4	1
TOEFL a	1～4	1
TOEFL b	1～4	1
中国語（特級）a	1～4	1
中国語（特級）b	1～4	1
政治経済論入門Ⅰ	1～4	2
政治経済論入門Ⅱ	1～4	2

〔第14表の注意事項〕
「TOEIC（特級）Ⅰa」、「TOEIC（特級）Ⅰb」、「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

4 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、**第15表～第19表**のとおりである。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

〔注意事項〕

全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

a リテラシー科目群

リテラシー科目群の開設科目は**第15表**のとおりである。

第15表　リテラシー科目群（WRD、IT科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
WRD	WRD	1～4	4
IT科目	コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーB	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーC	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
	図書館活用法	1～4	2

〔第15表の注意事項〕

① 「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。

② セットで履修した「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

b 教養科目群

教養科目群の開設科目は**第16表**のとおりである。

第16表　教養科目群（系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
現代社会論系列	基幹	社会学入門a	1～4	2
		社会学入門b	1～4	2
		メディア論入門a	1～4	2
		メディア論入門b	1～4	2
社会構造論系列	基幹	国際関係論入門a	1～4	2
		国際関係論入門b	1～4	2
		経済学入門a	1～4	2
		経済学入門b	1～4	2
		政治学入門a	1～4	2
		政治学入門b	1～4	2
		情報社会論入門a	1～4	2
		情報社会論入門b	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）a	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）b	1～4	2
思想・人間論系列	基幹	哲学入門a	1～4	2
		哲学入門b	1～4	2
		宗教学入門a	1～4	2
		宗教学入門b	1～4	2
		倫理学入門a	1～4	2
		倫理学入門b	1～4	2
		西洋思想入門a	1～4	2
		西洋思想入門b	1～4	2
		東洋思想入門a	1～4	2
		東洋思想入門b	1～4	2
		日本思想入門a	1～4	2
		日本思想入門b	1～4	2
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門a	1～4	2
		歴史学入門b	1～4	2
		日本近現代史a	1～4	2
		日本近現代史b	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史a	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史b	1～4	2
		アジア近現代史a	1～4	2
		アジア近現代史b	1～4	2
		アメリカ近現代史a	1～4	2
		アメリカ近現代史b	1～4	2
地域空間論系列	基幹	文化人類学入門a	1～4	2
		文化人類学入門b	1～4	2
		空間システム論入門a	1～4	2
		空間システム論入門b	1～4	2

［C キャリアデザイン科目群］

キャリアデザイン科目群の開設科目は**第17表**のとおりである。

第17表　キャリアデザイン科目群

授　業　科　目	配当年次	単位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第17表の注意事項〕

① 2025年度に科目が一新され、以下の科目は廃講となり、**第17表**の科目が新設された。**☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に推奨科目の卒業要件単位に算入することができる。**なお、上限には修得済の旧授業科目も含まれるため注意すること。

旧授業科目	
☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	職業選択
★プロジェクト演習	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ
★成城インターンシップ	時事英語Ⅰ・Ⅱ
業界企業分析	時事問題研究

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

② キャリアデザイン科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ キャリアデザイン科目群は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

④ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

⑤「キャリア・エクスペリエンス」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑥「キャリア・エクスペリエンス」は反復履修できるが、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。なお、2024年度以前に「成城インターンシップ」の単位を修得している場合、「キャリア・エクスペリエンス」を履修することもできるが、卒業要件単位に算入することはできない。**

［d 国際交流科目群］

国際交流科目群の開設科目は**第18表**のとおりである。

第18表　国際交流科目群

区分	授業科目	配当年次	単位
留学対策科目	Academic Skills ⅠA	1～4	1
	Academic Skills ⅠB	1～4	1
	Academic Skills ⅡA	1～4	1
	Academic Skills ⅡB	1～4	1
	Academic Skills ⅢA	1～4	1
	Academic Skills ⅢB	1～4	1
	Academic Skills ⅣA	1～4	1
	Academic Skills ⅣB	1～4	1
	Academic Skills ⅤA	2～4	1
	Academic Skills ⅤB	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies ⅠA	1～4	2
	Japan Studies ⅠB	1～4	2
	Japan Studies ⅡA	1～4	2
	Japan Studies ⅡB	1～4	2
	Japan Studies ⅢA	1～4	2
	Japan Studies ⅢB	1～4	2
	Japan Studies ⅣA	1～4	2
	Japan Studies ⅣB	1～4	2
	Japan Studies ⅤA	1～4	2
	Japan Studies ⅤB	1～4	2
	Japan Studies ⅥA	1～4	2
	Japan Studies ⅥB	1～4	2
	Japan Studies ⅦA	1～4	2
	Japan Studies ⅦB	1～4	2
	Japan Studies ⅧA	1～4	2
	Japan Studies ⅧB	1～4	2
	Japan Studies ⅨA	1～4	2
	Japan Studies ⅨB	1～4	2
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics ⅠA	1～4	2
	Special Topics ⅠB	1～4	2
	Special Topics ⅡA	1～4	2
	Special Topics ⅡB	1～4	2
	Special Topics ⅢA	1～4	2
	Special Topics ⅢB	1～4	2
	Special Topics ⅣA	1～4	2
	Special Topics ⅣB	1～4	2
	Special Topics ⅤA	1～4	2
	Special Topics ⅤB	1～4	2

区分	授業科目	配当年次	単位
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（スペイン語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（スペイン語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語（初級1）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級1）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅳ	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅠA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅠB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅢA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅢB	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣB	交換留学生等	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第18表の注意事項〕

① **「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。**

② 卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が認められている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は**履修科目登録上限単位数には算入されない。**詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 海外短期語学研修のうち、配当年次が＊印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位授与がされる科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。

⑤「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の授与を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち**卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。**

⑥「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑦ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、または外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。

⑧ 2022年度をもって、「Academic SkillsⅥA・B」は廃講となった。

⑨ 2023年度に「Special TopicsⅤA・B」が新設された。

⑩ 2023年度をもって、「Oceanian StudiesA・B」は廃講となった。修得済みの単位は推奨科目の単位として認められる。

⑪ 2024年度に「Japan StudiesⅨA・B」、「海外短期語学研修（スペイン語・春季）・（スペイン語・夏季）」が新設された。

［ e データサイエンス科目群 ］

データサイエンス科目群の開設科目は**第19表**のとおりである。

第19表　データサイエンス科目群 2022・2023年度入学者用

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
リテラシー科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2～4	2
	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2
選択科目	データアナリティクス応用	2～4	2
	機械学習応用	2～4	2
	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

第19表　データサイエンス科目群 2021年度以前入学者用

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
基礎科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
	データアナリティクス基礎	2～4	2
	データアナリティクス応用	2～4	2
発展科目	機械学習基礎	2～4	2
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
選択科目	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

〔第19表の注意事項〕

① 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

② 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。

③ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

④ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

B 一般科目

一般科目は、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」によって構成される。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、**第20表～第21表**のとおりである。

[a リテラシー科目群]

リテラシー科目群の開設科目は**第20表**のとおりである。

第20表　リテラシー科目群（外国語科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
外国語科目	英語リスニング&スピーキング（初級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（初級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）b	1～4	1
	英会話選択a	1～4	1
	英会話選択b	1～4	1
	ビジネス英語a	1～4	1
	ビジネス英語b	1～4	1
	英文多読a	1～4	1
	英文多読b	1～4	1
	独会話選択a	1～4	1
	独会話選択b	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	独語選択（中級）a	1～4	1
	独語選択（中級）b	1～4	1
	独語選択（上級）a	1～4	1
	独語選択（上級）b	1～4	1
	仏会話選択a	1～4	1
	仏会話選択b	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰb	1～4	1

分野	授業科目	配当年次	単位
外国語科目	仏語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	仏語選択（中級）a	1～4	1
	仏語選択（中級）b	1～4	1
	仏語選択（上級）a	1～4	1
	仏語選択（上級）b	1～4	1
	スペイン語選択（初級）a	1～4	1
	スペイン語選択（初級）b	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	中国語選択（中級）a	1～4	1
	中国語選択（中級）b	1～4	1
	中国語選択（上級）a	1～4	1
	中国語選択（上級）b	1～4	1
	韓国語会話選択a	1～4	1
	韓国語会話選択b	1～4	1
	韓国語選択（初級）a	1～4	1
	韓国語選択（初級）b	1～4	1
外国語科目（ディプロム・コース）	ディプロム・コース中級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）b	1～4	1

《英語到達目標》
① 「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」
　初級：TOEIC　600－700点、英検2級程度
　中級：TOEIC　700－800点、英検準1級程度
　上級：TOEIC　800－990点、英検1級程度
② 「英会話選択」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
③ 「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
④ 「英文多読」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》
① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の４～３級の合格。
② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）２級～準１級の合格。
③ 中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の３級の合格。

〔第20表の注意事項〕

① 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備　　考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	•「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	• 上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の中級2単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第１回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

② 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、**卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。**

※単位修得の例

- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**中級（独語）**b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- 「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**上級（仏語）**a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を3単位、「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

③ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。

［b 教養科目群］

教養科目群の開設科目は**第21表**のとおりである。

第21表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
総合科目		総合講座Ⅰ	1～4	2
		総合講座Ⅱ	1～4	2
		総合講座Ⅲ	1～4	2
		総合講座Ⅳ	1～4	2
		総合講座Ⅴ	1～4	2
		総合講座Ⅵ	1～4	2
		特別講座Ⅰ	1～4	2
		特別講座Ⅱ	1～4	2
成城学		成城学園を知る	1～4	2
		成城学Ⅰ	1～4	2
		成城学Ⅱ	1～4	2
		成城学Ⅲ	1～4	2
		成城学Ⅳ	1～4	2
		成城学Ⅴ	1～4	2
現代社会論系列	展開	現代社会論Ⅰa	1～4	2
		現代社会論Ⅰb	1～4	2
		現代社会論Ⅱa	1～4	2
		現代社会論Ⅱb	1～4	2
		現代社会論Ⅲa	1～4	2
		現代社会論Ⅲb	1～4	2
		現代社会論Ⅳa	1～4	2
		現代社会論Ⅳb	1～4	2
		現代社会論Ⅴa	1～4	2
		現代社会論Ⅴb	1～4	2
		現代社会論Ⅵa	1～4	2
		現代社会論Ⅵb	1～4	2
		現代社会論Ⅶa	1～4	2
		現代社会論Ⅶb	1～4	2
		現代社会論Ⅷa	1～4	2
		現代社会論Ⅷb	1～4	2
		現代社会論演習 a	1～4	2
		現代社会論演習 b	1～4	2
社会構造論系列	展開	社会構造論Ⅰa	1～4	2
		社会構造論Ⅰb	1～4	2
		社会構造論Ⅱa	1～4	2
		社会構造論Ⅱb	1～4	2
		社会構造論Ⅲa	1～4	2
		社会構造論Ⅲb	1～4	2
		社会構造論Ⅳa	1～4	2
		社会構造論Ⅳb	1～4	2
		社会構造論Ⅴa	1～4	2
		社会構造論Ⅴb	1～4	2
		社会構造論Ⅵa	1～4	2
		社会構造論Ⅵb	1～4	2
		社会構造論演習 a	1～4	2
		社会構造論演習 b	1～4	2
思想・人間論系列	展開	思想・人間論Ⅰa	1～4	2
		思想・人間論Ⅰb	1～4	2
		思想・人間論Ⅱa	1～4	2
		思想・人間論Ⅱb	1～4	2
思想・人間論系列	展開	思想・人間論Ⅲa	1～4	2
		思想・人間論Ⅲb	1～4	2
		思想・人間論演習 a	1～4	2
		思想・人間論演習 b	1～4	2
表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1～4	2
		文学入門 b	1～4	2
		言語学入門 a	1～4	2
		言語学入門 b	1～4	2
		音楽入門 a	1～4	2
		音楽入門 b	1～4	2
		表象文化論入門 a	1～4	2
		表象文化論入門 b	1～4	2
	展開	表現文化論Ⅰa	1～4	2
		表現文化論Ⅰb	1～4	2
		表現文化論Ⅱa	1～4	2
		表現文化論Ⅱb	1～4	2
		表現文化論Ⅲa	1～4	2
		表現文化論Ⅲb	1～4	2
		表現文化論Ⅳa	1～4	2
		表現文化論Ⅳb	1～4	2
		表現文化論Ⅴa	1～4	2
		表現文化論Ⅴb	1～4	2
		表現文化論Ⅵa	1～4	2
		表現文化論Ⅵb	1～4	2
		表現文化論演習 a	1～4	2
		表現文化論演習 b	1～4	2
歴史文化論系列	展開	歴史文化論Ⅰa	1～4	2
		歴史文化論Ⅰb	1～4	2
		歴史文化論Ⅱa	1～4	2
		歴史文化論Ⅱb	1～4	2
		歴史文化論Ⅲa	1～4	2
		歴史文化論Ⅲb	1～4	2
		歴史文化論Ⅳa	1～4	2
		歴史文化論Ⅳb	1～4	2
		歴史文化論Ⅴa	1～4	2
		歴史文化論Ⅴb	1～4	2
		歴史文化論演習 a	1～4	2
		歴史文化論演習 b	1～4	2
地域空間論系列	展開	地域空間論Ⅰa	1～4	2
		地域空間論Ⅰb	1～4	2
		地域空間論Ⅱa	1～4	2
		地域空間論Ⅱb	1～4	2
		地域空間論Ⅲa	1～4	2
		地域空間論Ⅲb	1～4	2
		地域空間論Ⅳa	1～4	2
		地域空間論Ⅳb	1～4	2
		地域空間論Ⅴa	1～4	2
		地域空間論Ⅴb	1～4	2
		地域空間論Ⅵa	1～4	2
		地域空間論Ⅵb	1～4	2

第21表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）（つづき）

分野		授業科目	配当年次	単位
地域空間論系列	展開	地域空間論Ⅶa	1～4	2
		地域空間論Ⅶb	1～4	2
		地域空間論Ⅷa	1～4	2
		地域空間論Ⅷb	1～4	2
		地域空間論演習 a	1～4	2
		地域空間論演習 b	1～4	2
数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1～4	2
		数理の世界 b	1～4	2
		物理の世界 a	1～4	2
		物理の世界 b	1～4	2
		化学の世界 a	1～4	2
		化学の世界 b	1～4	2
		生命科学の世界 a	1～4	2
		生命科学の世界 b	1～4	2
		科学史 a	1～4	2
		科学史 b	1～4	2
	展開	自然科学Ⅰa	1～4	2
		自然科学Ⅰb	1～4	2
		自然科学Ⅱa	1～4	2
		自然科学Ⅱb	1～4	2
		自然科学Ⅲa	1～4	2
		自然科学Ⅲb	1～4	2
		自然科学Ⅳa	1～4	2
		自然科学Ⅳb	1～4	2
		自然科学Ⅴa	1～4	2
		自然科学Ⅴb	1～4	2
		数理・自然科学演習 a	1～4	2
		数理・自然科学演習 b	1～4	2

分野		授業科目	配当年次	単位
心身論系列	基幹	こころと身体 a	1～4	2
		こころと身体 b	1～4	2
		身体と運動・スポーツ a	1～4	2
		身体と運動・スポーツ b	1～4	2
	展開	心身論Ⅰa	1～4	2
		心身論Ⅰb	1～4	2
		心身論Ⅱa	1～4	2
		心身論Ⅱb	1～4	2
		心身論Ⅲa	1～4	2
		心身論Ⅲb	1～4	2
		心身論Ⅳa	1～4	2
		心身論Ⅳb	1～4	2
		心身論Ⅴa	1～4	2
		心身論Ⅴb	1～4	2
		心身論演習 a	1～4	2
		心身論演習 b	1～4	2

〔第21表の注意事項〕

① 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

② 2021・2022年度開講の「特別講座Ⅱ」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

③ 2021年度をもって「数理科学Ⅰa」、「数理科学Ⅰb」、「数理科学Ⅱa」、「数理科学Ⅱb」は廃講となった。修得済みの単位は一般科目の単位として認められる。

［C スポーツ・ウエルネス教育科目］

スポーツ・ウエルネス教育科目は、**第22表**のとおりである。

第22表　スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース		配当年次	単位
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ		1～4	2
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中）	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー＆フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ　スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス＆コンディショニング エアロビクス＆ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ＆ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
	身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス			

〔第22表の注意事項〕

① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ **スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室、または指定された教室でガイダンスを行う。**

④ **スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。**なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。

⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。

⑥ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

⑦ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。

2 他学部開設科目

他学部開設科目は、**第23表**のとおりである。

第23表　他学部開設科目

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2～4	4	文芸
ギリシャ古典講読	2～4	4	文芸
ローマ古典入門	2～4	4	文芸
ローマ古典講読	2～4	4	文芸
古代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
古代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅲ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅳ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅴ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅵ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅶ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅷ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅸ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅹ	2～4	2	文芸
英語学概論	2～4	4	文芸
英語文学史	2～4	4	文芸
英語学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義B	3・4	2	文芸
美学・芸術学入門a	2～4	2	文芸
美学・芸術学入門b	2～4	2	文芸
美術史入門a	2～4	2	文芸
美術史入門b	2～4	2	文芸
美学一般講義a	2～4	2	文芸
美学一般講義b	2～4	2	文芸
音楽学一般講義a	2～4	2	文芸
音楽学一般講義b	2～4	2	文芸
演劇学一般講義a	2～4	2	文芸
演劇学一般講義b	2～4	2	文芸
映画学一般講義a	2～4	2	文芸
映画学一般講義b	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義a	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義b	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義a	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義b	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰb	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱb	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
日本文化史a	2～4	2	文芸
日本文化史b	2～4	2	文芸
東洋文化史a	2～4	2	文芸
東洋文化史b	2～4	2	文芸
西洋文化史a	2～4	2	文芸
西洋文化史b	2～4	2	文芸

第23表　他学部開設科目（つづき）

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
考古学a	2～4	2	文芸
考古学b	2～4	2	文芸
マスコミ原論	2～4	2	文芸
マスコミ史	2～4	2	文芸
ジャーナリズム論	2～4	2	文芸
リスクコミュニケーション論	2～4	2	文芸
社会心理学	2～4	2	文芸
広告心理学	2～4	2	文芸
マスコミ研究法	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化	2～4	4	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論講義	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義a	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義b	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義a	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義b	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論特殊講義	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義a	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義b	2～4	2	文芸
ヨーロッパ文化史	2～4	4	法
アメリカ文化史	2～4	4	法
日本文学	2～4	4	法
外国文学	2～4	4	法
エコロジー論	2～4	4	社会イノベーション
文明と社会	2～4	4	社会イノベーション
家族と社会の変動	2～4	4	社会イノベーション
短期学外演習	2～4	2	社会イノベーション

〔第23表の注意事項〕

① 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。**修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② 2021年度に「広域芸術論講義」および「広域芸術論特殊講義」が新設された。

③「マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

④ 2022年度をもって、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑤ 2023年度に「言語学特殊講義Ⅰ（独）」および「言語学特殊講義Ⅱ（仏）」が新設された。2022年度までに、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

⑥ 2024年度に「ヨーロッパの文化特殊講義a・b」が新設された。

⑦ 2023年度をもって、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑧ 2024年度に「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）・Ⅱ（仏）」が新設された。2023年度までに、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

教職関連科目は、**第24表**のとおりである。
本年度休講科目は「経済学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第24表　教職関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
日本史概説 a	2～4	2
日本史概説 b	2～4	2
人文地理学 a	2～4	2
人文地理学 b	2～4	2
地理学講義 a	2～4	2
地理学講義 b	2～4	2
地誌学 a	2～4	2
地誌学 b	2～4	2
哲学講義 a	2～4	2
哲学講義 b	2～4	2
宗教学講義 a	2～4	2
宗教学講義 b	2～4	2
倫理学講義 a	2～4	2
倫理学講義 b	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第24表の注意事項〕

① 教職関連科目は、教職課程を登録した者が「『教科に関する専門的事項』に該当する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない。**
③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 Ⅱ 教職課程科目の履修　6 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

Ⅳ 経済学科　履修系統図

凡例：基 基礎数理科目　専 専門科目　推 自由設計科目（推奨科目）

末尾文字：①末尾「Ⅱ」の科目は同一科目名の末尾「Ⅰ」の科目内容を前提とする。
②末尾文字にA～Dを持つ同一科目名の科目間には前提関係はない。
③語学の（　）内数字は年次、「a」は前期科目、「b」は後期科目を表す。

修得能力

【語学】

英語
- 英語読解（1）a・b → 英語読解（2）a・b
- 上級英語読解（1）a・b → 上級英語読解（2）a・b
- Communicative English（1）a・b → Communicative English（2）a・b
- Advanced Communicative English（1）a・b → Advanced Communicative English（2）a・b
- TOEIC a・b
- 上級 TOEIC a・b

第二外国語
- 独語（初級）a・b → 独語（中級）a・b
- 仏語（初級）a・b → 仏語（中級）a・b
- 中国語（初級）a・b → 中国語（中級）a・b

国際社会で必要とされる外国語能力。

修得能力

ゼミナール
- 専 基礎ゼミナール → 専 3年次ゼミナール → 専 4年次ゼミナール（卒業論文を含む）

コミュニケーション能力および提案・発信能力。

- 基 データ解析入門Ⅰ → 基 データ解析入門Ⅱ
- 専 統計学 / 計量経済学Ⅰ → 専 経済統計論 / 計量経済学Ⅱ

経済学の実証分析に必須なデータ処理・統計的分析能力。

- 基 数学入門Ⅰ → 基 数学入門Ⅱ
- 専 経済数学Ⅰ → 専 経済数学Ⅱ

- 専 ミクロ経済学入門・演習
- 専 マクロ経済学入門・演習
- 専 ミクロ経済学Ⅰ / マクロ経済学Ⅰ / ゲーム理論入門 → 専 ミクロ経済学Ⅱ / 専 マクロ経済学Ⅱ → 専 比較制度論A / 比較制度論B / 産業組織論Ⅰ / 数理経済学A / 数理経済学B → 専 経済変動論A / 経済変動論B / 産業組織論Ⅱ / 経済理論特別講義A / 経済理論特別講義B

経済学の理論的分析に必要な基本的概念の修得と論理的思考力。

- 専 国際貿易論Ⅰ / 国際金融論Ⅰ / 食料・資源経済論Ⅰ / 開発経済学Ⅰ / 環境経済学Ⅰ → 専 国際貿易論Ⅱ / 国際金融論Ⅱ / 食料・資源経済論Ⅱ / 開発経済学Ⅱ / 環境経済学Ⅱ
- 専 財政学Ⅰ / 公共経済学Ⅰ / 医療経済論Ⅰ / 金融論Ⅰ → 専 財政学Ⅱ / 公共経済学Ⅱ / 医療経済論Ⅱ / 金融論Ⅱ
- 専 フレッシャーズ・セミナー
- 専 日本経済論A / 日本経済論B / 市場と政府Ⅰ / 推 政治経済論入門Ⅰ / 専 応用経済学特別講義C / 応用経済学特別講義D
  - → 専 市場と政府Ⅱ / 推 政治経済論入門Ⅱ → 専 世界経済事情A / 世界経済事情B → 専 応用経済学特別講義A / 応用経済学特別講義B

現実の経済問題および経済政策に関わる分析方法の学修を通じて培われる問題発見能力、問題解決能力。

- 専 外国史概説A / 外国史概説B
- 推 日本近現代史a・b / ヨーロッパ近現代史a・b / アジア近現代史a・b / アメリカ近現代史a・b
- 専 経済史入門A / 経済史入門B / 社会経済史Ⅰ → 専 社会経済史Ⅱ → 専 西洋経済史Ⅰ / 東洋経済史Ⅰ / 日本経済史Ⅰ → 専 西洋経済史Ⅱ / 東洋経済史Ⅱ / 日本経済史Ⅱ → 専 現代経済史Ⅰ / 推 経営史Ⅰ → 専 現代経済史Ⅱ / 経済史特別講義A / 経済史特別講義B / 推 経営史Ⅱ
  - 専 独経済書講読A / 独経済書講読B / 仏経済書講読A / 仏経済書講読B / 中国経済書講読A / 中国経済書講読B

経済・社会システムの地域的、歴史的観察により養われる客観的・批判的な理解力、柔軟な課題対応能力。

- 専 社会問題入門 / 社会科学入門
- 推 社会学入門a・b / 政治学入門a・b / 西洋思想入門a・b / 歴史学入門a・b / 文化人類学入門a・b
- 専 経済学史Ⅰ / 英経済書講読Ⅰ → 専 経済学史Ⅱ / 英経済書講読Ⅱ
  - → 専 経済思想史Ⅰ → 専 経済思想史Ⅱ
- 専 社会思想史Ⅰ → 専 社会思想史Ⅱ
- 専 社会政策Ⅰ / 社会デザイン論Ⅰ → 専 社会政策Ⅱ / 社会デザイン論Ⅱ
  - → 専 社会保障論Ⅰ / 社会キャリア論A / 社会キャリア論B / 経済地理学Ⅰ / 国際関係論Ⅰ / 推 社会保障法 / 労働基準法
    - 専 社会保障論Ⅰ → 専 社会保障論Ⅱ
    - 専 経済地理学Ⅰ / 国際関係論Ⅰ → 専 経済地理学Ⅱ / 国際関係論Ⅱ
    - → 専 社会問題特別講義A / 社会問題特別講義B

社会（労働と生活）の諸問題に対する思想や政策の歴史的展開と現状の修学により培われる経済的・政治的・倫理的政策提言力。

その他　自由設計科目（別表【自由設計科目一覧】参照）

課題発見・探求に必要な幅広い知識および方法の修得。

【自由設計科目一覧】

注意：「政治経済論入門」及び「専門選択関連科目」以外の科目の末尾ローマ数字（Ⅰ、Ⅱなど）は前提関係を示さない。

推奨科目

専門選択関連科目

会計学総論Ⅰ・Ⅱ	経営学特殊講義A～F	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	ベンチャービジネス論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング・サイエンス	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	デジタル・マーケティング	中小企業論Ⅰ・Ⅱ
企業会計論Ⅰ・Ⅱ	財務会計論Ⅰ・Ⅱ	経営統計学Ⅰ・Ⅱ	経営英書講読Ⅰ・Ⅱ	商品開発論Ⅰ・Ⅱ	公企業論Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	貿易論Ⅰ・Ⅱ
経営管理論Ⅰ・Ⅱ	原価計算論Ⅰ・Ⅱ	経営戦略論Ⅰ・Ⅱ	証券市場論Ⅰ・Ⅱ	サービス・マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	交通論Ⅰ・Ⅱ	税務会計論Ⅰ・Ⅱ	リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ
経営史Ⅰ・Ⅱ	財務管理論Ⅰ・Ⅱ	経営組織論Ⅰ・Ⅱ	経営情報論Ⅰ・Ⅱ	生産管理論Ⅰ・Ⅱ	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	会計監査論Ⅰ・Ⅱ	金融システム論Ⅰ・Ⅱ
プログラミングと機械学習Ⅰ・Ⅱ	ビジネスライティングⅠ・Ⅱ	人的資源論Ⅰ・Ⅱ	消費者行動論	企業論Ⅰ・Ⅱ	流通論	財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ	

法学関連科目

民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	国際経済法
商法概論	行政法Ⅰ	国際取引法	金融商品取引法	公務員法・行政組織法
憲法	行政学	環境法	商取引法	消費者法Ⅰ・Ⅱ
会社法Ⅰ・Ⅱ	労働基準法	社会保障法	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法

教養科目

政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC（特級）Ⅰa・b	中国語（特級）a・b	TOEFL a・b	数学Ⅰa・b	現代社会とスポーツ
外国文化Ⅰa・b～Ⅳa・b	TOEIC（特級）Ⅱa・b	EAP（English for Academic Purposes）a・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論

全学共通教育科目

リテラシー科目群

WRD	コンピュータ・リテラシー	図書館活用法

教養科目群

社会学入門a・b	経済学入門a・b	法学（含む日本国憲法）a・b	倫理学入門a・b	日本思想入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b	文化人類学入門a・b
メディア論入門a・b	政治学入門a・b	哲学入門a・b	西洋思想入門a・b	歴史学入門a・b	アジア近現代史a・b	空間システム論入門a・b
国際関係論入門a・b	情報社会論入門a・b	宗教学入門a・b	東洋思想入門a・b	日本近現代史a・b	アメリカ近現代史a・b	

キャリアデザイン科目群

キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	キャリア・エクスペリエンス	ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ
キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ	ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ	

国際交流科目群

Academic Skills Ⅰ～Ⅵ	North American Studies	Japan StudiesⅠA・B～ⅨA・B	海外短期語学研修	
European Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠA・B～ⅤA・B	海外短期研修	

データサイエンス科目群

データサイエンス概論	データサイエンス基礎	データアナリティクス基礎	機械学習基礎	データサイエンス・アドバンスド・プログラム		データサイエンス・ワークフロー・プログラム
データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ		データアナリティクス応用	機械学習応用	数理科学基礎a・b		数理科学応用a・b

一般科目

全学共通教育科目

リテラシー科目群

英語リスニング＆スピーキング	英会話選択	英文多読	独語選択	仏語選択	中国語選択	韓国語選択
英語リーディング＆ライティング	ビジネス英語	独会話選択	仏会話選択	スペイン語選択	韓国語会話選択	ディプロム・コース（独語、仏語、スペイン語、韓国語）

総合科目

総合講座Ⅰ～Ⅵ	特別講座Ⅰ・Ⅱ

成城学

成城学園を知る	成城学Ⅰ～Ⅴ

系列科目

現代社会論Ⅰa・b～Ⅷa・b	思想・人間論Ⅰa・b～Ⅲa・b	音楽入門a・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	数理の世界a・b	科学史a・b	身体と運動・スポーツa・b
現代社会論演習a・b	思想・人間論演習a・b	表象文化論入門a・b	歴史文化論演習a・b	物理の世界a・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b
社会構造論Ⅰa・b～Ⅵa・b	文学入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅵa・b	地域空間論Ⅰa・b～Ⅷa・b	化学の世界a・b	数理・自然科学演習a・b	心身論演習a・b
社会構造論演習a・b	言語学入門a・b	表現文化論演習a・b	地域空間論演習a・b	生命科学の世界a・b	こころと身体a・b	

スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス＆コンディショニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	レクリエーション・スポーツ
ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス＆ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	フットサル	サイクル・スポーツ
身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー＆フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ヨガ＆ピラティス	スキー
アクアエクササイズ	剣道（古武道）	水泳	テニス	バレーボール	ラグビー	

他学部開設科目

ギリシャ古典入門	国語学講義Ⅰ・Ⅱ	美学・芸術学入門a・b	美学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	考古学a・b	マスコミ特殊講義Ⅰ～Ⅵ	西洋古典特殊講義a・b	哲学史特殊講義a・b
ギリシャ古典講読	国語国文学講義Ⅰ～Ⅹ	美術史入門a・b	芸術学特殊講義Ⅰ～Ⅴ	マスコミ原論	ヨーロッパの文化	言語学特殊講義Ⅰ（独）	ヨーロッパ文化史
ローマ古典入門	英語学概論	美学一般講義a・b	美術史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	リスクコミュニケーション論	ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	言語学特殊講義Ⅱ（仏）	アメリカ文化史
ローマ古典講読	英語文学史	音楽学一般講義a・b	文化史特殊講義Ⅰa・b～Ⅳa・b	マスコミ史	ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	日本文学
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	演劇学一般講義a・b	歴史学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	ジャーナリズム論	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	外国文学
中古国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	映画学一般講義a・b	民俗学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	社会心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	エコロジー論
中世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義A	日本美術史一般講義a・b	文化人類学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	広告心理学	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	文明と社会
近世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義B	東洋美術史一般講義a・b	日本文化史a・b	マスコミ研究法	ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	家族と社会の変動
近代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	西洋美術史一般講義Ⅰa・b	東洋文化史a・b	マスコミ講義Ⅰ～Ⅸ	広域芸術論講義	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	短期学外演習
漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義B	西洋美術史一般講義Ⅱa・b	西洋文化史a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅸ	ヨーロッパの文化特殊講義a・b	広域芸術論特殊講義	

履修規定

経営学科
［2023年度以前入学者用］

Ⅰ 総説 …… 132
A．開設科目および卒業要件単位数 …… 132
B．履修単位制限 …… 133
C．２年次から３年次への進級基準 …… 133

Ⅱ 経営学科授業科目一覧表 …… 134

Ⅲ —1　分野別履修方法（基礎科目） …… 140
A．語　　学 …… 140
B．初年次教育科目 …… 141

Ⅲ —2　分野別履修方法（専門科目） …… 141
A．ゼミナール …… 142
B．専門基礎科目 …… 142
C．専門選択科目 …… 143

Ⅲ —3　分野別履修方法（自由設計科目） …… 144
A．専門関連科目 …… 145
B．教 養 科 目 …… 146

Ⅲ —4　分野別履修方法（教職関連科目） …… 158

Ⅳ 経営学科　履修系統図 …… 160

Ⅰ 総　説

A 開設科目および卒業要件単位数

1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から第1表に示す規定単位数を修得しなければならない。

3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第１表　経営学科　開設科目および卒業要件単位数

分野	区分			規定単位数
基礎科目	語学	英語		8
		第二外国語		6
	初年次教育科目	ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ		8
		データ分析Ⅰ・Ⅱ		
専門科目	ゼミナール			12
	専門基礎科目			8 (注1)
	専門選択科目			44 (注2)
自由設計科目	専門関連科目	経済学関連科目		20
		法学関連科目		
	教養科目	経済学部開設・教養科目		18
		全学共通教育科目	リテラシー科目群	
			教養科目群	
			キャリアデザイン科目群(注3)	
			国際交流科目群(注4)	
			データサイエンス科目群	
			スポーツ・ウエルネス教育科目(注5)	
		他学部開設科目(注6)		
教職関連科目(注7)				—
合計				124

〔第１表の注意事項〕

（注１）**専門基礎科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**教養科目**に充当することができる。

（注２）**専門選択科目**の規定単位数を超えて修得した単位は、**専門関連科目**に充当することができる。

（注３）**キャリアデザイン科目群**には、卒業要件単位に算入されない科目がある。履修規定を参照すること。

（注４）**国際交流科目群**のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。

（注５）**スポーツ・ウエルネス教育科目**は、**4単位**まで卒業要件単位として認められる。

（注６）**他学部開設科目**は、**8単位**まで卒業要件単位として認められる。

（注７）教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められない。

B 履修単位制限

1 履修単位制限

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。
1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

① 各年次において履修することのできる単位数の上限を、**48単位**とする。
※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を２単位分履修登録してある。

② 授業期間外（春季休業期間中または夏季休業期間中）に実施される授業科目の単位は、「履修科目登録上限単位数」に算入されない。
※今年度対象：国際交流科目群「海外短期語学研修」区分およびスポーツ・ウエルネス実技科目群「集中コース」に含まれる授業科目

③ キャリアデザイン科目群、国際交流科目群のうち、卒業要件として認められない科目は、前年度（1年次生は前期）のGPAが2.8以上の成績優秀者と認められた場合、特例措置として、各年次において①の単位数を4単位まで超えて履修することが認められる場合がある。
なお、本特例措置の適用を受けた者については、学科より期中および成績確定後に学習指導の場が設けられる。
※教職課程における特例措置概要については、該当ページを参照すること。
※本措置と、教職課程における特例措置の双方の適用を受けた場合、超過可能単位数は積算できない。

C ２年次から３年次への進級基準

２年次から３年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、２年次終了までに**第２表**に示す所定の単位を修得していなければならない。

第２表　進級基準

分野	区分		単位数
基礎科目	語学	英語	10
		第二外国語	
	初年次教育科目	ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ	4
		データ分析Ⅰ・Ⅱ	4
専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナール（注1）	4
	専門基礎科目		8
	専門選択科目		8
自由設計科目	教養科目		10
計			48

（注2）

〔第２表の注意事項〕

（注1）「2年次ゼミナール」は2025年度から「基礎ゼミナール」（2単位）に変更された。進級基準を満たすためには、「基礎ゼミナール」4単位分を修得しなければならない（ただし、2024年度以前に「2年次ゼミナール」（4単位）を修得済みの場合は除く）。

（注2）**専門基礎科目**の所定の単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な**教養科目**の単位数（10単位）に充当することができる。

Ⅱ 経営学科授業科目一覧表

第3表

分野・区分			配当年次 1年	配当年次 2年
基礎科目	語学	英語	英語読解（1）a① 英語読解（1）b① 上級英語読解（1）a① 上級英語読解（1）b① [1～4年] 英語読解（再）①	英語読解（2）a① 英語読解（2）b① 上級英語読解（2）a① 上級英語読解（2）b①
			Communicative English（1）a① Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）b① [1～4年] Communicative English（再）①	Communicative English（2）a① Communicative English（2）b① Advanced Communicative English（2）a① Advanced Communicative English（2）b①
				TOEIC a①　TOEIC b① 上級TOEIC a①　上級TOEIC b① [2～4年] TOEIC（再）①
		第二外国語	独語（初級）a② 独語（初級）b②	独語（中級）a① 独語（中級）b①
			仏語（初級）a② 仏語（初級）b②	仏語（中級）a① 仏語（中級）b①
			中国語（初級）a② 中国語（初級）b②	中国語（中級）a① 中国語（中級）b①
	初年次教育科目		ビジネス概論Ⅰ②　データ分析Ⅰ② ビジネス概論Ⅱ②　データ分析Ⅱ②	
専門科目	ゼミナール			基礎ゼミナール②
	専門基礎科目		経営学総論Ⅰ②　商学総論Ⅰ② 経営学総論Ⅱ②　商学総論Ⅱ② 会計学総論Ⅰ②　経済学Ⅰ② 会計学総論Ⅱ②　経済学Ⅱ②	
	専門選択科目			[2～4年] 企業会計論Ⅰ②　財務会計論Ⅱ② 企業会計論Ⅱ②　原価計算論④ 経営管理論Ⅰ②　財務管理論Ⅰ② 経営管理論Ⅱ②　財務管理論Ⅱ② 経営史Ⅰ②　ビジネスライティングⅠ② 経営史Ⅱ②　ビジネスライティングⅡ② マーケティング論Ⅰ②　経営英書講読Ⅰ② マーケティング論Ⅱ②　経営英書講読Ⅱ② 経営統計学Ⅰ②　証券市場論Ⅰ② 経営統計学Ⅱ②　証券市場論Ⅱ② 経営数学Ⅰ②　経営戦略論Ⅰ② 経営数学Ⅱ②　経営戦略論Ⅱ② 財務会計論Ⅰ②　経営組織論Ⅰ②
自由設計科目	専門関連科目	経済学関連科目	[1～4年] 外国史概説 A② 外国史概説 B② 社会問題基礎② 社会科学基礎②	[2～4年] ミクロ経済学Ⅰ②　数理経済学A② ミクロ経済学Ⅱ②　数理経済学B② マクロ経済学Ⅰ②　経済変動論A② マクロ経済学Ⅱ②　経済変動論B② ゲーム理論入門②　経済統計論④ 統計学④　計量経済学Ⅰ② 経済学史Ⅰ②　計量経済学Ⅱ② 経済学史Ⅱ②　産業組織論Ⅰ② 市場と政府Ⅰ②　産業組織論Ⅱ② 市場と政府Ⅱ②　経済思想史Ⅰ② 経済史入門A②　経済思想史Ⅱ② 経済史入門B②　金融論Ⅰ② 社会経済史Ⅰ②　金融論Ⅱ② 社会経済史Ⅱ②　国際金融論Ⅰ② 社会政策Ⅰ②　国際金融論Ⅱ② 社会政策Ⅱ②　財政学Ⅰ②
		法学関連科目		[2～4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④

注1）丸で囲まれた数字は単位数を表す。
注2）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

３　年	４　年	卒業要件単位数
		4
		4
		6
		8
３年次ゼミナール④	４年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		8

経営組織論Ⅱ② 人的資源論Ⅰ② 人的資源論Ⅱ② ベンチャービジネス論Ⅰ② ベンチャービジネス論Ⅱ② 生産管理論Ⅰ② 生産管理論Ⅱ② 企業論Ⅰ② 企業論Ⅱ② 経営情報論Ⅰ② 経営情報論Ⅱ② 消費者行動論② マーケティング・サイエンス②	商品開発論Ⅰ② 商品開発論Ⅱ② サービス・マーケティング論Ⅰ② サービス・マーケティング論Ⅱ② ツーリズム・マーケティング論Ⅰ② ツーリズム・マーケティング論Ⅱ② 流通論② デジタル・マーケティング② 管理会計論④ 税務会計論Ⅰ② 税務会計論Ⅱ② 国際経営論Ⅰ② 国際経営論Ⅱ②	公企業論Ⅰ② 公企業論Ⅱ② 交通論Ⅰ② 交通論Ⅱ② 貿易論Ⅰ② 貿易論Ⅱ② リスクマネジメント論Ⅰ② リスクマネジメント論Ⅱ② 金融システム論Ⅰ② 金融システム論Ⅱ② 会計監査論Ⅰ② 会計監査論Ⅱ② 財務諸表分析Ⅰ②	財務諸表分析Ⅱ② 中小企業論Ⅰ② 中小企業論Ⅱ② プログラミングと機械学習Ⅰ② プログラミングと機械学習Ⅱ② 経営学特殊講義Ａ② 経営学特殊講義Ｂ② 経営学特殊講義Ｃ② 経営学特殊講義Ｄ② 経営学特殊講義Ｅ② 経営学特殊講義Ｆ②	44
財政学Ⅱ② 公共経済学Ⅰ② 公共経済学Ⅱ② 医療経済論Ⅰ② 医療経済論Ⅱ② 国際貿易論Ⅰ② 国際貿易論Ⅱ② 開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 食料・資源経済論Ⅰ② 食料・資源経済論Ⅱ② 環境経済学Ⅰ② 環境経済学Ⅱ② 日本経済史Ⅰ② 日本経済史Ⅱ② 西洋経済史Ⅰ②	西洋経済史Ⅱ② 東洋経済史Ⅰ② 東洋経済史Ⅱ② 現代経済史Ⅰ② 現代経済史Ⅱ② 社会思想史Ⅰ② 社会思想史Ⅱ② 社会保障論Ⅰ② 社会保障論Ⅱ② 社会キャリア論A② 社会キャリア論B② 社会デザイン論Ⅰ② 社会デザイン論Ⅱ② 日本経済論A② 日本経済論B② 世界経済事情A②	世界経済事情B② 国際関係論Ⅰ② 国際関係論Ⅱ② 経済地理学Ⅰ② 経済地理学Ⅱ② 英経済書講読Ⅰ② 英経済書講読Ⅱ② 独経済書講読A② 独経済書講読B② 仏経済書講読A② 仏経済書講読B② 中国経済書講読A② 中国経済書講読B② 応用経済学特別講義C② 応用経済学特別講義D②	**[3・4年]** 比較制度論A② 比較制度論B② 経済理論特別講義A② 経済理論特別講義B② 応用経済学特別講義A② 応用経済学特別講義B② 経済史特別講義A② 経済史特別講義B② 社会問題特別講義A② 社会問題特別講義B②	20
[3・4年] 会社法Ⅰ② 会社法Ⅱ② 国際法Ⅰ④ 国際法Ⅱ④ 行政法Ⅰ④ 行政学④	労働基準法④ 労働組合法④ 国際取引法④ 環境法② 社会保障法④ 税法Ⅰ②	税法Ⅱ② 金融商品取引法② 商取引法② 経済法Ⅰ② 経済法Ⅱ② 国際経済法④	公務員法・行政組織法② 消費者法Ⅰ② 消費者法Ⅱ② 知的財産法④	

第３表　Ⅱ. 経営学科授業科目一覧表（つづき①）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年		2　年
自由設計科目	教養科目	経済学部開設・教養科目	[1～4年]		
			外国文化Ⅰa②	外国文化Ⅲb②	数学Ⅰa②
			外国文化Ⅰb②	外国文化Ⅳa②	数学Ⅰb②
			外国文化Ⅱa②	外国文化Ⅳb②	数学Ⅱa②
			外国文化Ⅱb②	心理学a②	数学Ⅱb②
			外国文化Ⅲa②	心理学b②	現代社会とスポーツ②
		全学共通教育科目	[1～4年]		
			WRD④		
			英語リスニング＆スピーキング（初級）a①	英語リーディング＆ライティング（上級）b①	独語選択（初級）Ⅱa①
			英語リスニング＆スピーキング（初級）b①	英会話選択a①	独語選択（初級）Ⅱb①
			英語リスニング＆スピーキング（中級）a①	英会話選択b①	独語選択（中級）a①
			英語リスニング＆スピーキング（中級）b①	ビジネス英語a①	独語選択（中級）b①
			英語リスニング＆スピーキング（上級）a①	ビジネス英語b①	独語選択（上級）a①
			英語リスニング＆スピーキング（上級）b①	英文多読a①	独語選択（上級）b①
			英語リーディング＆ライティング（初級）a①	英文多読b①	仏会話選択a①
			英語リーディング＆ライティング（初級）b①	独会話選択a①	仏会話選択b①
			英語リーディング＆ライティング（中級）a①	独会話選択b①	仏語選択（初級）Ⅰa①
			英語リーディング＆ライティング（中級）b①	独語選択（初級）Ⅰa①	仏語選択（初級）Ⅰb①
			英語リーディング＆ライティング（上級）a①	独語選択（初級）Ⅰb①	仏語選択（初級）Ⅱa①
			コンピュータ・リテラシーＡ１②	コンピュータ・リテラシーＢ②	コンピュータ・リテラシーＤ②
			コンピュータ・リテラシーＡ２②	コンピュータ・リテラシーＣ②	コンピュータ・リテラシーＥ②
			総合講座Ⅰ②		総合講座Ⅲ②
			総合講座Ⅱ②		総合講座Ⅳ②
			成城学園を知る②	成城学Ⅱ②	成城学Ⅳ②
			成城学Ⅰ②	成城学Ⅲ②	成城学Ⅴ②
			社会学入門a②	情報社会論入門b②	思想・人間論Ⅰa②
			社会学入門b②	法学（含む日本国憲法）a②	思想・人間論Ⅰb②
			メディア論入門a②	法学（含む日本国憲法）b②	思想・人間論Ⅱa②
			メディア論入門b②	社会構造論Ⅰa②	思想・人間論Ⅱb②
			現代社会論Ⅰa②	社会構造論Ⅰb②	思想・人間論Ⅲa②
			現代社会論Ⅰb②	社会構造論Ⅱa②	思想・人間論Ⅲb②
			現代社会論Ⅱa②	社会構造論Ⅱb②	思想・人間論演習a②
			現代社会論Ⅱb②	社会構造論Ⅲa②	思想・人間論演習b②
			現代社会論Ⅲa②	社会構造論Ⅲb②	文学入門a②
			現代社会論Ⅲb②	社会構造論Ⅳa②	文学入門b②
			現代社会論Ⅳa②	社会構造論Ⅳb②	言語学入門a②
			現代社会論Ⅳb②	社会構造論Ⅴa②	言語学入門b②
			現代社会論Ⅴa②	社会構造論Ⅴb②	音楽入門a②
			現代社会論Ⅴb②	社会構造論Ⅵa②	音楽入門b②
			現代社会論Ⅵa②	社会構造論Ⅵb②	表象文化論入門a②
			現代社会論Ⅵb②	社会構造論演習a②	表象文化論入門b②
			現代社会論Ⅶa②	社会構造論演習b②	表現文化論Ⅰa②
			現代社会論Ⅶb②	哲学入門a②	表現文化論Ⅰb②
			現代社会論Ⅷa②	哲学入門b②	表現文化論Ⅱa②
			現代社会論Ⅷb②	宗教学入門a②	表現文化論Ⅱb②
			現代社会論演習a②	宗教学入門b②	表現文化論Ⅲa②
			現代社会論演習b②	倫理学入門a②	表現文化論Ⅲb②
			国際関係論入門a②	倫理学入門b②	表現文化論Ⅳa②
			国際関係論入門b②	西洋思想入門a②	表現文化論Ⅳb②
			経済学入門a②	西洋思想入門b②	表現文化論Ⅴa②
			経済学入門b②	東洋思想入門a②	表現文化論Ⅴb②
			政治学入門a②	東洋思想入門b②	表現文化論Ⅵa②
			政治学入門b②	日本思想入門a②	表現文化論Ⅵb②
			情報社会論入門a②	日本思想入門b②	表現文化論演習a②
			キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目、スポーツ・ウエルネス教育科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、		

注１）○で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年			卒業要件単位数
スポーツ産業論② TOEIC（特級）Ⅰa① TOEIC（特級）Ⅰb① TOEIC（特級）Ⅱa① TOEIC（特級）Ⅱb①	EAP（English for Academic Purposes）a① EAP（English for Academic Purposes）b① TOEFL a① TOEFL b① 中国語（特級）a①	中国語（特級）b① 政治経済論入門Ⅰ② 政治経済論入門Ⅱ②	
仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb①	中国語選択（中級）a① 中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択ａ① 韓国語会話選択ｂ① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a①	ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b①	
図書館活用法②			
総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ②		特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ②	
表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史 a② アメリカ近現代史 b② 歴史文化論Ⅰa② 歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa② 歴史文化論Ⅱb② 歴史文化論Ⅲa② 歴史文化論Ⅲb② 歴史文化論Ⅳa② 歴史文化論Ⅳb② 歴史文化論Ⅴa② 歴史文化論Ⅴb② 歴史文化論演習 a② 歴史文化論演習 b② 文化人類学入門 a② 文化人類学入門 b② 空間システム論入門 a② 空間システム論入門 b② 地域空間論Ⅰa② 地域空間論Ⅰb②	地域空間論Ⅱa② 地域空間論Ⅱb② 地域空間論Ⅲa② 地域空間論Ⅲb② 地域空間論Ⅳa② 地域空間論Ⅳb② 地域空間論Ⅴa② 地域空間論Ⅴb② 地域空間論Ⅵa② 地域空間論Ⅵb② 地域空間論Ⅶa② 地域空間論Ⅶb② 地域空間論Ⅷa② 地域空間論Ⅷb② 地域空間論演習 a② 地域空間論演習 b② 数理の世界 a② 数理の世界 b② 物理の世界 a② 物理の世界 b② 化学の世界 a② 化学の世界 b② 生命科学の世界 a② 生命科学の世界 b② 科学史 a② 科学史 b② 自然科学Ⅰa② 自然科学Ⅰb② 自然科学Ⅱa②	自然科学Ⅱb② 自然科学Ⅲa② 自然科学Ⅲb② 自然科学Ⅳa② 自然科学Ⅳb② 自然科学Ⅴa② 自然科学Ⅴb② 数理・自然科学演習 a② 数理・自然科学演習 b② こころと身体 a② こころと身体 b② 身体と運動・スポーツ a② 身体と運動・スポーツ b② 心身論Ⅰa② 心身論Ⅰb② 心身論Ⅱa② 心身論Ⅱb② 心身論Ⅲa② 心身論Ⅲb② 心身論Ⅳa② 心身論Ⅳb② 心身論Ⅴa② 心身論Ⅴb② 心身論演習 a② 心身論演習 b②	18
データサイエンス科目、スポーツ・ウエルネス教育科目は Ⅲ－３　分野別履修方法（自由設計科目）Ⓑ教養科目 2 全学共通教育科目を参照】			

第３表　Ⅱ. 経営学科授業科目一覧表（つづき②）

分野・区分 ＼ 配当年次			1　年	2　年
自由設計科目	教養科目	他学部開設科目		[2～4年] ギリシャ古典入門④ ギリシャ古典講読④ ローマ古典入門④ ローマ古典講読④ 古代国文学講義Ⅰ② 古代国文学講義Ⅱ② 中古国文学講義Ⅰ② 中古国文学講義Ⅱ② 中世国文学講義Ⅰ② 中世国文学講義Ⅱ② 近世国文学講義Ⅰ② 近世国文学講義Ⅱ② 近代国文学講義Ⅰ② 近代国文学講義Ⅱ② 漢文学講義Ⅰ② 漢文学講義Ⅱ② 国語学講義Ⅰ② 国語学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅰ② 国語国文学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅲ② 国語国文学講義Ⅳ② 国語国文学講義Ⅴ② 国語国文学講義Ⅵ② 国語国文学講義Ⅶ② 国語国文学講義Ⅷ② 国語国文学講義Ⅸ② 国語国文学講義Ⅹ② 英語学概論④ 英語文学史④ 美学・芸術学入門ａ② 美学・芸術学入門ｂ② 美術史入門ａ② 美術史入門ｂ② 美学一般講義ａ② 美学一般講義ｂ② 音楽学一般講義ａ② 音楽学一般講義ｂ② 演劇学一般講義ａ② 演劇学一般講義ｂ② 映画学一般講義ａ② 映画学一般講義ｂ② 日本美術史一般講義ａ② 日本美術史一般講義ｂ② 東洋美術史一般講義ａ② 東洋美術史一般講義ｂ② 西洋美術史一般講義Ⅰａ② 西洋美術史一般講義Ⅰｂ② 西洋美術史一般講義Ⅱａ② 西洋美術史一般講義Ⅱｂ② 美学特殊講義Ⅰ② 美学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅰ② 芸術学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅲ② 芸術学特殊講義Ⅳ② 芸術学特殊講義Ⅴ② 美術史特殊講義Ⅰ② 美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅰａ② 文化史特殊講義Ⅰｂ②
教職関連科目			【教職関連科目は、Ⅲ－４　分野別履修方法（教職関連科目）を参照】	

注１）○で囲まれた数字は単位数を表す。
注２）本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

3、4年	卒業要件単位数
文化史特殊講義Ⅱａ② 文化史特殊講義Ⅱｂ② 文化史特殊講義Ⅲａ② 文化史特殊講義Ⅲｂ② 文化史特殊講義Ⅳａ② 文化史特殊講義Ⅳｂ② 歴史学特殊講義Ⅰａ② 歴史学特殊講義Ⅰｂ② 歴史学特殊講義Ⅱａ② 歴史学特殊講義Ⅱｂ② 歴史学特殊講義Ⅲａ② 歴史学特殊講義Ⅲｂ② 民俗学特殊講義Ⅰａ② 民俗学特殊講義Ⅰｂ② 民俗学特殊講義Ⅱａ② 民俗学特殊講義Ⅱｂ② 民俗学特殊講義Ⅲａ② 民俗学特殊講義Ⅲｂ② 文化人類学特殊講義Ⅰａ② 文化人類学特殊講義Ⅰｂ② 文化人類学特殊講義Ⅱａ② 文化人類学特殊講義Ⅱｂ② 文化人類学特殊講義Ⅲａ② 文化人類学特殊講義Ⅲｂ② 日本文化史ａ② 日本文化史ｂ② 東洋文化史ａ② 東洋文化史ｂ② 西洋文化史ａ② 西洋文化史ｂ② 考古学ａ② 考古学ｂ② マスコミ原論② マスコミ史② ジャーナリズム論② リスクコミュニケーション論② 社会心理学② 広告心理学② マスコミ研究法② マスコミ講義Ⅰ② マスコミ講義Ⅱ② マスコミ講義Ⅲ② マスコミ講義Ⅳ② マスコミ講義Ⅴ② マスコミ講義Ⅵ② マスコミ講義Ⅶ② マスコミ講義Ⅷ② マスコミ講義Ⅸ② コミュニケーション講義Ⅰ② コミュニケーション講義Ⅱ② コミュニケーション講義Ⅲ② コミュニケーション講義Ⅳ② コミュニケーション講義Ⅴ② コミュニケーション講義Ⅵ② コミュニケーション講義Ⅶ② コミュニケーション講義Ⅷ② コミュニケーション講義Ⅸ② マスコミ特殊講義Ⅰ② マスコミ特殊講義Ⅱ② マスコミ特殊講義Ⅲ② マスコミ特殊講義Ⅳ② マスコミ特殊講義Ⅴ② マスコミ特殊講義Ⅵ② ヨーロッパの文化④ ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)② 広域芸術論講義② ヨーロッパの文化特殊講義ａ② ヨーロッパの文化特殊講義ｂ② 西洋古典特殊講義ａ② 西洋古典特殊講義ｂ② 言語学特殊講義Ⅰ(独)② 言語学特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)② 広域芸術論特殊講義② 哲学史特殊講義ａ② 哲学史特殊講義ｂ② ヨーロッパ文化史④ アメリカ文化史④ 日本文学④ 外国文学④ エコロジー論④ 文明と社会④ 家族と社会の変動④ 短期学外演習② **[3・4年]** 英語学特殊講義Ａ② 英語学特殊講義Ｂ② 英語文学特殊講義Ａ② 英語文学特殊講義Ｂ② 英語文化特殊講義Ａ② 英語文化特殊講義Ｂ②	18
	－
合　　計	124

Ⅲ−1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経営学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と初年次教育科目から構成される。

A 語　学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業に必要な語学の単位数は**第４表**のとおりである。

第４表　卒業に必要な語学の規定単位数

		1年次 前期	1年次 後期	計
英　語		英語読解（1）a① 上級英語読解（1）a① （いずれか1科目） Communicative English（1）a① Advanced Communicative English（1）a① （いずれか1科目）	英語読解（1）b① 上級英語読解（1）b① （いずれか1科目） Communicative English（1）b① Advanced Communicative English（1）b① （いずれか1科目）	4
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（初級）a②	（初級）b②	4
計		4	4	8

		2年次 前期	2年次 後期	計
英　語		英語読解（2）a① 上級英語読解（2）a① （いずれか1科目）	英語読解（2）b① 上級英語読解（2）b① （いずれか1科目）	4
		コース別：TOEIC a ① 上級 TOEIC a ① Communicative English（2）a ① Advanced Communicative English（2）a ① （いずれか1科目）	コース別：TOEIC b ① 上級 TOEIC b ① Communicative English（2）b ① Advanced Communicative English（2）b ① （いずれか1科目）	
第二外国語	独　語 仏　語 中国語	（中級）a①	（中級）b ①	2
計		3	3	6

計	14

1 「英　　語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解、もう1つはネイティヴの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。
2年次では週2回の授業を、1つは読解、もう1つはTOEIC準備コース／ Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。
※ コース選択の方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。
また、2023年度をもって「基礎英語読解」「Basic Communicative English」「基礎TOEIC」の（1）ab（2）ab科目は廃講となった。修得済みの単位は、同区分で修得したものとして認められる。

2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

3 履修上の注意

① 英語は下表のとおり履修するクラスが指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と7月下旬〜8月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と1月下旬〜2月上旬実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラス（各レベル）を履修する

英語の科目はいずれも教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをLiveCampusUの履修登録画面で確認すること。なお、1年次後期の英語科目は、4月時点では履修するクラスが未定のため担当教員名は「教務部」となっている。実際に受講する各授業科目への登録変更は、前期成績確定後に教務部が行うので、1年次後期英語科目のクラスや担当教員については、後期開講前に確認すること。

② 英語の再履修

配当年次や学期、授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、**再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。**

※ 登録方法については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

例）1年次前期に、「Advanced Communicative English（a）」を履修し不合格だった場合、1年次後期以降、「Communicative English（再）」を履修する。

③ 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再　履　修　の　方　法	
	前期科目（a）が不合格の場合	後期科目（b）が不合格の場合
初　　級	（初級）a〈再履修〉を履修すること	（初級）b〈再履修〉を履修すること
中　　級	２年次向けの（中級）aのうち、いずれかのクラスを再履修すること。	２年次向けの（中級）bのうち、いずれかのクラスを再履修すること。

※初級については、前期に不合格になった科目を、後期に再履修することができるが、定員が設けられているため、後期にも抽選登録が必要となる。

B　初年次教育科目

1　初年次教育科目

初年次教育科目の開設科目は、**第５表**のとおりである。
初年次教育科目は、経営学科の専門領域にわたって共通に必要とされる基礎的知識・スキルを習得することを目的とした科目である。

第５表　初年次教育科目

授　業　科　目	配当年次	単位
ビジネス概論Ⅰ	1	2
ビジネス概論Ⅱ	1	2
データ分析Ⅰ	1	2
データ分析Ⅱ	1	2

2　履修上の注意

①「データ分析Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講されるが、1年次は教務部がクラスを指定し、事前登録を行う。不合格の場合は、自身で再履修者用クラスを履修すること。
②「ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ」は教務部が事前登録を行う。

Ⅲ-2　分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「基礎ゼミナール」、「３年次ゼミナール」および「４年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎科目、専門選択科目である。各分野の規定単位数は**第６表**に、またそれぞれの開設科目、配当年次は**第７表～第９表**のとおりである。

第６表　専門科目規定単位数

分野	区　　分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	12
	専門基礎科目	8
	専門選択科目	44
計		64

A ゼミナール

1 ゼミナール および卒業論文

２、３、４年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、３年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の修得と、主体的・自立的な人間性の向上を目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第７表　ゼミナール

授　業　科　目	配当年次	単位
基礎ゼミナール	2	2
３年次ゼミナール	3	4
４年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

2 履修上の注意

① 「2年次ゼミナール」は2025年度から「基礎ゼミナール」（2単位）に変更された。「2年次ゼミナール」未修得の者は、「基礎ゼミナール」4単位分を修得しなければならない。
② ゼミナールは定員が定められており、履修希望者数がそれを超えた場合には選考することがある。
③ 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならず、原則として指導教員の変更は認められない（基礎ゼミナール履修者については、3年次ゼミナール履修時に改めて指導教員を決定する）。
④ 単位の授与は各年次に行うが、各年次のゼミナールを未修得の者は次の配当年次のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
⑤ ゼミナールの履修登録については、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は、卒業論文の執筆を含む４単位の科目である。卒業論文を提出した場合であっても、「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の場合は、同科目の再履修と卒業論文の再提出が義務付けられる。
⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること Ⅸ 卒業論文】を参照すること。

B 専門基礎科目

1 専門基礎科目

専門基礎科目は、**第８表**のとおりである。
専門基礎科目は、経営学科での専門領域の科目を学修する上で必要な基礎的知識を習得することを目的とした科目である。

第８表　専門基礎科目

授　業　科　目	配当年次	単位
経営学総論Ⅰ	1	2
経営学総論Ⅱ	1	2
会計学総論Ⅰ	1	2
会計学総論Ⅱ	1	2
商学総論Ⅰ	1	2
商学総論Ⅱ	1	2
経済学Ⅰ	1	2
経済学Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

① 専門基礎科目の規定単位数（8単位）を超えて修得した単位は、教養科目に算入することができる。
② 専門基礎科目は必修科目ではないが、1年次は全ての科目を履修することになっている。
③ 専門基礎科目が不合格で進級・卒業に必要な単位数を満たせない場合は、再履修すること。

C 専門選択科目

1 専門選択科目

専門選択科目は、**第９表**のとおりである。
専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経営学科開設の科目である。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第９表　専門選択科目

授　業　科　目	配当年次	単位	授　業　科　目	配当年次	単位
企業会計論Ⅰ	2～4	2	マーケティング・サイエンス	2～4	2
企業会計論Ⅱ	2～4	2	商品開発論Ⅰ	2～4	2
経営管理論Ⅰ	2～4	2	商品開発論Ⅱ	2～4	2
経営管理論Ⅱ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
経営史Ⅰ	2～4	2	サービス・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
経営史Ⅱ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ	2～4	2
マーケティング論Ⅰ	2～4	2	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	2～4	2
マーケティング論Ⅱ	2～4	2	流通論	2～4	2
経営統計学Ⅰ	2～4	2	デジタル・マーケティング	2～4	2
経営統計学Ⅱ	2～4	2	管理会計論	2～4	4
経営数学Ⅰ	2～4	2	税務会計論Ⅰ	2～4	2
経営数学Ⅱ	2～4	2	税務会計論Ⅱ	2～4	2
財務会計論Ⅰ	2～4	2	国際経営論Ⅰ	2～4	2
財務会計論Ⅱ	2～4	2	国際経営論Ⅱ	2～4	2
原価計算論	2～4	4	公企業論Ⅰ	2～4	2
財務管理論Ⅰ	2～4	2	公企業論Ⅱ	2～4	2
財務管理論Ⅱ	2～4	2	交通論Ⅰ	2～4	2
ビジネスライティングⅠ	2～4	2	交通論Ⅱ	2～4	2
ビジネスライティングⅡ	2～4	2	貿易論Ⅰ	2～4	2
経営英書講読Ⅰ	2～4	2	貿易論Ⅱ	2～4	2
経営英書講読Ⅱ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2～4	2
証券市場論Ⅰ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2～4	2
証券市場論Ⅱ	2～4	2	金融システム論Ⅰ	2～4	2
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	金融システム論Ⅱ	2～4	2
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	会計監査論Ⅰ	2～4	2
経営組織論Ⅰ	2～4	2	会計監査論Ⅱ	2～4	2
経営組織論Ⅱ	2～4	2	財務諸表分析Ⅰ	2～4	2
人的資源論Ⅰ	2～4	2	財務諸表分析Ⅱ	2～4	2
人的資源論Ⅱ	2～4	2	中小企業論Ⅰ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2～4	2	中小企業論Ⅱ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅰ	2～4	2
生産管理論Ⅰ	2～4	2	プログラミングと機械学習Ⅱ	2～4	2
生産管理論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義A	2～4	2
企業論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義B	2～4	2
企業論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義C	2～4	2
経営情報論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義D	2～4	2
経営情報論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義E	2～4	2
消費者行動論	2～4	2	経営学特殊講義F	2～4	2

2 履修上の注意

① 専門選択科目の規定単位数は44単位である。
② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、専門関連科目に算入することができる。
③ 専門選択科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。
④「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
⑤ 2021年度に「サービス・マーケティング論Ⅰ」および「サービス・マーケティング論Ⅱ」が新設された。

⑥ 2022年度に「ツーリズム・マーケティング論Ⅰ」および「ツーリズム・マーケティング論Ⅱ」が新設された。
⑦ 2023年度をもって、「消費者行動論Ⅱ」は廃講となった。修得済みの単位は推奨科目の単位として認められる。
⑧ 2024年度から「消費者行動論Ⅰ」（半期・2単位）および「消費者行動論Ⅱ」（半期・2単位）は、「消費者行動論」（半期・2単位）に統合して開設する。2023年度までに「消費者行動論Ⅰ」または「消費者行動論Ⅱ」の少なくとも一方の単位を修得している場合、「消費者行動論」を履修することはできない。
⑨ 2024年度に「マーケティング・サイエンス」、「流通論」および「デジタル・マーケティング」が新設された。
⑩ 2024年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
消費者行動論	消費者行動論Ⅰ
プログラミングと機械学習Ⅰ	コンピュータ論Ⅰ
プログラミングと機械学習Ⅱ	コンピュータ論Ⅱ

Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

1 自由設計科目

自由設計科目は、学生の興味、関心、専門分野に対応した知識を習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、**第10表**に示されるとおり、10区分から構成されている。
なお、自由設計科目の規定単位数は、**第11表**に示される単位によっても充当することができる。

第10表　自由設計科目

区分			規定単位数
専門関連科目	経済学関連科目		20
	法学関連科目		
教養科目	経済学部開設・教養科目		18
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	
		教養科目群	
		キャリアデザイン科目群	
		国際交流科目群	
		データサイエンス科目群	
		スポーツ・ウエルネス教育科目	
	他学部開設科目		

第11表　自由設計科目に充当できる単位

区分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
専門選択科目	44	専門関連科目の単位として充当
専門基礎科目	8	教養科目の単位として充当

2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」を参考にすること。

A 専門関連科目

専門関連科目は、「経済学関連科目」と「法学関連科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 経済学関連科目

経済学関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経済学系の専門科目であり、開設科目は**第12表**のとおりである。

第12表　経済学関連科目

授業科目	配当年次	単位
外国史概説 A	1～4	2
外国史概説 B	1～4	2
社会問題基礎	1～4	2
社会科学基礎	1～4	2
ミクロ経済学Ⅰ	2～4	2
ミクロ経済学Ⅱ	2～4	2
マクロ経済学Ⅰ	2～4	2
マクロ経済学Ⅱ	2～4	2
ゲーム理論入門	2～4	2
統計学	2～4	4
経済学史Ⅰ	2～4	2
経済学史Ⅱ	2～4	2
市場と政府Ⅰ	2～4	2
市場と政府Ⅱ	2～4	2
経済史入門 A	2～4	2
経済史入門 B	2～4	2
社会経済史Ⅰ	2～4	2
社会経済史Ⅱ	2～4	2
社会政策Ⅰ	2～4	2
社会政策Ⅱ	2～4	2
数理経済学 A	2～4	2
数理経済学 B	2～4	2
経済変動論 A	2～4	2
経済変動論 B	2～4	2
経済統計論	2～4	4
計量経済学Ⅰ	2～4	2
計量経済学Ⅱ	2～4	2
産業組織論Ⅰ	2～4	2
産業組織論Ⅱ	2～4	2
経済思想史Ⅰ	2～4	2
経済思想史Ⅱ	2～4	2
金融論Ⅰ	2～4	2
金融論Ⅱ	2～4	2
国際金融論Ⅰ	2～4	2
国際金融論Ⅱ	2～4	2
財政学Ⅰ	2～4	2
財政学Ⅱ	2～4	2
公共経済学Ⅰ	2～4	2
公共経済学Ⅱ	2～4	2
医療経済論Ⅰ	2～4	2
医療経済論Ⅱ	2～4	2
国際貿易論Ⅰ	2～4	2
国際貿易論Ⅱ	2～4	2
開発経済学Ⅰ	2～4	2
開発経済学Ⅱ	2～4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2～4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2～4	2

授業科目	配当年次	単位
環境経済学Ⅰ	2～4	2
環境経済学Ⅱ	2～4	2
日本経済史Ⅰ	2～4	2
日本経済史Ⅱ	2～4	2
西洋経済史Ⅰ	2～4	2
西洋経済史Ⅱ	2～4	2
東洋経済史Ⅰ	2～4	2
東洋経済史Ⅱ	2～4	2
現代経済史Ⅰ	2～4	2
現代経済史Ⅱ	2～4	2
社会思想史Ⅰ	2～4	2
社会思想史Ⅱ	2～4	2
社会保障論Ⅰ	2～4	2
社会保障論Ⅱ	2～4	2
社会キャリア論 A	2～4	2
社会キャリア論 B	2～4	2
社会デザイン論Ⅰ	2～4	2
社会デザイン論Ⅱ	2～4	2
日本経済論 A	2～4	2
日本経済論 B	2～4	2
世界経済事情 A	2～4	2
世界経済事情 B	2～4	2
国際関係論Ⅰ	2～4	2
国際関係論Ⅱ	2～4	2
経済地理学Ⅰ	2～4	2
経済地理学Ⅱ	2～4	2
英経済書講読Ⅰ	2～4	2
英経済書講読Ⅱ	2～4	2
独経済書講読 A	2～4	2
独経済書講読 B	2～4	2
仏経済書講読 A	2～4	2
仏経済書講読 B	2～4	2
中国経済書講読 A	2～4	2
中国経済書講読 B	2～4	2
比較制度論 A	3・4	2
比較制度論 B	3・4	2
経済理論特別講義 A	3・4	2
経済理論特別講義 B	3・4	2
応用経済学特別講義 A	3・4	2
応用経済学特別講義 B	3・4	2
応用経済学特別講義 C	2～4	2
応用経済学特別講義 D	2～4	2
経済史特別講義 A	3・4	2
経済史特別講義 B	3・4	2
社会問題特別講義 A	3・4	2
社会問題特別講義 B	3・4	2

〔第12表の注意事項〕

① 2023年度をもって「産業経済学」は廃講となった。なお、修得済の単位は専門関連科目の単位として認められる。

② 2024年度に「産業組織論Ⅰ・Ⅱ」および「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」が新設された。

③ 2025年度に以下のように授業科目が変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
社会問題基礎	社会問題入門
社会科学基礎	社会科学入門

④ 2024年度をもって「ミクロ経済学概論」、「マクロ経済学概論」は廃講となった。なお、修得済みの科目は経済学関連科目の単位として認められる。
⑤ 2025年度に「ゲーム理論入門」、「経済史入門A・B」が新設された。

2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、**第13表**のとおりである。

第13表　法学関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
民法概論	2～4	4
商法概論	2～4	4
憲法	2～4	4
会社法Ⅰ	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4
国際法Ⅱ	3・4	4
行政法Ⅰ	3・4	4
行政学	3・4	4
労働基準法	3・4	4
労働組合法	3・4	4
国際取引法	3・4	4
環境法	3・4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
社会保障法	3・4	4
税法Ⅰ	3・4	2
税法Ⅱ	3・4	2
金融商品取引法	3・4	2
商取引法	3・4	2
経済法Ⅰ	3・4	2
経済法Ⅱ	3・4	2
国際経済法	3・4	4
公務員法・行政組織法	3・4	2
消費者法Ⅰ	3・4	2
消費者法Ⅱ	3・4	2
知的財産法	3・4	4

〔第13表の注意事項〕
2021年度をもって「有価証券法」は廃講となった。修得済みの単位は専門関連科目の単位として認められる。

B 教養科目

教養科目は「経済学部開設・教養科目」、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」によって構成される。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

1 経済学部開設・教養科目

経済学部開設・教養科目は、**第14表**のとおりである。

第14表　経済学部開設・教養科目

授　業　科　目	配当年次	単位
外国文化Ⅰ a	1～4	2
外国文化Ⅰ b	1～4	2
外国文化Ⅱ a	1～4	2
外国文化Ⅱ b	1～4	2
外国文化Ⅲ a	1～4	2
外国文化Ⅲ b	1～4	2
外国文化Ⅳ a	1～4	2
外国文化Ⅳ b	1～4	2
心理学 a	1～4	2
心理学 b	1～4	2
数学Ⅰ a	1～4	2
数学Ⅰ b	1～4	2
数学Ⅱ a	1～4	2
数学Ⅱ b	1～4	2
現代社会とスポーツ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
スポーツ産業論	1～4	2
TOEIC（特級）Ⅰ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅰ b	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ a	1～4	1
TOEIC（特級）Ⅱ b	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）a	1～4	1
EAP（English for Academic Purposes）b	1～4	1
TOEFL a	1～4	1
TOEFL b	1～4	1
中国語（特級）a	1～4	1
中国語（特級）b	1～4	1
政治経済論入門Ⅰ	1～4	2
政治経済論入門Ⅱ	1～4	2

〔第14表の注意事項〕
「TOEIC（特級）Ⅰa」、「TOEIC（特級）Ⅰb」、「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

2 全学共通教育科目

全学共通教育科目は、**第15表～第19表**のとおりである。全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

〔注意事項〕

全学共通教育科目の中には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

［a リテラシー科目群］

リテラシー科目群の開設科目は、**第15表**のとおりである。

第15表　リテラシー科目群（WRD、外国語科目、IT科目）

分野	授業科目	配当年次	単位
WRD	WRD	1～4	4
外国語科目	英語リスニング&スピーキング（初級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（初級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（中級）b	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）a	1～4	1
	英語リスニング&スピーキング（上級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（初級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（中級）b	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）a	1～4	1
	英語リーディング&ライティング（上級）b	1～4	1
	英会話選択a	1～4	1
	英会話選択b	1～4	1
	ビジネス英語a	1～4	1
	ビジネス英語b	1～4	1
	英文多読a	1～4	1
	英文多読b	1～4	1
	独会話選択a	1～4	1
	独会話選択b	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	独語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	独語選択（中級）a	1～4	1
	独語選択（中級）b	1～4	1
	独語選択（上級）a	1～4	1
	独語選択（上級）b	1～4	1
	仏会話選択a	1～4	1
	仏会話選択b	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	仏語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	仏語選択（中級）a	1～4	1
外国語科目	仏語選択（中級）b	1～4	1
	仏語選択（上級）a	1～4	1
	仏語選択（上級）b	1～4	1
	スペイン語選択（初級）a	1～4	1
	スペイン語選択（初級）b	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅰb	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱa	1～4	1
	中国語選択（初級）Ⅱb	1～4	1
	中国語選択（中級）a	1～4	1
	中国語選択（中級）b	1～4	1
	中国語選択（上級）a	1～4	1
	中国語選択（上級）b	1～4	1
	韓国語会話選択a	1～4	1
	韓国語会話選択b	1～4	1
	韓国語選択（初級）a	1～4	1
	韓国語選択（初級）b	1～4	1
外国語科目（ディプロム・コース）	ディプロム・コース中級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（独語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）a	1～4	1
	ディプロム・コース上級（仏語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（スペイン語）b	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）a	1～4	1
	ディプロム・コース中級（韓国語）b	1～4	1
IT科目	コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーB	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーC	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
	図書館活用法	1～4	2

《英語到達目標》

①「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」
　初級：TOEIC　600－700点、英検2級程度
　中級：TOEIC　700－800点、英検準1級程度
　上級：TOEIC　800－990点、英検1級程度
②「英会話選択」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
③「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
④「英文多読」― 受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。

《ディプロム・コース到達目標》

① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の４～３級の合格。
② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）２級～準１級の合格。
③ 中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の３級の合格。

〔第15表の注意事項〕

① 「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。

② セットで履修した「コンピュータ・リテラシー A1」と「コンピュータ・リテラシー A2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

③ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備　　考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	•「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	• 上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者 • 経済学部第2外国語の中級2単位を修得した者	a・bどちらかのみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第１回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

④ 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、**卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。**

※単位修得の例

- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**中級（独語）**b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- 「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を2単位、「ディプロム・コース**上級（仏語）**a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- 「ディプロム・コース**中級（独語）**a」を3単位、「ディプロム・コース**中級（仏語）**a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

⑤ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。

［b 教養科目群］

教養科目群の開設科目は、**第16表**のとおりである。

第16表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）

分野		授業科目	配当年次	単位
総合科目		総合講座Ⅰ	1～4	2
		総合講座Ⅱ	1～4	2
		総合講座Ⅲ	1～4	2
		総合講座Ⅳ	1～4	2
		総合講座Ⅴ	1～4	2
		総合講座Ⅵ	1～4	2
		特別講座Ⅰ	1～4	2
		特別講座Ⅱ	1～4	2
成城学		成城学園を知る	1～4	2
		成城学Ⅰ	1～4	2
		成城学Ⅱ	1～4	2
		成城学Ⅲ	1～4	2
		成城学Ⅳ	1～4	2
		成城学Ⅴ	1～4	2
現代社会論系列	基幹	社会学入門 a	1～4	2
		社会学入門 b	1～4	2
		メディア論入門 a	1～4	2
		メディア論入門 b	1～4	2
	展開	現代社会論Ⅰa	1～4	2
		現代社会論Ⅰb	1～4	2
		現代社会論Ⅱa	1～4	2
		現代社会論Ⅱb	1～4	2
		現代社会論Ⅲa	1～4	2
		現代社会論Ⅲb	1～4	2
		現代社会論Ⅳa	1～4	2
		現代社会論Ⅳb	1～4	2
		現代社会論Ⅴa	1～4	2
		現代社会論Ⅴb	1～4	2
		現代社会論Ⅵa	1～4	2
		現代社会論Ⅵb	1～4	2
		現代社会論Ⅶa	1～4	2
		現代社会論Ⅶb	1～4	2
		現代社会論Ⅷa	1～4	2
		現代社会論Ⅷb	1～4	2
		現代社会論演習 a	1～4	2
		現代社会論演習 b	1～4	2
社会構造論系列	基幹	国際関係論入門 a	1～4	2
		国際関係論入門 b	1～4	2
		経済学入門 a	1～4	2
		経済学入門 b	1～4	2
		政治学入門 a	1～4	2
		政治学入門 b	1～4	2
		情報社会論入門 a	1～4	2
		情報社会論入門 b	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）a	1～4	2
		法学（含む日本国憲法）b	1～4	2
	展開	社会構造論Ⅰa	1～4	2
		社会構造論Ⅰb	1～4	2
		社会構造論Ⅱa	1～4	2
		社会構造論Ⅱb	1～4	2
		社会構造論Ⅲa	1～4	2
		社会構造論Ⅲb	1～4	2
		社会構造論Ⅳa	1～4	2
		社会構造論Ⅳb	1～4	2
		社会構造論Ⅴa	1～4	2
		社会構造論Ⅴb	1～4	2
		社会構造論Ⅵa	1～4	2
		社会構造論Ⅵb	1～4	2
		社会構造論演習 a	1～4	2
		社会構造論演習 b	1～4	2
思想・人間論系列	基幹	哲学入門 a	1～4	2
		哲学入門 b	1～4	2
		宗教学入門 a	1～4	2
		宗教学入門 b	1～4	2
		倫理学入門 a	1～4	2
		倫理学入門 b	1～4	2
		西洋思想入門 a	1～4	2
		西洋思想入門 b	1～4	2
		東洋思想入門 a	1～4	2
		東洋思想入門 b	1～4	2
		日本思想入門 a	1～4	2
		日本思想入門 b	1～4	2
	展開	思想・人間論Ⅰa	1～4	2
		思想・人間論Ⅰb	1～4	2
		思想・人間論Ⅱa	1～4	2
		思想・人間論Ⅱb	1～4	2
		思想・人間論Ⅲa	1～4	2
		思想・人間論Ⅲb	1～4	2
		思想・人間論演習 a	1～4	2
		思想・人間論演習 b	1～4	2
表現文化論系列	基幹	文学入門 a	1～4	2
		文学入門 b	1～4	2
		言語学入門 a	1～4	2
		言語学入門 b	1～4	2
		音楽入門 a	1～4	2
		音楽入門 b	1～4	2
		表象文化論入門 a	1～4	2
		表象文化論入門 b	1～4	2
	展開	表現文化論Ⅰa	1～4	2
		表現文化論Ⅰb	1～4	2
		表現文化論Ⅱa	1～4	2
		表現文化論Ⅱb	1～4	2
		表現文化論Ⅲa	1～4	2
		表現文化論Ⅲb	1～4	2
		表現文化論Ⅳa	1～4	2
		表現文化論Ⅳb	1～4	2
		表現文化論Ⅴa	1～4	2
		表現文化論Ⅴb	1～4	2
		表現文化論Ⅵa	1～4	2
		表現文化論Ⅵb	1～4	2
		表現文化論演習 a	1～4	2
		表現文化論演習 b	1～4	2

第16表　教養科目群（総合科目、成城学、系列科目）（つづき）

分野		授業科目	配当年次	単位
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	1～4	2
		歴史学入門 b	1～4	2
		日本近現代史 a	1～4	2
		日本近現代史 b	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 a	1～4	2
		ヨーロッパ近現代史 b	1～4	2
		アジア近現代史 a	1～4	2
		アジア近現代史 b	1～4	2
		アメリカ近現代史 a	1～4	2
		アメリカ近現代史 b	1～4	2
	展開	歴史文化論Ⅰa	1～4	2
		歴史文化論Ⅰb	1～4	2
		歴史文化論Ⅱa	1～4	2
		歴史文化論Ⅱb	1～4	2
		歴史文化論Ⅲa	1～4	2
		歴史文化論Ⅲb	1～4	2
		歴史文化論Ⅳa	1～4	2
		歴史文化論Ⅳb	1～4	2
		歴史文化論Ⅴa	1～4	2
		歴史文化論Ⅴb	1～4	2
		歴史文化論演習 a	1～4	2
		歴史文化論演習 b	1～4	2
地域空間論系列	基幹	文化人類学入門 a	1～4	2
		文化人類学入門 b	1～4	2
		空間システム論入門 a	1～4	2
		空間システム論入門 b	1～4	2
	展開	地域空間論Ⅰa	1～4	2
		地域空間論Ⅰb	1～4	2
		地域空間論Ⅱa	1～4	2
		地域空間論Ⅱb	1～4	2
		地域空間論Ⅲa	1～4	2
		地域空間論Ⅲb	1～4	2
		地域空間論Ⅳa	1～4	2
		地域空間論Ⅳb	1～4	2
		地域空間論Ⅴa	1～4	2
		地域空間論Ⅴb	1～4	2
		地域空間論Ⅵa	1～4	2
		地域空間論Ⅵb	1～4	2
		地域空間論Ⅶa	1～4	2
		地域空間論Ⅶb	1～4	2
		地域空間論Ⅷa	1～4	2
		地域空間論Ⅷb	1～4	2
		地域空間論演習 a	1～4	2
		地域空間論演習 b	1～4	2

分野		授業科目	配当年次	単位
数理・自然科学系列	基幹	数理の世界 a	1～4	2
		数理の世界 b	1～4	2
		物理の世界 a	1～4	2
		物理の世界 b	1～4	2
		化学の世界 a	1～4	2
		化学の世界 b	1～4	2
		生命科学の世界 a	1～4	2
		生命科学の世界 b	1～4	2
		科学史 a	1～4	2
		科学史 b	1～4	2
	展開	自然科学Ⅰa	1～4	2
		自然科学Ⅰb	1～4	2
		自然科学Ⅱa	1～4	2
		自然科学Ⅱb	1～4	2
		自然科学Ⅲa	1～4	2
		自然科学Ⅲb	1～4	2
		自然科学Ⅳa	1～4	2
		自然科学Ⅳb	1～4	2
		自然科学Ⅴa	1～4	2
		自然科学Ⅴb	1～4	2
		数理・自然科学演習 a	1～4	2
		数理・自然科学演習 b	1～4	2
心身論系列	基幹	こころと身体 a	1～4	2
		こころと身体 b	1～4	2
		身体と運動・スポーツ a	1～4	2
		身体と運動・スポーツ b	1～4	2
	展開	心身論Ⅰa	1～4	2
		心身論Ⅰb	1～4	2
		心身論Ⅱa	1～4	2
		心身論Ⅱb	1～4	2
		心身論Ⅲa	1～4	2
		心身論Ⅲb	1～4	2
		心身論Ⅳa	1～4	2
		心身論Ⅳb	1～4	2
		心身論Ⅴa	1～4	2
		心身論Ⅴb	1～4	2
		心身論演習 a	1～4	2
		心身論演習 b	1～4	2

〔第16表の注意事項〕

① 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**

② 2021・2022年度開講の「特別講座Ⅱ」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

③ 2021年度をもって「数理科学Ⅰa」、「数理科学Ⅰb」、「数理科学Ⅱa」、「数理科学Ⅱb」は廃講となった。修得済みの単位は一般科目の単位として認められる。

［C キャリアデザイン科目群］

キャリアデザイン科目群の開設科目は**第17表**のとおりである。

第17表　キャリアデザイン科目群

授　業　科　目	配当年次	単位
☆キャリア・ベーシックⅠ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅡ	1～4	2
☆キャリア・ベーシックⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅠ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅡ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅢ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅣ	1～4	2
★キャリア・プラクティスⅤ	1～4	2

授　業　科　目	配当年次	単位
★キャリア・プラクティスⅥ	1～4	2
★キャリア・エクスペリエンス	1～4	2
ワーク・キャリアⅠ	2～4	2
ワーク・キャリアⅡ	2～4	2
ワーク・キャリアⅢ	2～4	2
ライフ・キャリアⅠ	2～4	2
ライフ・キャリアⅡ	2～4	2
ライフ・キャリアⅢ	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第17表の注意事項〕

① 2025年度に科目が一新され、以下の科目は廃講となり、**第17表**の科目が新設された。**☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を上限に教養科目の卒業要件単位に算入することができる。**なお、上限には修得済の旧授業科目も含まれるため注意すること。

旧授業科目	
☆キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	職業選択
★プロジェクト演習	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ
★成城インターンシップ	時事英語Ⅰ・Ⅱ
業界企業分析	時事問題研究

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

② キャリアデザイン科目群のうち、卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が設けられている。【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ キャリアデザイン科目群は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

④ 2025年度に新設された以下の授業科目については、旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
キャリア・ベーシックⅠ	キャリア形成Ⅰ
キャリア・ベーシックⅡ	キャリア形成Ⅱ
キャリア・プラクティスⅠ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅢ	プロジェクト演習
キャリア・プラクティスⅣ	キャリア形成Ⅳ

⑤「キャリア・エクスペリエンス」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑥「キャリア・エクスペリエンス」は反復履修できるが、**反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。なお、2024年度以前に「成城インターンシップ」の単位を修得している場合、「キャリア・エクスペリエンス」を履修することもできるが、卒業要件単位に算入することはできない。**

［d 国際交流科目群］

国際交流科目群の開設科目は、**第18表**のとおりである。

第18表　国際交流科目群

区分	授業科目	配当年次	単位
留学対策科目	Academic Skills ⅠA	1～4	1
	Academic Skills ⅠB	1～4	1
	Academic Skills ⅡA	1～4	1
	Academic Skills ⅡB	1～4	1
	Academic Skills ⅢA	1～4	1
	Academic Skills ⅢB	1～4	1
	Academic Skills ⅣA	1～4	1
	Academic Skills ⅣB	1～4	1
	Academic Skills ⅤA	2～4	1
	Academic Skills ⅤB	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies ⅠA	1～4	2
	Japan Studies ⅠB	1～4	2
	Japan Studies ⅡA	1～4	2
	Japan Studies ⅡB	1～4	2
	Japan Studies ⅢA	1～4	2
	Japan Studies ⅢB	1～4	2
	Japan Studies ⅣA	1～4	2
	Japan Studies ⅣB	1～4	2
	Japan Studies ⅤA	1～4	2
	Japan Studies ⅤB	1～4	2
	Japan Studies ⅥA	1～4	2
	Japan Studies ⅥB	1～4	2
	Japan Studies ⅦA	1～4	2
	Japan Studies ⅦB	1～4	2
	Japan Studies ⅧA	1～4	2
	Japan Studies ⅧB	1～4	2
	Japan Studies ⅨA	1～4	2
	Japan Studies ⅨB	1～4	2
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics ⅠA	1～4	2
	Special Topics ⅠB	1～4	2
	Special Topics ⅡA	1～4	2
	Special Topics ⅡB	1～4	2
	Special Topics ⅢA	1～4	2
	Special Topics ⅢB	1～4	2
	Special Topics ⅣA	1～4	2
	Special Topics ⅣB	1～4	2
	Special Topics ⅤA	1～4	2
	Special Topics ⅤB	1～4	2

区分	授業科目	配当年次	単位
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	＊	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（スペイン語･春季）	＊	2
	海外短期語学研修（スペイン語･夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語（初級1）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級1）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（初級2）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅰ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅱ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅲ	交換留学生等	2
	日本語（中級）Ⅳ	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅠA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅠB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡA	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅡB	交換留学生等	1
	日本語（上級）ⅢA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅢB	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣA	交換留学生等	2
	日本語（上級）ⅣB	交換留学生等	2
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第18表の注意事項〕

① 「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。

② 卒業要件単位に算入できない授業科目の履修については、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が認められている。【履修規定 Ⅰ 総説 B履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

③ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は**履修科目登録上限単位数には算入されない。**詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

④ 海外短期語学研修のうち、配当年次が＊印になっているものは、１～３年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位授与がされる科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の有無にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。

⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の授与を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち**卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。**

⑥ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。

⑦ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、または外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。

⑧ 2022年度をもって、「Academic SkillsⅥA・B」は廃講となった。

⑨ 2023年度に「Special TopicsⅤA・B」が新設された。

⑩ 2023年度をもって、「Oceanian StudiesA・B」は廃講となった。修得済みの単位は教養科目の単位として認められる。

⑪ 2024年度に「Japan StudiesⅨA・B」、「海外短期語学研修（スペイン語・春季）・（スペイン語・夏季）」が新設された。

［ e データサイエンス科目群 ］

データサイエンス科目群の開設科目は、**第19表**に示すとおりである。

第19表　データサイエンス科目群 2022・2023年度入学者用

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
リテラシー科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2～4	2
	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
	データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2
選択科目	データアナリティクス応用	2～4	2
	機械学習応用	2～4	2
	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

第19表　データサイエンス科目群 2021年度以前入学者用

区分	授　業　科　目	配当年次	単位
基礎科目	データサイエンス概論	1～4	2
	データサイエンス基礎	1～4	2
	データアナリティクス基礎	2～4	2
	データアナリティクス応用	2～4	2
発展科目	機械学習基礎	2～4	2
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
選択科目	数理科学基礎ａ	1～4	2
	数理科学基礎ｂ	1～4	2
	数理科学応用ａ	1～4	2
	数理科学応用ｂ	1～4	2

〔第19表の注意事項〕

① 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新授業科目	旧授業科目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

② 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。

③ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

④ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。

［ f　スポーツ・ウエルネス教育科目 ］

スポーツ・ウエルネス教育科目は、**第20表**のとおりである。

第20表　スポーツ・ウエルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース		配当年次	単位
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（半期）	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ		1～4	2
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ ウエルネス・スタディーズⅡ ウエルネス・スタディーズⅢ ウエルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウエルネス実技科目（半期または集中）	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー＆フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル ラグビー	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ　　スキー	集中コース		
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス＆コンディショニング エアロビクス＆ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ＆ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
	身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス			

〔第20表の注意事項〕

① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位に算入することができる。**

② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関すること Ⅴ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ **スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室、または指定された教室でガイダンスを行う。**

④ **スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。**
なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。

⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。

⑥ 集中コースの科目は「履修科目登録上限単位数」には算入されない。詳細については、【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照すること。

⑦ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。

3 他学部開設科目

他学部開設科目は、**第21表**のとおりである。

第21表　他学部開設科目

授業科目	配当年次	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2～4	4	文芸
ギリシャ古典講読	2～4	4	文芸
ローマ古典入門	2～4	4	文芸
ローマ古典講読	2～4	4	文芸
古代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
古代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中古国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
中世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近世国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
近代国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
漢文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅰ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅱ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅲ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅳ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅴ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅵ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅶ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅷ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅸ	2～4	2	文芸
国語国文学講義Ⅹ	2～4	2	文芸
英語学概論	2～4	4	文芸
英語文学史	2～4	4	文芸
英語学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文学特殊講義B	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義A	3・4	2	文芸
英語文化特殊講義B	3・4	2	文芸
美学・芸術学入門a	2～4	2	文芸
美学・芸術学入門b	2～4	2	文芸
美術史入門a	2～4	2	文芸
美術史入門b	2～4	2	文芸
美学一般講義a	2～4	2	文芸
美学一般講義b	2～4	2	文芸
音楽学一般講義a	2～4	2	文芸
音楽学一般講義b	2～4	2	文芸
演劇学一般講義a	2～4	2	文芸
演劇学一般講義b	2～4	2	文芸
映画学一般講義a	2～4	2	文芸
映画学一般講義b	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義a	2～4	2	文芸
日本美術史一般講義b	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義a	2～4	2	文芸
東洋美術史一般講義b	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅰb	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱa	2～4	2	文芸
西洋美術史一般講義Ⅱb	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
芸術学特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
美術史特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳa	2～4	2	文芸
文化史特殊講義Ⅳb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
歴史学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
民俗学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅰb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅱb	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲa	2～4	2	文芸
文化人類学特殊講義Ⅲb	2～4	2	文芸
日本文化史a	2～4	2	文芸
日本文化史b	2～4	2	文芸
東洋文化史a	2～4	2	文芸
東洋文化史b	2～4	2	文芸
西洋文化史a	2～4	2	文芸
西洋文化史b	2～4	2	文芸

第21表　他学部開設科目（つづき）

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
考古学a	2～4	2	文芸
考古学b	2～4	2	文芸
マスコミ原論	2～4	2	文芸
マスコミ史	2～4	2	文芸
ジャーナリズム論	2～4	2	文芸
リスクコミュニケーション論	2～4	2	文芸
社会心理学	2～4	2	文芸
広告心理学	2～4	2	文芸
マスコミ研究法	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅴ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2	文芸
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2	文芸
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2	文芸
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2	文芸

授　業　科　目	配当年次	単位	開設学部
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化	2～4	4	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論講義	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義a	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文化特殊講義b	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義a	2～4	2	文芸
西洋古典特殊講義b	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
言語学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸
ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2	文芸
広域芸術論特殊講義	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義a	2～4	2	文芸
哲学史特殊講義b	2～4	2	文芸
ヨーロッパ文化史	2～4	4	法
アメリカ文化史	2～4	4	法
日本文学	2～4	4	法
外国文学	2～4	4	法
エコロジー論	2～4	4	社会イノベーション
文明と社会	2～4	4	社会イノベーション
家族と社会の変動	2～4	4	社会イノベーション
短期学外演習	2～4	2	社会イノベーション

〔第21表の注意事項〕

① 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。**修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。**

② 2021年度に「広域芸術論講義」および「広域芸術論特殊講義」が新設された。

③「マスコミ特殊講義Ⅱ・Ⅵ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること Ⅴ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

④ 2022年度をもって、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑤ 2023年度に「言語学特殊講義Ⅰ（独）」および「言語学特殊講義Ⅱ（仏）」が新設された。2022年度までに、「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

⑥ 2024年度に「ヨーロッパの文化特殊講義a・b」が新設された。

⑦ 2023年度をもって、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」は廃講となった。修得済みの単位は、卒業要件単位に算入される。

⑧ 2024年度に「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）・Ⅱ（仏）」が新設された。2023年度までに、「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・Ⅰb（独）」および「ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・Ⅱb（仏）」の単位修得をしている場合でも、履修および卒業要件単位への算入が認められる。

Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

教職関連科目は、**第22表**のとおりである。
本年度休講科目は「経営学科　2025年度休講科目一覧」を参照すること。

第22表　教職関連科目

授　業　科　目	配当年次	単位
日本史概説 a	2～4	2
日本史概説 b	2～4	2
人文地理学 a	2～4	2
人文地理学 b	2～4	2
地理学講義 a	2～4	2
地理学講義 b	2～4	2
地誌学 a	2～4	2
地誌学 b	2～4	2
哲学講義 a	2～4	2
哲学講義 b	2～4	2
宗教学講義 a	2～4	2
宗教学講義 b	2～4	2
倫理学講義 a	2～4	2
倫理学講義 b	2～4	2

注）灰色に色づけされた科目は卒業要件外科目である。

〔第22表の注意事項〕

① 教職関連科目は、教職課程を登録した者が「『教科に関する専門的事項』に該当する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない。**
③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 Ⅱ 教職課程科目の履修　6 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

Ⅳ 経営学科　履修系統図

凡例：
- 基 基礎科目
- 専 専門基礎科目
- 済 経済学科開設科目
- 全 全学共通教育科目

【基礎科目】

英語

- 英語読解（1）a･b
- 上級英語読解（1）a･b
- Communicative English（1）a･b
- Advanced Communicative English（1）a･b

→

- 英語読解（2）a･b
- 上級英語読解（2）a･b
- Communicative English（2）a･b
- Advanced Communicative English（2）a･b
- TOEIC a･b
- 上級TOEIC a･b

第2外国語

- 独語（初級）a･b → 独語（中級）a･b
- 仏語（初級）a･b → 仏語（中級）a･b
- 中国語（初級）a･b → 中国語（中級）a･b

初年次教育科目

- データ分析ⅠⅡ
- ビジネス概論ⅠⅡ

【専門科目】

ゼミナール

基礎ゼミナール → 3年次ゼミナール → 4年次ゼミナール（卒業論文を含む）

経営学関連

企業の経営行動の実態を理解する上で、必要な専門基礎知識を体系的に学ぶと同時に、実務や実践に活かすことのできる活きた経営学の修得をねらいとしています。

基
- ビジネス概論ⅠⅡ
- データ分析ⅠⅡ

専
- 経済学ⅠⅡ
- 経営学総論ⅠⅡ
- 会計学総論ⅠⅡ
- 商学総論ⅠⅡ

→ 専
- 経営史ⅠⅡ
- 財務会計論ⅠⅡ
- 企業会計論ⅠⅡ
- 経営管理論ⅠⅡ
- マーケティング論ⅠⅡ
- 経営統計学ⅠⅡ
- 経営数学ⅠⅡ
- 経営英書講読Ⅰ・Ⅱ
- ビジネスライティングⅠⅡ
- 財務諸表分析ⅠⅡ

→ 専
- 国際経営論ⅠⅡ
- 人的資源論ⅠⅡ
- 経営組織論ⅠⅡ
- 経営戦略論ⅠⅡ
- 経営情報論ⅠⅡ
- 企業論ⅠⅡ
- 生産管理論ⅠⅡ
- ベンチャービジネス論ⅠⅡ
- 交通論ⅠⅡ
- 中小企業論ⅠⅡ
- 経営学特殊講義A～F

→ 専
- 原価計算論
- 金融システム論ⅠⅡ
- 管理会計論
- 税務会計論ⅠⅡ
- 公企業論ⅠⅡ

会計学関連

会計は積み重ねの学問です。その分、各科目は密接に関連しており、領域に重なりがあります。系統的に学ぶことで、基礎科目の理解が深まり、応用科目の学習も容易になります。

専
- 会計学総論ⅠⅡ

→ 専
- 財務会計論ⅠⅡ
- 原価計算論

→ 専
- 税務会計論ⅠⅡ
- 企業会計論ⅠⅡ
- 財務管理論ⅠⅡ
- 会計監査論ⅠⅡ
- 管理会計論
- 財務諸表分析ⅠⅡ

基
- ビジネス概論ⅠⅡ
- データ分析ⅠⅡ

専
- 経営学総論ⅠⅡ
- 経済学ⅠⅡ
- 商学総論ⅠⅡ

→ 専
- 経営数学ⅠⅡ
- 経営情報論ⅠⅡ

→ 専
- 経営統計学ⅠⅡ
- 証券市場論ⅠⅡ
- 経営管理論ⅠⅡ
- 経営史ⅠⅡ
- マーケティング論ⅠⅡ
- 人的資源論ⅠⅡ
- 経営戦略論ⅠⅡ
- 経営組織論ⅠⅡ
- ベンチャービジネス論ⅠⅡ
- 国際経営論ⅠⅡ
- 経営学特殊講義A～F

商学関連

経営学総論、商学総論など、基礎となる科目を学んだ上で、商品開発論、マーケティング論、消費者行動論といった、より高度で応用的な科目を学びます。また、商学分野においても、データの分析・解析能力や数量的なアプローチが求められる場面が多くなっています。経営数学や経営統計学を学ぶことでこれらの能力を身に付けるようにします。

基
- ビジネス概論ⅠⅡ
- データ分析ⅠⅡ

専
- 経済学ⅠⅡ
- 経営学総論ⅠⅡ
- 会計学総論ⅠⅡ
- 商学総論ⅠⅡ

→ 専
- 経営数学ⅠⅡ
- 経営統計学ⅠⅡ

→ 専
- 商品開発論ⅠⅡ
- マーケティング論ⅠⅡ
- 消費者行動論
- マーケティング･サイエンス
- サービス･マーケティング論ⅠⅡ
- ツーリズム･マーケティング論ⅠⅡ
- 流通論
- デジタル･マーケティング

→ 専
- 経営管理論ⅠⅡ
- 経営組織論ⅠⅡ
- 経営戦略論ⅠⅡ
- 人的資源論ⅠⅡ
- 国際経営論ⅠⅡ
- 管理会計論
- 財務会計論ⅠⅡ
- 財務諸表分析ⅠⅡ
- 貿易論ⅠⅡ
- 経営学特殊講義A~F

基	ビジネス概論ⅠⅡ
	データ分析ⅠⅡ
専	経済学ⅠⅡ
	経営学総論ⅠⅡ
	会計学総論ⅠⅡ
	商学総論ⅠⅡ

専	経営数学ⅠⅡ
	金融システム論ⅠⅡ
	証券市場論ⅠⅡ
	財務会計論ⅠⅡ
	企業会計論ⅠⅡ

専	財務管理論ⅠⅡ
	ベンチャービジネス論ⅠⅡ
済	国際金融論Ⅰ・Ⅱ
	統計学ⅠⅡ
専	リスクマネジメント論ⅠⅡ
	原価計算論
	管理会計論

専	経営統計学ⅠⅡ
	経営組織論ⅠⅡ
	経営情報論ⅠⅡ

専	会計監査論ⅠⅡ
	税務会計論ⅠⅡ
	経営学特殊講義A～F

金融関連

１年次に経済学を履修した上で、２年次に金融システム論、証券市場論、３年次に財務管理論は必須です。金融機関への就職を希望する者は経営数学、国際金融論を履修してください。企業の財務セクションを希望する人は、財務会計など会計系科目を履修してください。

基	ビジネス概論ⅠⅡ
	データ分析ⅠⅡ
専	経済学ⅠⅡ
	経営学総論ⅠⅡ
	会計学総論ⅠⅡ
	商学総論ⅠⅡ
全	データサイエンス概論
	データサイエンス基礎
	数理科学基礎ａ・ｂ

専	経営数学ⅠⅡ
	経営統計学ⅠⅡ

専	商品開発論ⅠⅡ
	マーケティング論ⅠⅡ
	マーケティング・サイエンス
	生産管理論ⅠⅡ
	経営戦略論ⅠⅡ
	プログラミングと機械学習ⅠⅡ
全	データアナリティクス基礎
	データアナリティクス応用
	数理科学応用ａ・ｂ

専	経営情報論ⅠⅡ
	経営学特殊講義A～F
全	機械学習基礎
	データサイエンス・アドバンスド・プログラム

情報関連

経営学のどの分野を学ぶ上でも、データがきちんと読めて分析できる能力は大変重要です。データ分析でその基礎をしっかりと身に付け、経営統計学で知識を発展させた上で、更に実践的な内容を経営情報論で学びます。

【自由設計科目】

専門関連

経済学関連科目	外国史概説 A・B	経済学史Ⅰ・Ⅱ	経済統計論	公共経済学Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史Ⅰ・Ⅱ	日本経済論 A・B	中国経済書講読A・B
	社会問題基礎	市場と政府Ⅰ・Ⅱ	計量経済学Ⅰ・Ⅱ	医療経済論Ⅰ・Ⅱ	東洋経済史Ⅰ・Ⅱ	世界経済事情 A ・B	応用経済学特別講義C・D
	社会科学基礎	経済史入門A・B	産業組織論Ⅰ・Ⅱ	国際貿易論Ⅰ・Ⅱ	現代経済史Ⅰ・Ⅱ	国際関係論Ⅰ ・Ⅱ	比較制度論A・B
	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	社会経済史Ⅰ・Ⅱ	経済思想史Ⅰ・Ⅱ	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	社会思想史Ⅰ・Ⅱ	経済地理学Ⅰ・Ⅱ	経済理論特別講義A・B
	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	社会政策Ⅰ・Ⅱ	金融論Ⅰ・Ⅱ	食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ	英経済書講読Ⅰ・Ⅱ	応用経済学特別講義A・B
	ゲーム理論入門	数理経済学 A・B	国際金融論Ⅰ・Ⅱ	環境経済学Ⅰ・Ⅱ	社会キャリア論 A・B	独経済書講読A・B	経済史特別講義A・B
	統計学	経済変動論 A・B	財政学Ⅰ・Ⅱ	日本経済史Ⅰ・Ⅱ	社会デザイン論Ⅰ・Ⅱ	仏経済書講読A・B	社会問題特別講義A・B
法学関連科目	民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	国際経済法		
	商法概論	行政法Ⅰ	国際取引法	金融商品取引法	公務員法・行政組織法		
	憲法	行政学	環境法	商取引法	消費者法Ⅰ・Ⅱ		
	会社法Ⅰ・Ⅱ	労働基準法	社会保障法	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法		

教養科目

全学共通教育科目

経済学部開設・教養科目	政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC（特級）Ⅰa・b	中国語（特級）a・b	EAP（English for Academic Purposes）a・b	数学Ⅰa・b	現代社会とスポーツ		
	外国文化Ⅰa・b～Ⅳa・b	TOEIC（特級）Ⅱa・b		TOEFLa・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論	
リテラシー科目群	WRD	英会話選択	独会話選択	仏語選択	韓国語会話選択	図書館活用法		
	英語リスニング&スピーキング	ビジネス英語	独語選択	スペイン語選択	韓国語選択	ディプロム・コース（独語、仏語、スペイン語、韓国語）		
	英語リーディング&ライティング	英文多読	仏会話選択	中国語選択	コンピュータ・リテラシー			
教養科目群	総合講座Ⅰ～Ⅵ	現代社会論演習a・b	社会構造論演習a・b	思想・人間論Ⅰa・b～Ⅲa・b	表現文化論演習a・b	歴史文化論演習a・b	化学の世界a・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b
	特別講座Ⅰ・Ⅱ	国際関係論入門a・b	哲学入門a・b	思想・人間論演習a・b	歴史学入門a・b	文化人類学入門a・b	生命科学の世界a・b	心身論演習a・b
	成城学園を知る	経済学入門a・b	宗教学入門a・b	文学入門a・b	日本近現代史a・b	空間システム論入門a・b	科学史a・b	
	成城学Ⅰ～Ⅴ	政治学入門a・b	倫理学入門a・b	言語学入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b	地域空間論Ⅰa・b～Ⅷa・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b	
	社会学入門a・b	情報社会論入門a・b	西洋思想入門a・b	音楽入門a・b	アジア近現代史a・b	地域空間論演習a・b	数理・自然科学演習a・b	
	メディア論入門a・b	法学（含む日本国憲法）a・b	東洋思想入門a・b	表象文化論入門a・b	アメリカ近現代史a・b	数理の世界a・b	こころと身体a・b	
	現代社会論Ⅰa・b～Ⅷa・b	社会構造論 Ⅰa・b～Ⅵa・b	日本思想入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅵa・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	物理の世界a・b	身体と運動・スポーツa・b	
キャリアデザイン科目群	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ	キャリア・エクスペリエンス	ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ					
	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ	ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ						
国際交流科目群	Academic Skills Ⅰ～Ⅵ	North American Studies	Japan StudiesⅠA・B～ⅨA・B	海外短期語学研修	留学準備演習			
	European Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠA・B～ⅤA・B	海外短期研修				
データサイエンス科目群	データサイエンス概論	データサイエンス基礎	データアナリティクス基礎	機械学習基礎	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	データサイエンス・ワークフロー・プログラム		
	データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ	データアナリティクス応用	機械学習応用	数理科学基礎ａ・ｂ	数理科学応用ａ・ｂ			
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&コンディショニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	レクリエーション・スポーツ	
	ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	フットサル	サイクル・スポーツ	
	身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー&フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ヨガ&ピラティス	スキー	
	アクアエクササイズ	剣道（古武道）	水泳	テニス	バレーボール	ラグビー		

他学部開設科目	ギリシャ古典入門	国語学講義Ⅰ・Ⅱ	美学・芸術学入門a・b	美学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	考古学a・b	マスコミ特殊講義Ⅰ～Ⅵ	西洋古典特殊講義a・b	哲学史特殊講義a・b
	ギリシャ古典講読	国語国文学講義Ⅰ～Ⅹ	美術史入門a・b	芸術学特殊講義Ⅰ～Ⅴ	マスコミ原論	ヨーロッパの文化	言語学特殊講義Ⅰ（独）	ヨーロッパ文化史
	ローマ古典入門	英語学概論	美学一般講義a・b	美術史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	リスクコミュニケーション論	ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	言語学特殊講義Ⅱ（仏）	アメリカ文化史
	ローマ古典講読	英語文学史	音楽学一般講義a・b	文化史特殊講義Ⅰa・b～Ⅳa・b	マスコミ史	ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	日本文学
	古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	演劇学一般講義a・b	歴史学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	ジャーナリズム論	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	外国文学
	中古国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	映画学一般講義a・b	民俗学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	社会心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ（独）	エコロジー論
	中世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義A	日本美術史一般講義a・b	文化人類学特殊講義Ⅰa・b～Ⅲa・b	広告心理学	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ（仏）	文明と社会
	近世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学特殊講義B	東洋美術史一般講義a・b	日本文化史a・b	マスコミ研究法	ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	家族と社会の変動
	近代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	西洋美術史一般講義Ⅰa・b	東洋文化史a・b	マスコミ講義Ⅰ～Ⅸ	広域芸術論講義	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	短期学外演習
	漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義B	西洋美術史一般講義Ⅱa・b	西洋文化史a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅸ	ヨーロッパの文化特殊講義a・b	広域芸術論特殊講義	

全学共通教育科目

Ⅰ 全学共通教育の理念 …… 164

Ⅱ 全学共通教育科目における
各種プログラム認定・修了要件 …… 168

Ⅰ 全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

（1）多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
（2）批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
（3）主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う
上記の理念に基づき、以下A～Fの科目群を開設している。各学部カリキュラム上の位置づけは、以下の通り。

学　　部	分　　野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり３つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。
「WRD」（ワードと読む）とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近は、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。
WRD科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。
大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。
その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。
外国語科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力（情報受信発信能力）やプレゼンテーション能力（表現能力）を身につけることを目的とする。
具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
IT科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
総合科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
成城学の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、８つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
系列科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理・自然科学系列	科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目、さらに、現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は基本コンセプトを「働く×学ぶ×貢献する×生きる」とし、学生は自らのライフ・キャリア（≒人生）を創造していく。全16科目は「自己と他者」、「他者と社会」、「現場と体験」、「仕事と社会」、「人生の役割」に分類され、学生は講義・演習・実習を通してアクティブに学びあう。開設科目は、p.151 **第17表**に示されている。
Seijo Career Programのサーティフィケートの認定要件については、p.168 **第1表**に示されている。なお、**成城大学就業力育成・認定プログラム（2024年度以前入学者対象）の認定要件については、過年度分の履修の手引を確認すること。**

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。
*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。
国際交流科目群の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。
成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.169 **第2表**に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。
データサイエンス科目群の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。
データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.169 **第3表**に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。
（1）「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
（2）グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
（3）運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武道、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.167に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。
スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目はp.167に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

		経済学科		経営学科	
		2024年度以降入学者用	2023年度以前入学者用	2024年度以降入学者用	2023年度以前入学者用
Ⓐリテラシー科目群	1 WRD	P.49　第15表	P.115　第15表	P.83　第15表	P.147　第15表
	2 外国語科目	P.53　第20表	P.120　第20表	P.83　第15表	P.147　第15表
	3 IT科目	P.49　第15表	P.115　第15表	P.83　第15表	P.147　第15表
Ⓑ教養科目群	1 総合科目	P.55　第21表	P.122　第21表	P.85　第16表	P.149　第16表
	2 成城学	P.55　第21表	P.122　第21表	P.85　第16表	P.149　第16表
	3 系列科目	推奨科目 P.49　第16表	推奨科目 P.115　第16表	教養科目 P.85　第16表	教養科目 P.149　第16表
		一般科目 P.55　第21表	一般科目 P.122　第21表		
Ⓒキャリアデザイン科目群		P.50　第17表	P.116　第17表	P.87　第17表	P.151　第17表
Ⓓ国際交流科目群		P.51　第18表	P.117　第18表	P.88　第18表	P.152　第18表
Ⓔデータサイエンス科目群		P.52　第19表	P.119　第19表	P.90　第19表	P.154　第19表
Ⓕスポーツ・ウエルネス教育科目		P.57　第22表	P.124　第22表	P.91　第20表	P.155　第20表

Ⅱ 全学共通教育科目における各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（P.166）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて４月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第１表　Seijo Career Program（SCP）

サーティフィケート ベーシック 取得要件	サーティフィケート アドバンス 取得要件	授　業　科　目	配当年次	単位
２単位以上	２単位以上	キャリア・ベーシックⅠ	１～４	2
		キャリア・ベーシックⅡ	１～４	2
		キャリア・ベーシックⅢ	１～４	2
２単位以上	２単位以上	キャリア・プラクティスⅠ	１～４	2
		キャリア・プラクティスⅡ	１～４	2
		キャリア・プラクティスⅢ	１～４	2
		キャリア・プラクティスⅣ	１～４	2
		キャリア・プラクティスⅤ	１～４	2
		キャリア・プラクティスⅥ	１～４	2
		キャリア・エクスペリエンス	１～４	2
	２単位以上	ワーク・キャリアⅠ	２～４	2
		ワーク・キャリアⅡ	２～４	2
		ワーク・キャリアⅢ	２～４	2
	２単位以上	ライフ・キャリアⅠ	２～４	2
		ライフ・キャリアⅡ	２～４	2
		ライフ・キャリアⅢ	２～４	2

注１）2025年度にプログラムが一新された。（「成城大学就業力育成・認定プログラム」については過年度の履修の手引を確認すること。）

注２）2024年度以前に以下の旧授業科目の単位を修得している場合、「Seijo Career Program」においてのみ新授業科目の単位として認定する。また、「成城大学就業力育成・認定プログラム」においても新授業科目の単位を修得した場合、対応する旧授業科目の単位を修得したものとして認定する。詳細はキャリアセンターに確認すること。

旧授業科目	新授業科目
キャリア形成Ⅰ	キャリア・ベーシックⅠ
キャリア形成Ⅱ	キャリア・ベーシックⅡ
キャリア形成Ⅳ	キャリア・プラクティスⅣ
プロジェクト演習	キャリア・プラクティスⅠ
	キャリア・プラクティスⅢ

注３）キャリアセンターでは、Seijo Career Programを補完し、さらに学びを深めるための「正課外プログラム」を用意しているので、積極的な受講が望まれる（ただし正課外プログラムの開講状況については適宜キャリアセンターに確認すること）。

第２表　成城国際教育プログラム（SIEP）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次
コア科目（必須）	留学準備演習	1～4
選択科目（8単位以上）	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/ 2～4
	英語等による地域研究科目：Area Studies〔European Studies, North American Studies, Asian Studies〕	1～4
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4
	海外短期語学研修（春季/夏季）	（春季）＊（注1）
		（夏季）1～4
	キャリア・エクスペリエンス（注2）	1～4
	成城インターンシップ（注2）	1～4
	OCA（注2）	社2～4

注１）配当年次＊印の科目は、１～３年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。
注２）海外実施プログラムのみ対象

第３表　データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2022年度以降入学者用】

	リテラシーレベル・ディプロマ取得要件	応用基礎ディプロマ取得要件	アドバンスド・ディプロマ取得要件	授業科目	配当年次	単位
リテラシー科目	○	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	○	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎科目		○	○	データアナリティクス基礎	2～4	2
		○	○	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド科目			この中から２科目４単位選択必修（注1）	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
				データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2

注１）アドバンスド・ディプロマの取得希望者は「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」から１科目以上を修得することが望ましい。
注２）2022～2023年度入学者のみ、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度がある。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

第３表　データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2021年度以前入学者用】

	DS基礎力ディプロマ取得要件	EMSディプロマ取得要件	授業科目	配当年次	単位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス基礎（旧：データサイエンス入門Ⅰ）	1～4	2
	○	○	データアナリティクス基礎（旧：データサイエンス入門Ⅱ）	2～4	2
		○	データアナリティクス応用（旧：データサイエンス応用）	2～4	2
発展科目	○	○	機械学習基礎（旧：データサイエンス・スキルアップ・プログラム）	2～4	2
		○	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注）2021年度から、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度が導入された。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

教職課程

Ⅰ 教職課程 …… 172
1）本学教職課程の理念
2）本学で取得できる免許の種類と教科
3）免許取得の条件

Ⅱ 教職課程科目の履修 …… 175
A. 科目番号（科目ナンバリング） …… 175
B.「教科及び教職に関する科目」の履修 …… 176
1）「教科及び教職に関する科目」の単位修得方法
2）免許法に規定する科目と本学開設の授業科目
3）「教科及び教職に関する科目」と配当年次
4）履修上の注意
5）教育実習および教職実践演習を履修するための条件
6）履修科目登録上限単位数の特例措置
C.「教科に関する専門的事項」に該当する科目の履修 …… 179
1）「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得方法

Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス …… 181
1）教職課程ガイダンス（1年次）
2）教職課程登録説明会（1年次）
3）教育実習校開拓ガイダンス（2年次）
4）教育実習事前ガイダンス（3年次）
5）教育実習直前ガイダンス（4年次）
6）介護等体験

Ⅳ 教育職員免許状の申請等 …… 182
A. 教育職員免許状取得見込証明書の発行 …… 182
B. 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付 …… 182

Ⅰ 教職課程

1 本学教職課程の理念

本学では、成城学園創立の精神に則り個性の暢達を主眼として広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具え、かつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成すると共に、文化の発展に貢献することを目的としている。
個性尊重の基本理念に基づき、各学科では少人数制教育により学生の学びをサポートしているが、教職課程においては教科に関する専門知識に加え、教育に対する理論的・実践的・歴史的理解を深めることで、教育者としての視点を獲得し、さらには使命感を持って教育の現場で実践的に指導し得る教員の育成を目指している。
成城学園は、幼稚園から大学院までをワンキャンパスに擁する総合学園であり、学園（成城小学校）創立時（1917年）の４つの希望理想「個性尊重の教育」、「自然と親しむ教育」、「心情の教育」、「科学的研究を基とする教育」と、旧制七年制高等学校開設時（1926年）に掲げられた「真善美」の教育理念は、全学園に一貫して受け継がれ、実践されている。
本学の教職課程においては、学園各学校間のネットワークを活かし、同じ理念の下、それをまさに日々実践している成城学園中学校高等学校の現役教員による指導を取り入れることで、教員を目指す学生が、教育の現場の感覚を吸収し、実践力を養うだけでなく、学園創立者澤柳政太郎が理想として掲げた「成城教育」を自らの理想としても受容し、継承していくことを期待している。

2 本学で取得できる免許の種類と教科

本学では教育職員免許取得希望者のために、教職課程を開設している。この課程において取得できる免許の種類と教科は、**第１表**のとおりである。

第１表　本学で取得できる免許の種類と教科

学　部	学　科	中学校教諭一種免許	高等学校教諭一種免許
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民
	経営学科	社会	地理歴史 公民
文芸学部	国文学科	国語	国語
	英文学科	英語	英語
	文化史学科	社会	地理歴史 公民
	ヨーロッパ文化学科	ドイツ語 フランス語	ドイツ語 フランス語
法学部	法律学科	社会	地理歴史 公民

第２表　入学から免許状取得まで（モデルケース）

※下記科目の他に、「教科に関する科目」および「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」にあたる本学開設科目を早期に修得すること。

学年	時期	教職課程全般	介護等体験	教育実習	教職に関する科目
1年次	4月	★教職課程ガイダンス資料を確認（WebClassにて資料掲載） 対象：教職課程登録希望者			**教育原論Ⅰ・Ⅱ（必修）**（各2単位） **教師論（必修）**（2単位） **教育史（必修）**（2単位）
	9月	★特例措置申請（Googleフォーム）			
	10月		★介護等体験登録説明会 対象：中学校免許状取得希望者		
	3月	★教職課程登録説明会 対象：教職課程登録希望者 （課程登録費￥33,000）	★介護等体験次年度参加意向調査（Googleフォーム） 対象：登録者で、次年度体験実施予定者		

学年	時期	教職課程全般	介護等体験	教育実習	教職に関する科目
2年次	4～7月		★介護等体験事前ガイダンス 対象：前年度登録者で、当年度体験実施予定者 ★介護等体験直前ガイダンス 対象：前年度登録者で、当年度体験実施予定者		**教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）**（必修）（2単位） **特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）**（必修）（2単位） **特別支援教育概論**（必修）（2単位） **教科教育法A**（必修）（2単位または4単位） **教育心理学**（2単位） **青年心理学**（2単位） いずれか1科目選択必修
	8月～		介護等体験 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の計7日間		
	12月			★教育実習校開拓ガイダンス 対象：各学部2年生の課程登録者 4年次での教育実習の受入可否を出身校に各自で確認する	
	1～3月			教育実習校の開拓	
3年次	4月			教育実習準備 各教科教育法により模擬授業を経験し、その他来年度の教育実習に備えて事前準備をする	**教科教育法B**（必修）（4単位） 道徳教育の指導法（必修）（2単位） 生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）（必修）（4単位）
	12月			★教育実習事前ガイダンス 各学部3年生で、4年次に教育実習に行くにあたっての諸注意・準備等を説明する	
4年次	4月			★教育実習直前ガイダンス 対象：各学部4年生で、当年度教育実習予定者 教育実習に向けての事前指導、事務手続き・実習校への持参書類等の説明をする	教職実践演習（必修）（2単位） 教育実習（高）（3単位） 教育実習（中・高）（5単位） いずれか1科目選択必修 ※教育実習および教職実践演習を履修するためには、前年度終了までに上記**太字科目**に合格し、**計20単位（教科教育法A・B　4単位を含む）**を修得している必要がある。
	5月～			教育実習（各自日程が異なる） 前年度依頼した実習校での教育実習（2週間から4週間）	
	11月	教職免許状授与申請手続き 対象：各学部4年生で、免許状授与希望者 （申請料1科目￥3,300）			
	3月23日	免許状授与 規定の単位数を取得した後、学位記授与式（卒業式）当日に教務部にて授与			

★は説明会およびガイダンス、事前指導等　（必修）

3　免許取得の条件

中学校・高等学校教諭の免許を取得するためには、以下の事柄が必要である。

① 基礎資格として学士の学位を有すること（学部を卒業すること）。
② 「教科及び教職に関する科目」（p.176以降参照）の本学での最低必要単位数を充足させること。
③ 「教科及び教職に関する科目」以外に必要な科目（**第３表**）の本学での最低必要単位数を充足させること。なお、当該科目については早期修得が望ましい。

第３表　教科及び教職に関する科目以外に必要な科目と単位数

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目・最低修得単位数		本学開設の授業科目	本学での最低必要単位数
科　　目	単位数		
日本国憲法	2	法学（含む日本国憲法）a 法学（含む日本国憲法）b	4
体　　育	2	スポーツ・ウエルネス実技科目	2
外国語 コミュニケーション	2	Communicative English（1）a Communicative English（1）b Advanced Communicative English（1）a Advanced Communicative English（1）b Communicative English（再） 英語リスニング&スピーキング（初級）a・b 英語リスニング&スピーキング（中級）a・b 英語リスニング&スピーキング（上級）a・b	2
情報機器の操作	「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」いずれか2単位	データ解析入門Ⅰ データ解析入門Ⅱ データ分析Ⅰ データ分析Ⅱ コンピュータ・リテラシーA１ コンピュータ・リテラシーA２ コンピュータ・リテラシーB コンピュータ・リテラシーC コンピュータ・リテラシーD コンピュータ・リテラシーE	「情報機器の操作」又は「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」いずれか2単位
数理、データ活用及び人工知能に関する科目		データサイエンス概論 データサイエンス基礎	

※2022年度より、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」が追加された。
当該科目は2022年度以降に単位修得したものが対象となる。
2023年度をもって「Basic Communicative English（1）a・b」は廃講となった。修得済みの単位は、当該区分の単位に算入される。

④ 中学校免許取得希望者は特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間、合計７日間の介護等体験を行わなければならない（高等学校免許には不要。ただし、教職に就くためには、中学校・高等学校両方の免許を取得することが望ましい）。

Ⅱ 教職課程科目の履修

A 科目番号（科目ナンバリング）

［例］「教育史」

QTT _ B10 _ 1 _ 1101

①教育課程　②分野・区分・領域　③配当年次　④科目の位置づけ　⑤科目の性質　⑥識別番号

教職課程の専門科目に該当し、教育職員免許法施行規則の第３欄教育の基礎的理解に関する科目のうち教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に対応する科目であること、１年次から履修することができ、必修科目であり、免許教科に関わらず共通の科目であることを意味している。なお、他の分野・区分・領域等については以下分類表を参照のこと。
※教科に関する専門的事項に該当する科目については、各学科の科目番号（科目ナンバリング）を参照のこと。

①教育課程

Ｑ Ｔ Ｔ	教職課程

②分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	教科及び教科の指導法に関する科目	1	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	0	－
B	教育の基礎的理解に関する科目	1	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0	－
		2	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	0	－
		3	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	0	－
		4	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0	－
		5	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0	－
		6	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	0	－
C	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1	道徳の理論及び指導法	0	－
		2	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	0	－
		3	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	0	－
		4	生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	0	－
D	教育実践に関する科目	1	教育実習	0	－
		2	教職実践演習	0	－

＊領域の分類が存在しない科目群については、０を便宜上付している。

③配当年次

1	１年次から履修できる科目
2	２年次から履修できる科目
3	３年次から履修できる科目
4	４年次から履修できる科目

④科目の位置づけ

1	必修科目
2	選択必修科目

⑤科目の性質

1	免許教科共通科目
2	免許教科特定科目

⑥識別番号

各科目に適宜固有の番号を割り当てている。特段の意味を有しない。

B 「教科及び教職に関する科目」の履修

1 「教科及び教職に関する科目」の単位修得方法

免許法に規定する中学校、高等学校教諭の免許の授与を受ける場合の「教科及び教職に関する科目」の単位の修得方法は、教育職員免許法施行規則により定められている。
これに対応する本学開設の授業科目は、**第４表**のとおりである。

2 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

第４表　免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本学開設の授業科目
	教科及び教職に関する科目	左項の各科目に含めることが必要な科目	修得単位数	授業科目名
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	• 教科に関する専門的事項	－	該当ページ参照
		• 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中８ 高４	教科教育法
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育史
		• 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論
		• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）
		• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学
				青年心理学
		• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論
		• 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育の指導法
		• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法		特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）
		• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）
		• 生徒指導の理論及び方法 • 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）
第五欄	教育実践に関する科目	• 教育実習	中５ 高３	社会系教育実習（中・高） 社会系教育実習（高）
		• 教職実践演習	２	教職実践演習（中・高）

3 「教科及び教職に関する科目」と配当年次

第５表 「教科及び教職に関する科目」と配当年次

	授業科目	配当年次	単位	備考
必修	教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）	1	2	
	教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）	1	2	
	教育史	1	2	
	教師論	1	2	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	2	2	
	特別活動の指導法（総合的な学習の時間の指導法を含む）	2	2	
	特別支援教育概論	2	2	
	教科教育法Ａ	2	4	
	教科教育法Ｂ	3	4	
	生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）	3	4	
	道徳教育の指導法	3	2	
	教職実践演習（中・高）	4	2	
選択必修	教育心理学	2	2	いずれか１科目必修
	青年心理学	2	2	
	社会系教育実習（高）	4	3	いずれか１科目必修
	社会系教育実習（中・高）	4	5	

上記のほか「教科に関する専門的事項」に該当する科目がある。p.179以降参照のこと

4 履修上の注意

①「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」および「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」は、半期で同時に履修しても、どちらから先に履修しても、また、異なる担当者の科目を履修しても構わない。

② **第５表**に掲げる科目（「教育原論Ⅰ」・「教育原論Ⅱ」・「教師論」・「教育史」を除く）を履修するには、教職課程登録が必要となる。登録者は、配当年次に従い履修すること。これにより、**第６表**の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」も充足される。なお、「教科及び教職に関する科目」の修得単位は、「教科に関する専門的事項」に該当する科目の一部を除き卒業および進級に必要な単位数に算入することはできない。

③「教科教育法」は、取得を希望する免許ごとに履修しなければならない。

④「社会科・地理歴史科教育法Ａ・Ｂ」、「社会科・公民科教育法Ａ・Ｂ」、「道徳教育の指導法」、「生徒指導論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）」、「教職実践演習」は２コマずつ開講するが、履修登録の際は学科指定があるので注意すること。
なお、本学部で履修できる各教科教育法の種類は、下記のとおりである。
社　　会：社会科・地理歴史科教育法Ａ、社会科・公民科教育法Ａ
　　社会科・地理歴史科教育法Ｂもしくは社会科・公民科教育法Ｂ
公　　民：社会科・公民科教育法Ａ、社会科・公民科教育法Ｂ
地理歴史：社会科・地理歴史科教育法Ａ、社会科・地理歴史科教育法Ｂ

⑤「教科に関する専門的事項」に該当する科目については、免許の校種や教科により、必修・選択必修の別、および、修得すべき単位数が異なる。詳細はp.179以降を参照のこと。

⑥ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新授業科目	旧授業科目
2023年度	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学

5 教育実習および教職実践演習を履修するための条件

４年次で「社会系教育実習」および「教職実践演習」を履修するためには、３年次終了までに**第６表**の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」に定める科目の単位を修得していなければならない。
なお、この条件を満たさないと、４年次に教育実習を行うことができず、４年間で教育職員免許状を取得することができなくなるので注意すること。
また、「教職実践演習」は、「教育実習」を履修する年度よりも前に履修することはできない。

第６表　「教育実習および教職実践演習」を履修するための条件

①教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（２単位）	②教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（２単位）
③教師論（２単位）	④教育史（２単位）
⑤特別活動の指導法（２単位）	
⑥教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）（２単位）	
⑦教育心理学または青年心理学（２単位）	⑧特別支援教育概論（２単位）
⑨教科教育法ＡまたはＢ（４単位）	計20単位

6 履修科目登録上限単位数の特例措置

「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目は、下記のとおり年次ごとに定められている履修科目登録超過可能単位数まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定 Ⅰ 総説 B 履修単位制限 2 履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
なお、超過する単位数が不適正であり、是正の指示があった場合はそれに従うこと。

【2022年度以降入学者】

- １年次に、教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手続を行うとともに、**１年次前期末GPAが2.5以上の学生は**、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教育史」、「教師論」の８単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ２年次以降に、教職課程に登録している学生のうち、直近の年度GPAが2.5以上の場合、他の授業科目と合わせて76単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて、「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目を履修登録することができる。
- ２年次以降に特例措置を受けている者のうち、前期末GPAが2.5未満の学生については、改善を促す働きかけを教職課程担当教職員より行う。また、直近の年度GPAが2.5未満の学生に対しては教職課程担当教職員が面談を行い、教職課程継続への意思確認を行うとともに、今後の単位修得状況改善計画書を提出させ、その内容について教職課程担当教職員にて検討を行い、妥当と判断された場合に特例措置の適用を認める。

【2021年度以前入学者】

- １年次に、教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手続を行った学生は、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教育史」、「教師論」の８単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ２年次以降に、教職課程に登録している学生は、他の授業科目と合わせて76単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて、「教科及び教職に関する科目」のうち卒業要件とならない科目を履修登録することができる。

C 「教科に関する専門的事項」に該当する科目の履修

1 「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得方法

免許法施行規則に定められた「教科及び教職に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」に該当する科目の単位の修得方法については、**第７表**以降を参照のこと。

第７表 「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（社会）

経 済 学 科 ・ 経 営 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する専門的事項	最低修得単位数	１年	２年	３年	４年		
1	日本史・外国史	１以上	○外国史概説Ａ・Ｂ 外国文化Ⅰａ・Ⅰｂ 外国文化Ⅱａ・Ⅱｂ 外国文化Ⅲａ・Ⅲｂ 外国文化Ⅳａ・Ⅳｂ	○※日本史概説ａ・ｂ 経営史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 東洋経済史Ⅰ・Ⅱ			8	全体で【経済学科】30単位以上【経営学科】28単位以上
2	地理学 （地誌を含む。）	１以上		○※地理学講義ａ・ｂ ○※地誌学ａ・ｂ ※人文地理学ａ・ｂ			8	
3	「法律学、政治学」	１以上	○法学（含む日本国憲法） ａ・ｂ		国際法Ⅰ 国際法Ⅱ		4	
4	「社会学、経済学」	１以上	【経済学科のみ】 ○マクロ経済学入門・演習 ○ミクロ経済学入門・演習 【経営学科のみ】 ○経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	医療経済論Ⅰ・Ⅱ 開発経済学Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論Ⅰ・Ⅱ 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経済統計論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会政策Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 人的資源論Ⅰ・Ⅱ 統計学 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ			【経済学科】 6 【経営学科】 4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	１以上		★※哲学講義ａ・ｂ ★※宗教学講義ａ・ｂ ★※倫理学講義ａ・ｂ			4	

注１）**○印の科目（ａ・ｂ等に分かれている科目は両方）は必修である。また、★印の科目は、同一科目「ａ・ｂ」一組が選択必修である。**
注２）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注３）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。
注４）2024年度をもって「ミクロ経済学概論」および「マクロ経済学概論」は廃講となった。
　　2024年度までに修得済みの単位は、当該区分の単位に算入される。

第８表　「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（地理歴史）

経 済 学 科 ・ 経 営 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する専門的事項	最低修得単位数	１年	２年	３年	４年		
1	日本史	１以上		○※日本史概説ａ・ｂ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ			4	全体で28単位以上
2	外国史	１以上	○外国史概説Ａ・Ｂ 外国文化Ⅰａ・Ⅰｂ 外国文化Ⅱａ・Ⅱｂ 外国文化Ⅲａ・Ⅲｂ 外国文化Ⅳａ・Ⅳｂ	○　経営史Ⅰ・Ⅱ △　西洋経済史Ⅰ・Ⅱ △　東洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ			12	
3	人文地理学・自然地理学	１以上		○※地理学講義ａ・ｂ ○※人文地理学ａ・ｂ			8	
4	地誌	１以上		○※地誌学ａ・ｂ			4	

注１）**○印の科目（ａ・ｂ等に分かれている科目は両方）は必修である。**
注２）△印の科目は、同一科目「Ⅰ・Ⅱ」一組が選択必修である。
注３）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注４）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。

第９表　「教科に関する専門的事項」に該当する科目と最低必要単位数（公民）

経 済 学 科 ・ 経 営 学 科

系列	免許法による規定		配当年次				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	１年	２年	３年	４年		
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	１以上	○法学（含む日本国憲法）ａ・ｂ		△国際法Ⅰ △国際法Ⅱ		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たし、全体で26単位以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	１以上	【経済学科のみ】 ○マクロ経済学入門・演習 ○ミクロ経済学入門・演習 【経営学科のみ】 ○経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	○　国際貿易論Ⅰ・Ⅱ ◇　経営管理論Ⅰ・Ⅱ ◇　経営戦略論Ⅰ・Ⅱ ◇　経営組織論Ⅰ・Ⅱ 医療経済論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論Ⅰ・Ⅱ 経済統計論 開発経済学Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会政策Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 人的資源論Ⅰ・Ⅱ 統計学 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ			14	
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	１以上		★※哲学講義ａ・ｂ ★※宗教学講義ａ・ｂ ★※倫理学講義ａ・ｂ			4	

注１）**○印の科目（ａ・ｂ等に分かれている科目は両方）は必修、△印の科目は１科目選択必修である。また、★印の科目は、同一科目「ａ・ｂ」一組が選択必修である。**
注２）◇印の科目は、経済学科は２科目４単位、経営学科は３科目６単位が選択必修である。
注３）※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には加算されない。
注４）網掛けの科目は、一般的包括的内容を含む科目である。
注５）2024年度をもって「ミクロ経済学概論」および「マクロ経済学概論」は廃講となった。
2024年度までに修得済みの単位は、当該区分の単位に算入される。

Ⅲ 教職課程の説明会・ガイダンス

教職課程に取り組むに当たっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。**なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。**
日程の詳細は巻頭の『経済学部　履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。場所等についてはLiveCampusU等で案内する。

1 教職課程ガイダンス（対象：1年次生）

教職課程の登録は２年次に行われるが、登録を検討している１年次生を対象として、教職課程の概要、１年次に履修できる科目等に関する説明をオンデマンド方式で行う。なお、このガイダンスを受講し、説明された内容を修得することが、１年次において履修登録上限単位数の特例措置を受けるための条件の１つとなる。教育職員免許取得を希望している学生は、必ず受講すること。

2 教職課程登録説明会（対象：１年次生）

教育職員免許の取得を希望する学生は、２年次に進級する直前に開催される教職課程登録説明会に出席し、教職課程の登録手続きを行わなければならない。**この登録手続きを怠ると、教職課程科目の履修ができず、教育職員免許を取得することができない。**

〈教職課程費〉
※ 課程登録に当たっては、教職課程費（33,000円）を所定の期間に納入しなくてはならない。一度納入した教職課程費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後やむを得ず辞退する場合は、すみやかに教務部で辞退の手続きをすること。

3 教育実習校開拓ガイダンス（対象：２年次生）

４年次に教育実習をするためには、学生自ら実習校を開拓しなければならない。そのために２年次後期に出身校等に教育実習の依頼をし、受け入れの可否を確認することとなる。このとき内諾を得た場合は、その旨を大学（教務部）に報告すること。大学より実習校に依頼状を送付し、その返事として実習校から「受入承諾書」が大学宛に届いて、はじめて４年次の実習が可能となる。
また、３年次の４月初旬には、内諾を得た教育実習校と再度連絡をとり、あらためて挨拶をし、書類等必要事項の確認をする。その結果を教務部に報告し、今後の手続きを進めていくこととなる。
４年次に教育実習を希望する者は必ず出席すること。

4 教育実習事前ガイダンス（対象：3年次生）

一般的に教育実習は、４年次の４～６月に実施することになる（実習校によっては、秋になることもある）。３年次で学習した教科教育法が理論的なアプローチとすれば、教育実習は、文字どおり実践的なアプローチといえよう。教育実習は、通年授業の中で２～４週間、大学を離れて中学校または高等学校という教育現場で行われる授業であり、本学では事前および事後の指導が教科教育法および教育実習担当者により綿密に行われている。
本ガイダンスでは、講師から教育実習への心構えや諸注意について、また本年度に実習を経験した学生から体験談・アドバイス等を講演してもらうので、翌年度の教育実習に向けての準備に役立てて欲しい。翌年度に教育実習を予定している者は必ず出席すること。

5 教育実習直前ガイダンス（対象：4年次生）

講師による教育実習全般の諸注意、教育実習日誌の記入方法等についての指導、および教務部から教育実習日程等の連絡、教育実習日誌配付等の事務連絡を行う。本年度の教育実習予定者は、必ず出席すること。

6 介護等体験

「介護等体験特例法」（平成９年法律第90号）および「介護等体験特例法施行規則」（平成９年文部省令第40号）の施行により、中学校教育職員免許の取得を希望する学生は、入学から卒業までの間に社会福祉施設（高齢者福祉施設や生活訓練施設等）で５日間、特別支援学校で２日間、合計７日間介護・介助を行うことが義務付けられている。
これに伴い本学では、下記のとおり説明会・ガイダンスを開催する。

① 介護等体験登録説明会
対　象　翌年度介護等体験希望者

② 介護等体験事前ガイダンス
対　象　前年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

③ 介護等体験直前ガイダンス
対　象　前年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

Ⅳ 教育職員免許状の申請等

A 教育職員免許状取得見込証明書の発行（４年次）

教員採用試験等に必要な標記証明書は教務部にて発行する。

B 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付（４年次）

3月卒業見込みの４年次生は、本学をとおして東京都教育委員会にて教員免許取得に必要な単位数の審査を受けることができる。この審査に合格した者については、学位記授与式（卒業式）当日に免許状が交付される。
免許取得に必要な単位を修得し、3月に卒業確定した者については、LiveCampusUで卒業確定者発表と同時に免許取得者の発表を行う。
本件に関する関連事項の手続きとおおよその日程は下記のとおりである。詳細は、LiveCampusUにて別途案内する。
なお、この手続きを怠ると個人申請することになるので注意すること。

免許状記載項目等の確認手続（４年次の11月）

また、秋（9月）卒業する学生については、卒業後に個人申請にて免許状を取得する必要がある。そのため、学位記授与日当日に免許状が交付されない。詳しくは教務部教職課程担当に確認すること。

免許取得後における教育職員免許状授与証明書の発行、免許状の書き換え、再交付等の申請は、免許状授与権者である東京都教育委員会に各人が行うこと。問い合わせ先は、下記のとおりである。

東京都教育庁人事部選考課 免許担当
〒163-8001　新宿区西新宿2 - 8 - 1　第二本庁舎14階
TEL：03-5320-6788　メールアドレス：S9000017@section.metro.tokyo.jp

学則・その他

成城大学学則
成城大学学位規則

大学ホームページ
【成城大学について／大学概要／学則】
https://www.seijo.ac.jp/about/outline/policies/

キャンパスマップ

大学ホームページ
【成城大学について／キャンパスマップ】
https://www.seijo.ac.jp/about/map/

成城大学 経済学部
履 修 の 手 引

2025年4月発行

〒157-8511　東京都世田谷区成城6－1－20
成城大学 教務部
TEL. 03-3482-9045

授業科目の新設・名称変更・廃講　一覧表

授業科目の新設

新設年度	授　業　科　目　名		備　　考
2025年度	基礎ゼミナール		経済学科：専門科目　ゼミナール 経営学科：専門科目　ゼミナール
	ゲーム理論入門		経済学科：専門科目　専門基礎選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	経済史入門A	経済史入門B	経済学科：専門科目　専門基礎選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	社会問題基礎	社会科学基礎	経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目 ※経営学科のみ履修可
	キャリア・ベーシックⅠ～Ⅲ キャリア・エクスペリエンス ワーク・キャリアⅠ～Ⅲ	キャリア・プラクティスⅠ～Ⅵ ライフ・キャリアⅠ～Ⅲ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	ラグビー（A）	ラグビー（B）	経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2024年度	産業組織論Ⅰ	産業組織論Ⅱ	経済学科：専門科目　専門選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	環境経済学Ⅰ	環境経済学Ⅱ	経済学科：専門科目　専門選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	マーケティング・サイエンス		経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	流通論		経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	デジタル・マーケティング		経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	Japan Studies ⅨA	Japan Studies ⅨB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	海外短期語学研修(スペイン語･春季)	海外短期語学研修(スペイン語･夏季)	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	日本語(初級1)Ⅰ～Ⅱ 日本語(中級)Ⅰ～Ⅳ	日本語(初級2)Ⅰ～Ⅲ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	ヨーロッパの文化特殊講義a ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰ(独)	ヨーロッパの文化特殊講義b ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱ(仏)	経済学科：自由設計科目　一般科目　他学部開設科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　他学部開設科目
2023年度	Special Topics ⅤA	Special Topics ⅤB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	言語学特殊講義Ⅰ(独)	言語学特殊講義Ⅱ(仏)	経済学科：自由設計科目　一般科目　他学部開設科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　他学部開設科目
2022年度	ツーリズム・マーケティング論Ⅰ	ツーリズム・マーケティング論Ⅱ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム データサイエンス特殊講義Ⅰ～Ⅳ 機械学習応用		2022年度以降入学者のみ履修可 経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	数理科学基礎a･b 数理科学応用a･b		経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2021年度	サービス・マーケティング論Ⅰ	サービス・マーケティング論Ⅱ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	広域芸術論講義	広域芸術論特殊講義	経済学科：自由設計科目　一般科目　他学部開設科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　他学部開設科目
	日本語（初級）ⅠA・ⅠB 日本語（初級）ⅡA・ⅡB	日本語（初級）ⅢA・ⅢB 日本語（初級）ⅣA・ⅣB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2020年度	韓国語会話選択a･b ディプロム・コース中級（スペイン語）a･b	ディプロム・コース中級（韓国語）a･b	経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目

2019年度	ミクロ経済学Ⅰ　ミクロ経済学Ⅱ	経済学科：専門科目　専門基礎選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目
	EAP（English for Academic Purposes）a・b TOEFLa・b	経済学科：自由設計科目　推奨科目　教養科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　経済学部開設・教養科目
	成城インターンシップ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	日本語（初級）ⅠA・ⅠB　日本語（中級）ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB 日本語（上級）ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2018年度	TOEIC（特級）Ⅱa・Ⅱb 中国語（特級）a・b	経済学科：自由設計科目　推奨科目　教養科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　経済学部開設・教養科目
	Special Topics ⅣA・ⅣB　海外短期語学研修（英語・夏季） 海外短期語学研修（英語・春季） 海外短期語学研修（独語・春季） 海外短期語学研修（仏語・春季） 海外短期語学研修（中国語・夏季） 海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	英語リスニング＆スピーキング（初級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（中級）a・b 英語リスニング＆スピーキング（上級）a・b 英語リーディング＆ライティング（初級）a・b 英語リーディング＆ライティング（中級）a・b 英語リーディング＆ライティング（上級）a・b 英会話選択a・b　仏語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb ビジネス英語a・b　仏語選択（中級）a・b 英文多読a・b　スペイン語選択（初級）a・b Academic Communication a・b　スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b 独会話選択a・b　中国語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb 独語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb　中国語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb 独語選択（初級）Ⅱa・Ⅱb　中国語選択（中級）a・b 独語選択（中級）a・b　韓国語選択（初級）a・b 仏会話選択a・b　韓国語選択（中級・ディプロム）a・b 仏語選択（初級）Ⅰa・Ⅰb	経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目

授業科目の名称変更

変更年度	新授業科目名	旧授業科目名	備考
2024年度	消費者行動論	消費者行動論Ⅰ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	プログラミングと機械学習Ⅰ	コンピュータ論Ⅰ	
	プログラミングと機械学習Ⅱ	コンピュータ論Ⅱ	
2022年度	データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ	
	データアナリティクス応用	データサイエンス応用	
	機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	
2018年度	英経済書講読Ⅰ・Ⅱ	英経済書講読A・B	経済学科：専門科目　専門選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	TOEIC（特級）Ⅰa	TOEIC（特級）a	経済学科：自由設計科目　推奨科目　教養科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　経済学部開設・教養科目
	TOEIC（特級）Ⅰb	TOEIC（特級）b	
	ディプロム・コース中級（独語）a	ディプロム・コース中級（独語）A	経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	ディプロム・コース中級（独語）b	ディプロム・コース中級（独語）B	
	ディプロム・コース上級（独語）a	ディプロム・コース上級（独語）A	
	ディプロム・コース上級（独語）b	ディプロム・コース上級（独語）B	
	ディプロム・コース中級（仏語）a	ディプロム・コース中級（仏語）A	
	ディプロム・コース中級（仏語）b	ディプロム・コース中級（仏語）B	
	ディプロム・コース上級（仏語）a	ディプロム・コース上級（仏語）A	
	ディプロム・コース上級（仏語）b	ディプロム・コース上級（仏語）B	

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授　業　科　目　名		備　　考
2024年度	２年次ゼミナール		経済学科：専門科目　ゼミナール 経営学科：専門科目　ゼミナール
	ミクロ経済学概論	マクロ経済学概論	経済学科：専門科目　専門基礎選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	経済と社会Ⅰ	経済と社会Ⅱ	経済学科：専門科目　専門基礎選択科目
	社会問題入門	社会科学入門	経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目 ※経営学科のみ廃講
	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ プロジェクト演習 成城インターンシップ 業界企業分析 職業選択 キャリア・プランニング・プログラムⅠ 時事英語Ⅰ 時事問題研究	 キャリア・プランニング・プログラムⅡ 時事英語Ⅱ	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2023年度	基礎英語読解(1)a Basic Communicative English(1)a 基礎英語読解(2)a Basic Communicative English(2)a 基礎TOEIC a	基礎英語読解(1)b Basic Communicative English(1)b 基礎英語読解(2)b Basic Communicative English(2)b 基礎TOEIC b	経済学科：基礎科目　語学　英語 経営学科：基礎科目　語学　英語
	ビジネス概論Ⅰ	ビジネス概論Ⅱ	経営学科：基礎科目　初年次教育科目
	消費者行動論Ⅱ		経済学科：自由設計科目　推奨科目　専門選択関連科目 経営学科：専門科目　専門選択科目
	産業経済学		経済学科：専門科目　専門選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　経済学関連科目
	Oceanian Studies A	Oceanian Studies B	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	日本語(初級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB 日本語(上級)ⅤA・ⅤB	日本語(中級)ⅠA・ⅠB～ⅣA・ⅣB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独) ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独) ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)	経済学科：自由設計科目　一般科目　他学部開設科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　他学部開設科目
2022年度	Academic Skills ⅥA	Academic Skills ⅥB	経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独) ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏) ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)	経済学科：自由設計科目　一般科目　他学部開設科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　他学部開設科目
2021年度	有価証券法		経済学科：自由設計科目　推奨科目　法学関連科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目　法学関連科目
	数理科学Ⅰa～Ⅱb		経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2020年度	日本語（初級）ⅠA・ⅠB		経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2019年度	Academic Communication a・b スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b	韓国語選択（中級・ディプロム）a・b	経済学科：自由設計科目　一般科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目
2018年度	ミクロ経済学		経済学科：専門科目　専門基礎選択科目 経営学科：自由設計科目　専門関連科目
	選択英語a・b		経済学科：自由設計科目　推奨科目　教養科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　経済学部開設・教養科目
	日本語A・B		経済学科：自由設計科目　推奨科目　全学共通教育科目 経営学科：自由設計科目　教養科目　全学共通教育科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。